

模擬問題 1**【小型船舶操縦者の心得及び遵守事項】****問1 小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。**

- (1) 海上での信号や標識は、小型船舶の航行には関係がない。
- (2) 自分さえ安全ならば、速力を上げて航行してもよい。
- (3) 沿岸付近を航行するときには、陸上との連絡手段を持つ必要はない。
- (4) 太陽光の水面反射によって、水面の状況が分かりにくいことがある。

問2 航行中のヨットの特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 帆走中に風を受ける舷^{びん}を変える際、急に大きく針路を変える場合がある。
- (2) 大きな帆が死角となるため、周囲の状況が十分に確認できない場合がある。
- (3) 帆走中の操船は風に左右されるため、自由自在に航行することが難しい。
- (4) 帆走だけでは、風上の目標に到達することができない。

問3 沿岸漁業に対する注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 養殖漁業の網やいかだは、見えにくい場合があるので注意する。
- (2) 引き縄漁船の引き縄は長さが数十メートルにもなるので、後方を横切るときは十分離れる。
- (3) 仕掛けられた刺し網やはえ縄には目印のブイや旗竿^{はたきお}が付いているので、避けて航行する。
- (4) 定置網の中を通り抜けるときは、できるだけ低速で航行する。

問4 プレジャーボートの運航不能(機関故障)事故の主な発生原因は、次のうちどれか。

- (1) 船位不確認 (2) 操船不適切 (3) 機関取扱不良 (4) 気象海象不注意

問5 小型船舶の船長がとった行動として法令に違反するものは、次のうちどれか。

- (1) 操縦免許証をしばらく他人に貸した。 (2) 船舶検査証書を船内に備えて航行した。
- (3) 船舶検査手帳を船内に備えて航行した。 (4) 法定備品を船内に備えて検査を受けた。

問6 車を利用してポートや水上オートバイを持ち込む場合のマナーについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 空き地であっても、許可なく車で乗り入れないようにする。
- (2) 駐車禁止場所や他の人の迷惑になる場所に、駐車ないようにする。
- (3) 燃料やオイルを、海岸に捨てたりこぼしたりないようにする。
- (4) 艇を降ろした後、トレーラーはそのまま水際に置いておくようにする。

問7 小型船舶の船長が、出航するときに家族やマリナーなどに知らせておかなければならない事項として最も重要なものは、次のうちどれか。

- (1) 航行予定水域 (2) 機関の出力 (3) 燃料の搭載量 (4) 免許の種類

問8 電話番号「118番」により海上保安庁へ通報する場合として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 海岸や海上で不審な船舶や人物を発見したとき。
- (2) 海上で海難事故を起こしたとき、または事故を目撃したとき。
- (3) 海上で船舶の航行に支障があるような漂流物を発見したとき。
- (4) 初めて航行する水域の気象情報について問い合わせるとき。

問9 小型船舶の船長の遵守事項として適切でないものは、次のうちどれか。(小型船舶操縦者法)

- (1) 発航前に燃料及び潤滑油^{じゆんかつゆ}の量を点検すること。
- (2) 酒に酔った状態であっても、有資格者である船長が操縦を行うこと。
- (3) 航行中も錨泊^{びようはく}中もいつでも適切な見張りを行うこと。
- (4) 操縦する小型船舶に差し迫った危険があるときは、人命の救助に必要な手段を尽くすこと。

問10 技能限定の付かない二級小型船舶操縦士の免許は満何歳から取得できるか。次のうちから選べ。(小型船舶操縦者法)

- (1) 16歳 (2) 18歳 (3) 20歳 (4) 22歳

解答 問1 (4) 問2 (4) 問3 (4) 問4 (3) 問5 (1) 問6 (4) 問7 (1) 問8 (4) 問9 (2) 問10 (2)

※問10・・・2級は16歳から取得できますが、18歳の誕生日になるまで5トン限定がつきます。(技能限定)

問11 最大搭載人員が5人のレンタルボートで航行する場合、法令違反となるのは、次のどの組合せか。(船舶安全法)

	大人(20歳以上)	小人(年齢の内訳)
(1)	1人	8人(全て10歳)
(2)	3人	3人(6歳、10歳、12歳)
(3)	4人	2人(6歳、12歳)
(4)	2人	5人(6歳2人、10歳2人、12歳1人)

問12 迷惑防止と環境保全について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

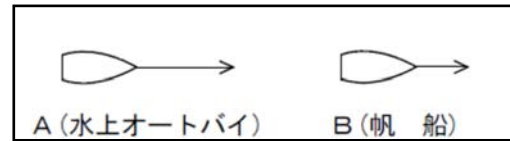
- (1) 住宅地付近の浜辺では、早朝や深夜にはエンジンの始動を行わないようにする。
- (2) 付近の住民の迷惑となるので、必要のない空吹きを行わないようにする。
- (3) 大気汚染などを招くので、エンジンの悪質な改造を行わないようにする。
- (4) 出航するときにはできるだけ速力を上げて、早く岸から離れるようにする。

【交通の方法】

問13 右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越す場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

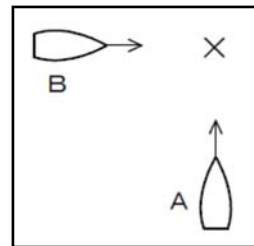
- (1) Aは針路を保って航行しなければならない。
- (2) BはAの進路を避けなければならない。
- (3) AはBの進路を避けなければならない。
- (4) Bは速力を落として航行しなければならない。



問14 右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り×印の付近で衝突するおそれがあるとき、A船はどのようにしたらよいか。

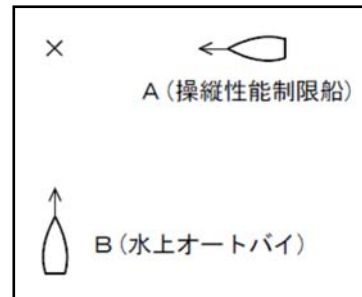
次のうちから正しいものを選び。(海上衝突予防法)

- (1) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
- (2) 速力を上げながら右転して、Bの船首方向を通り過ぎる。
- (3) 針路を左に転じて、Bの船尾方向を通り過ぎる。
- (4) エンジンを停止して、Bが通り過ぎるのを待つ。



問15 右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (3) Bは速力を上げて、Aの船首方向を横切る。
- (4) Aは停船して、Bが通り過ぎるのを待つ。



問16 安全な速力について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。(海上衝突予防法)

- (A) 適切かつ有効な避航動作をとることができる速力をいう。
 (B) そのときの状況に適した距離で停止することができる速力をいう。
 (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

問17 狭い水道等を航行する場合は、できる限り、どのように航行しなければならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 左側端に寄って航行する。(2) 右側端に寄って航行する。
- (3) 速力を上げて航行する。(4) 水道の中央部を航行する。

問18 他船との衝突を避けるため、針路を右に転じている船舶が行わなければならない汽笛信号は、次のうちどれか。

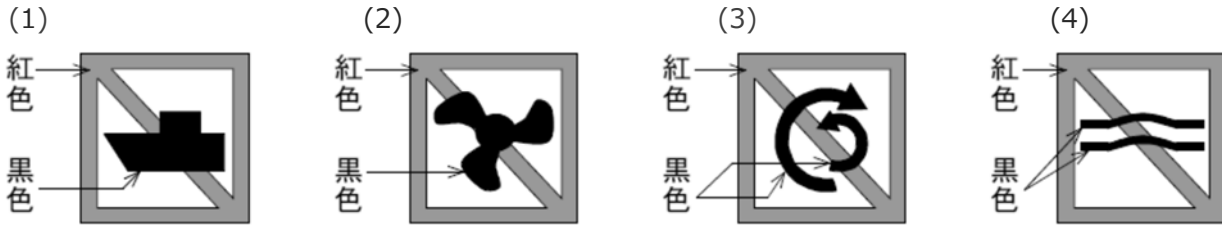
(海上衝突予防法)

- (1) 短音1回 (2) 短音2回 (3) 短音3回 (4) 短音5回

=====

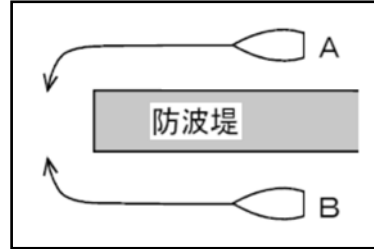
解答 問11 (3) 問12 (4) 問13 (3) 問14 (1) 問15 (2) 問16 (3) 問17 (2) 問18 (1)

問19 次の河川通航標識のうち「回転禁止」を表すものはどれか。(河川法)



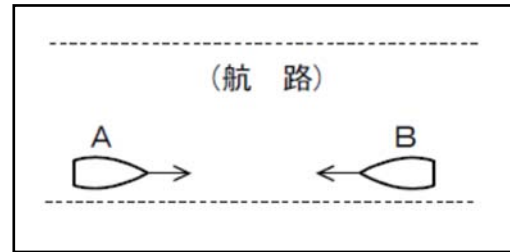
問20 港内を、右図に示すように航行する場合のA、B両船の航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) A、Bともに防波堤から遠ざかって航行する。
- (2) Aは防波堤から遠ざかって航行し、Bは防波堤に近寄って航行する。
- (3) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。
- (4) Aは防波堤に近寄って航行し、Bは防波堤から遠ざかって航行する。



問21 右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が航路内で行き会うときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) Aは針路を左に転じ、航路の左側を航行する。
- (2) Bは針路を右に転じ、航路の右側を航行する。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。



問22 海上交通安全法で定める航路を航行しなければならないのは、長さ何メートル以上の船舶か。次のうちから選べ。

- (1) 5メートル (2) 12メートル (3) 20メートル (4) 50メートル

【運航】

問23 自家用車で水上オートバイをゲレンデに持ち込む場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 水上オートバイを降ろした岸边以外の場所には駐車しないようにする。
- (2) 陸上の植物群の保護のため、道路以外の場所へ入らないようにする。
- (3) 砂浜の入口を車両でふさいで、場所取りをしないようにする。
- (4) 環境保護のため、車両で直接砂浜へ乗り入れないようにする。

問24 二級と特殊の小型船舶操縦士の資格を持った者が水上オートバイを操縦する場合、航行できる水域として正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 湖及び川のすべての水域 (2) 母船から半径3海里以内の水域
- (3) 原則として陸岸から5海里以内の水域 (4) 原則として陸岸から2海里以内の水域

問25 水上オートバイが高速状態から急減速した場合、方向転換がしにくくなる理由として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) ジェット噴流の推進力よりも前進惰力たいりょくのほうが大きくなるため。
- (2) 水の抵抗に加えて風の抵抗を大きく受けるため。
- (3) 急激にエンジンの出力が小さくなって艇体に大きな負荷がかかるため。
- (4) 急激な速力の変化があるとハンドルが動かなくなるため。

問26 水上オートバイのシフト機構について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) シフト機構を利用することで、狭い水域で方向転換することができる。
- (2) シフト機構により水の吸入口を変え、艇体を静止させることができる。
- (3) 機種によって操作レバーの取付け位置が違う場合があるので、乗艇前に確認しておく。
- (4) あらかじめ後進側にシフトしてエンジンを始動することで、始動直後の飛び出しを防止できる。

=====

解答 問19 (3) 問20 (2) 問21 (2) 問22 (4) 問23 (1) 問24 (4) 問25 (1) 問26 (2)

問27 操縦の基本操作について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 低速走行時は、スロットルレバーを適切に操作してふらつかないようにする。
- (2) スロットルレバーの操作はゆっくりとなめらかにいき、急激な操作は控える。
- (3) 高速での旋回は、ハンドル操作とスロットル操作に加え、体重移動も行う。
- (4) 急減速するときは、エンジンを止めてからシフトを後進に入れる。

問28 転覆した水上オートバイを復原する(引き起こす)場合、回転方向を指定している機種があるが、その理由として適切なものは、次のうちどれか。

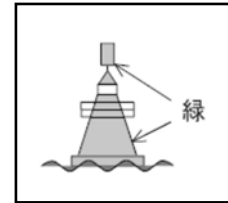
- (1) エンジン内部に水が入らないようにするため
- (2) 燃料タンクから燃料が表れないようにするため
- (3) バッテリー内に水が入らないようにするため
- (4) エンジンオイルが漏れないようにするため

問29 荒天時に走行中、波間で艇体のはね上がった場合の危険性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 着水時の衝撃で胸やあごをハンドルバーにぶつけるおそれがある。
- (2) 着水時の衝撃でリバースゲートのはね上がり、急加速するおそれがある。
- (3) 着水時の衝撃で艇体やエンジンが損傷するおそれがある。
- (4) 着水時の衝撃で同乗者が落水するおそれがある。

問30 複数の水上オートバイでツーリングをする場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 万一の故障や事故などに備えて、走行ルート周辺の陸上施設を調べておく。
- (2) 後ろの艇は、引き波の影響を受けないように、前の艇のすぐ真後ろを走特する。
- (3) 事前に休憩場所や給油場所を決めておき、はぐれても連絡できるよう通信手段を用意する。
- (4) 出発する前に先導役や走行順を決めておき、出発後は同行艇を確認しながら走行する。



問31 右図に示す標識は、次のうちどれか。

ただし、赤は標体の塗色を示す。

- (1) 右舷標識 (2) 左舷標識
- (3) 孤立障害標識 (4) 特殊標識

問32 30ノットで走行している水上オートバイが2海里を走行するのに要する時間は、次のうちどれか。

ただし、風潮流の影響はないものとする。

- (1) 1分 (2) 2分 (3) 3分 (4) 4分

問33 発航前の点検事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ハンドルやスロットルレバーに引っかかりがなく、なめらかに動くことを確認する。
- (2) ジェットインテークやジェットノズルなどにゴミがからみ付いていないことを確認する。
- (3) エンジンルーム内にビルジがなく、ドレンプラグが開いていることを確認する。
- (4) シートやハッチなどの開口部が閉じられ、確実にロックされていることを確認する。

問34 海で使用した水上オートバイを格納する前に行う作業として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 艇体にワックスをかけ、屋外で保管する場合はカバーを掛けておく。
- (2) ライフジャケットは清水で洗って塩分を落とし、十分に乾燥させておく。
- (3) 屋内で保管する場合は、シートを少しずらして通気を良くしておく。
- (4) 燃料タンクを取り外して、タンク内に清水を満たしておく。

問35 走行中、エンジンの異常を知るための手掛かりとして適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) エンジン音 (2) 排気色 (3) 振動 (4) トリム

問36 「雪」を表す天気記号(日本式)は、次のうちどれか。

- (1) ● (2) ⊙ (3) ⊕ (4) ⊗

=====

【解答】 問27 (4) 問28 (1) 問29 (2) 問30 (2) 問31 (2) 問32 (4) 問33 (3) 問34 (4) 問35 (4) 問36 (4)

※問32・距離÷速力＝所要時間 2(海里)÷30(ノット)＝1/15(時間)＝4分

※問35・「トリム」とは艇の前後の傾き。半滑走状態で前部が持ち上がることを「過大な船尾トリム」という。

問37 離岸流(リップカレント)について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 海岸に打ち寄せた波が、陸岸と平行に流れて互いにぶつかり合うことにより発生する。
- (2) 風潮流や海底地形などの自然条件によっては、非常に速い流れが発生する場合がある。
- (3) 岸から沖へ向かう流れであるため、離岸流に乗ると沖の方向へ流されてしまう。
- (4) 離岸流に乗ってしまった場合は、流れに逆らって泳ぎ続けながら、流れが収まるのを待つ。

問38 次の月の見え方のうち、潮の干満差が最も小さくなるのはどれか。



問39 水上オートバイによる海難事故の種類とその防止対策を示した次の組合せのうち、適切でないものはどれか。

- (1) 浸水 ……水上に降ろす前に、ドレンプラグを確実に閉めておく。
- (2) 衝突 ……他船を早期に発見するため、前方の見張りだけに集中する。
- (3) 運航不能(機関故障) ……出航前の点検を適切に行い、浮遊物などは避けて走行する。
- (4) 乗揚げ ……事前に航行する水域を調べておき、危険な水域へは近寄らないようにする。

問40 救命設備の取扱いについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 信号紅炎は、点火したらすぐに水面に投下する。
- (2) ライフジャケットは、体型に合ったものを着用する。
- (3) 信号紅炎は、救助を求めるときにだけ使用する。
- (4) ライフジャケットは、ベルトやひもをしっかり締める。

問1～問12	問13～問22	問23～問40	合計
/12 正解	/10 正解	/18 正解	/40 正解

各科目50%以上、合計26問以上正解で合格。(1.2級所持者は問23～問40の中で12問以上正解で合格)

=====

解答 問37 (4) 問38 (2) 問39 (2) 問40 (1)

模擬問題 2

【小型船舶操縦者の心得及び遵守事項】

問1 小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) まわりよりも白波が多く立っている水面は、その下に障害物や浅瀬が存在していることがある。
- (2) 太陽の光を背にして航行していると、前方にある船やゴミが見えなくなってしまうことがある。
- (3) 潮流の強いところでは、思った以上に速力がよがったり下がったりしてしまうことがある。
- (4) 自船の位置を確認しておかないと、気付かないうちに危険な場所に近づいてしまうことがある。

問2 大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ブリッジからは周りをよく見渡せるので、近くにいる小型船舶の動きがよく分かる。
- (2) 舵効きが悪い^{かじま}ため、舵を取ってから実際に針路が変わるまでに時間がかかる。
- (3) 緊急にエンジンを停止しても、すぐには停船することができない。
- (4) 狭い水道などでは、自船の針路を保つことに精一杯で、他の船舶を避けることが難しい。

問3 養殖漁業について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 一定の区域に施設を設置して、カキや魚類、ノリなどを養殖している。
- (2) 養殖施設は、海岸に近い水域に密集して設置されることが多い。
- (3) 養殖される魚の種類によってさまざまな施設があり、同じ種類でも地域によって形状が違う。
- (4) 養殖用のいかだやいけすは常に水面下に設置されていて、水上からは全く見えない。

問4 プレジャーボートの海難種類と、その主要な原因の組合せとして正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 運航不能(機関故障)・・・気象海象不注意
- (2) 衝突・・・見張り不十分
- (3) 転覆・・・・・・・・・・・・・・・・船位不確認
- (4) 乗揚げ・・・操船不適切

問5 小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 同乗者の安全よりも、船体の安全を第一に考えなければならない。
- (2) 同乗者の行動に対して、十分に注意を払わなければならない。
- (3) 出航してから帰港するまで、すべてにおいて責任を負わなければならない。
- (4) 事故の内容によっては、海難審判法に基づく処分を受けなければならない。

問6 小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 港内や船だまりの付近では、できるだけ速力を落として、引き波を立てないように航行する。
(B) 港内の施設を許可なく使用する場合は、他の利用者がいない時間帯を見計らって利用する。
- (1) (A)だけ正しい
 - (2) (B)だけ正しい
 - (3) ともに正しい
 - (4) ともに誤っている

問7 小型船舶の船長の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) ぼんやりと航行せず、常に船位の確認に努める。
- (2) 停泊船の付近は、安全のため低速で航行する。
- (3) 船内で出たゴミは、海底に沈む物だけを船外に捨てる。
- (4) 帰港後は、無事に帰ったことを関係者に知らせる。

問8 航行中に事故が起きた場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 冷静になって事故の状況を確認する。
- (2) ただちに116番に連絡する。
- (3) 落水者がいないかどうかを確認する。
- (4) 人命の救助を最優先する。

問9 小型船舶の船長の遵守事項で禁止されている「危険な操縦の方法」に当てはまらないものは、次のうちどれか。

(小型船舶操縦者法)

- (1) 遊泳者を発見して急停止すること
- (2) 遊泳者のすぐそばで急回転すること
- (3) 遊泳者の近くでジグザグ運転すること
- (4) 遊泳者のまわりを高速で航行すること

問10 一級小型船舶操縦士の免許は満何歳から取得できるか。次のうちから選べ。(小型船舶操縦者法)

- (1) 16 歳
- (2) 17 歳
- (3) 18 歳
- (4) 20 歳

=====

解答 問1 (2) 問2 (1) 問3 (4) 問4 (2) 問5 (1) 問6 (1) 問7 (3) 問8 (2) 問9 (1) 問10 (3)

問11 次の①～③のうち、新規登録の際の登録事項はどれか。下のうちから正しい組合せを選べ。

- ① 船名 ② 船籍港 ③ 総トン数

(小型船舶の登録等に関する法律)

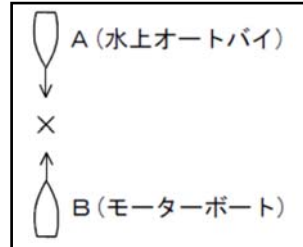
- (1) ① ② (2) ② ③ (3) ① ③ (4) ① ② ③

問12 環境への配慮として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 出航した後は、できるだけ早く海岸から遠ざかるよう、すぐに速力を上げる。
 (2) 環境に与える影響が比較的小さい、4ストロークエンジン搭載の船を使用する。
 (3) 陸上で水上オートバイのエンジンをかけるときには、十分に空吹かしを行う。
 (4) 早朝や深夜以外であれば、大きなエンジン音を出しても近隣住民の迷惑にならない。

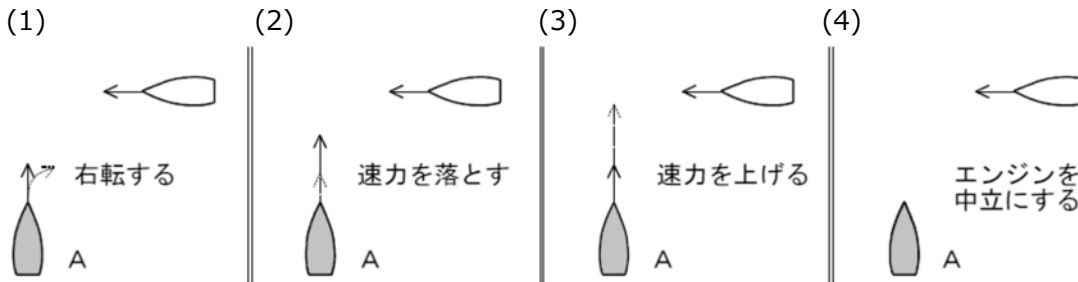
【交通の方法】

問13 右図に示すように、航行中の2隻の動力船が真向かいに行き会い、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

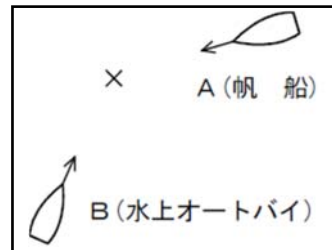


- (1) AはBの進路を避け、Bは針路と速力を保つ。
 (2) BはAの進路を避け、Aは針路と速力を保つ。
 (3) A、Bともに針路を右に転じる。
 (4) A、Bともに針路を左に転じる。

問14 下図は、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り衝突するおそれがある場合のA船の動作の具体例を示したものである。やむを得ない場合を除き、A船がとってはならない避航動作はどれか。(海上衝突予防法)



問15 右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
 (2) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
 (3) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
 (4) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。

問16 見張りについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 目や耳など、あらゆる方法により行う。
 (2) 高速航行中は、前方に意識を集中して行う。
 (3) エンジンを止めて漂流しているときは行う必要はない。
 (4) 船舶の通航の少ない水域では行う必要はない。

問17 視界制限状態の水域で他船の霧中信号を聞いたときの行動について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。(海上衝突予防法)

- (A) 他船の霧中信号が前方から聞こえてきたときは、舵が効く最小限度の速力に落とさなければならない。
 (B) 他船の霧中信号が後方から聞こえてきたときは、やむを得ない場合を除いてエンジンを停止しなければならない。
 (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

=====

【解答】 問11 (2) 問12 (2) 問13 (3) 問14 (3) 問15 (4) 問16 (1) 問17 (1)

※問11・・・「船名」は船舶検査証書には記載しますが、登録はしません。

問18 昼間、航行中の操縦性能制限船(長さ12メートル以上)が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。
(海上衝突予防法)



問19 次の河川通航標識のうち「動力船通航禁止」を表すものはどれか。(河川法)



問20 速力の制限について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「船舶は、港内及び港の境界付近においては、()で航行しなければならない。」(港則法)

- (1) 12ノット以下の速力 (2) 他の船舶の影響を受けないような速力
(3) 他の船舶に追い越されないような速力 (4) 他の船舶に危険を及ぼさないような速力

問21 港内の航路における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路内で他の船舶と行き会うときは、右側を航行しなければならない。
(2) 航路内では、他の船舶と横に並んで航行してはならない。
(3) 前方に自船より遅い他の船舶があるときは、これを追い越して航行しなければならない。
(4) 航路外から航路に入ろうとする船舶は、航路を航行する船舶の進路を避けなければならない。

問22 速力が制限されている航路の区間では、何ノットを超える速力で航行してはならないか。次のうちから正しいものを選び。
(海上交通安全法)

- (1) 10ノット (2) 12ノット (3) 18ノット (4) 20ノット

【運航】

問23 水上オートバイを操縦するときにとった行動として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 早朝にゲレンデに着いたため、日が高くなるのを待って走行を始めた。
(2) 夜間定行をするため、12メートル未満の動力船の法定灯火を装備した。
(3) 音が漏れないようにするため、シートを閉じてエンジンを始動した。
(4) 小学生を同乗させるため、子供用のライフジャケットを用意した。

問24 水上オートバイを操縦する場合、法令で禁止されているものは次のうちどれか。

- (1) 湖川での航行 (2) 休日の航行 (3) 夜間の航行 (4) 単独での航行

問25 水上オートバイの基本的な運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 軽量なため、高速走行に耐えられない。 (2) 水の抵抗を使って速力を落とす。
(3) 推進力がないと進行方向を変えられない。 (4) 艇体を傾けるとより鋭く旋回できる。

問26 次の文に該当する水上オートバイの装置は、下のうちどれか。

「手前に引くタイプと親指で押し込むタイプがあり、これを操作することにより、エンジンの回転数を調整する。」

- (1) シフトレバー (2) スタートボタン (3) ハンドルバー (4) スロットルレバー

=====

解答 問18 (4) 問19 (3) 問20 (4) 問21 (3) 問22 (2) 問23 (2) 問24 (3) 問25 (1) 問26 (4)

問27 旋回や増減速の基本操作について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 高速時の旋回は、ハンドル操作だけで行う。
- (2) 低速時の旋回は、体重移動だけで行う。
- (3) 高速からの減速は、スロットルレバーとシフトを同時に操作して行う。
- (4) 低速からの増速は、スロットルレバーを少しずつ操作して行う。

問28 転覆した水上オートバイを復原する(引き起こす)方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 再始動がすぐにできるように、緊急エンジン停止コードをスイッチにセットした状態にする。
- (2) 艇体に引き起こす回転方向が表示してある場合は、その表示に従って回転させる。
- (3) ガンネルに足をかけ、片舷かたげんに体重をかけて押し下げながら引き起こす。
- (4) 艇体が回転し始めたら艇体を突き放すようにし、艇の下敷きにならないようにする。

問29 エンジントラブルを起こした他の水上オートバイを曳航する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

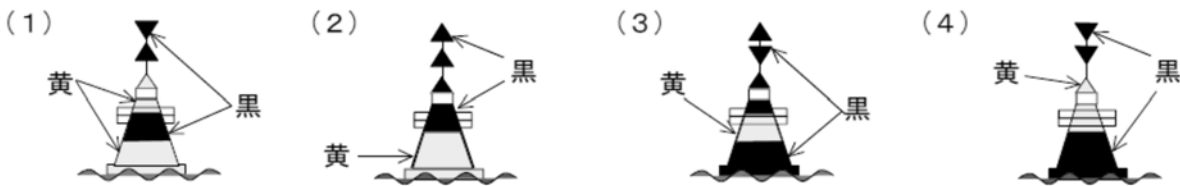
- (1) 曳航ロープを他艇のハンドルバー中央部に結びつけると、安定して曳航しやすい。
- (2) 曳航ロープを他艇のパウアイに結びつけると、強度が足りず破損する危険がある。
- (3) 他艇には誰も乗せず、シートも引く側に移して、できるだけ軽くする。
- (4) 引き始めは、ロープの張り具合と他艇の動きに注意しながら少しずつ速力を上げる。

問30 河川を走行する場合の一般的な注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) わん曲部は、外側は浅く、内側は深くなっていることが多いので、できるだけ内側に沿って航行する。
 - (B) 二つの河川の合流地点では、不規則な波が生じることがあるので、特に注意して航行する。
- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

問31 下図に示す灯浮標のうち、標識の南側に可航水域があることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。



問32 次の海図図式のうち、「急潮」を表すものはどれか。



問33 発航前のエンジンの点検要領について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) シートを取り外してエンジンルームの換気を行う。
- (2) セットしたキルスイッチコードを強く引いても、キルスイッチから外れないことを確認する。
- (3) バッテリーの液量、取付け状態及びターミナルの接続状態を点検する。
- (4) 燃料の残量は、メーターパネルの示度だけでなく、タンクを直接目で見て確認する。

問34 長期間陸上保管する場合の保守手入れについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンルーム内にたまった水を排出し、残った水分はウエスなどで完全にふき取っておく。
- (2) エンジン内部が錆びないよう、点火プラグの取り付け穴から燃料を十分に注入しておく。
- (3) バッテリーを取り外して充電し、風通しのよい場所に保管する。
- (4) エンジン本体の汚れを落とし、必要箇所に防錆剤ぼうさつざいを吹き付けておく。

問35 走行中に突然エンジンから異臭がした場合、その原因として考えられるものは、次のうちどれか。

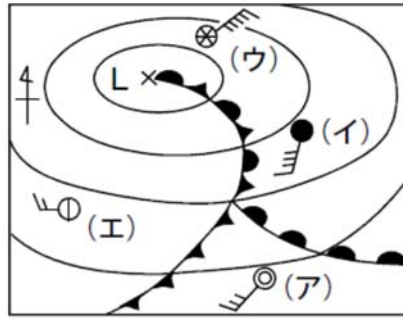
- (1) バッテリー本体の取付けがゆるんだ。
- (2) 燃料がなくなった。
- (3) ジェットインテークが詰まった。
- (4) スポンソンにゴミがからまった。

=====

解答 問27 (4) 問28 (1) 問29 (4) 問30 (2) 問31 (4) 問32 (3) 問33 (2) 問34 (2) 問35 (3)

問36 右図は、日本付近に現れる地上天気図の一部を示したものである。風が最も弱い地点は、図中(1)～(4)のうちどれか。

- (1) (ア)
- (2) (イ)
- (3) (ウ)
- (4) (エ)



問37 温暖前線が通過するとき生じる一般的な気象現象として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 風向が、東寄りから北寄りに急変する。
- (2) 突風が吹くことが多い。
- (3) しとしと雨が降る。
- (4) 通過後は気温が下がる。

問38 1日に起こる満潮の回数は、通常何回か。次のうちから選べ。

- (1) 1回
- (2) 2回
- (3) 3回
- (4) 4回

問39 浸水による機関故障事故の防止対策として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 乗艇前にハッチの閉まり具合やシートの取付け状態を確認する。
- (2) 走行中は定期的にハッチやシートを開け、浸水がないかどうかを確認する。
- (3) 転覆状態から艇体を引き起こす場合には、引き起しの方向を確認する。
- (4) 格納時にハッチやエンジンカバーのパッキンの状態を確認する。

問40 水上オートバイを使用した人命救助について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 救助作業を行っている間も、まわりの安全確認を注意深く行うようにする。
- (2) 風向や川の流れなど、外力の影響を考えて要救助者に近づく。
- (3) 救助の降、低速で救助すると艇が不安定になるので、高速で一気に救助する。
- (4) 携帯電話などでマリーナや医療機関に連絡を取り、できるだけ早く要救助者を陸上に運ぶ。

問1～問12	問13～問22	問23～問40	合計
/12 正解	/10 正解	/18 正解	/40 正解

各科目50%以上、合計26問以上正解で合格。(1.2級所持者は問23～問40の中で12問以上正解で合格)

=====

解答 問36 (4) 問37 (3) 問38 (2) 問39 (2) 問40 (3)

模擬問題 3 (ルビ問題)

【小型船舶操縦者の心得及び遵守事項】

問1 小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

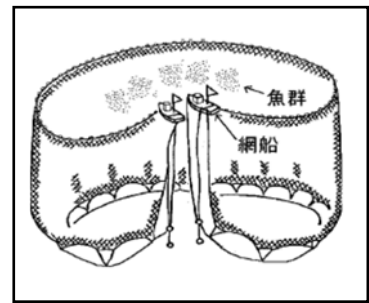
- (1) 工事や作業を行っている船舶を見かけたら、できるだけ離れて航行する。
- (2) 風や波などの影響をほとんど受けずに航行することができる。
- (3) 海上では、自船の位置は177番に電話すれば分かる。
- (4) 水面下の暗礁、障害物は、見張りを行っていれば必ず発見することができる。

問2 沿岸で操業をしている漁船に対する行為として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 興味本位に近づかないようにする。
- (2) 集団で操業している場合は、早めに大きく避けて航行する。
- (3) 操業の妨害をしないような進路をとる。
- (4) やむを得ず近づく場合は、引き波を立てて接近を知らせる。

問3 下図に示す「まき網漁業」に対する注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 魚群を囲い込むために、網船が急に針路を変えることがあるので注意しなければならない。
- (2) 水面付近のまき網は、離れた位置からは見えにくいので、近寄って確認しなければならない。
- (3) 複数の船舶で操業する機会が多いので、一隻だけではなく周りの船の動きにも注意しなければならない。
- (4) 漁船が動いていなくても、網を揚げている場合があるので、まわりで引き波を立てないようにしなければならない。



問4 プレジャーボートの海難事故の発生原因として適切でないものは、次のうちどれか。

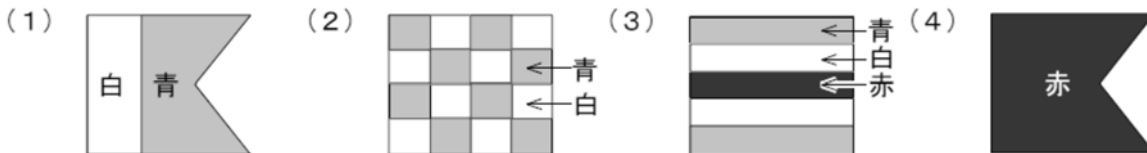
- (1) 水域調査不十分
- (2) 救命設備不搭載
- (3) 気象海象不注意
- (4) 発航前点検不十分

問5 小型船舶の船長がとった行動として法令に違反するものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶検査証書を、船内に備えて航行した。
- (2) 使わなくなった操縦免許証を、他人に譲った。
- (3) 昼間、法定灯火をつけて航行した。
- (4) 友人が持っている小型船舶に、船長として乗船した。

問6 「私は、潜水夫を降ろしている、微速で十分避けよ。」を意味する国際信号旗は、次のうちどれか。

ただし、白、青、赤は信号旗の色を表す。



問7 航行予定水域の状況を確認する方法として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 海図やプレジャーボート・小型船用港湾案内で調べる。
- (2) 航行予定水域付近のマリーナや漁業協同組合に問い合わせる。
- (3) 航行予定水域を管轄する海上保安部に問い合わせる。
- (4) 使用する船舶の船舶検査証書や船舶検査手帳で調べる。

解答 問1 (1) 問2 (4) 問3 (2) 問4 (2) 問5 (2) 問6 (1) 問7 (4)

問8 海上で携帯電話を使用する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 防水対策として防水パックに入れるか、防水機能があるものを使用する。
- (2) 日本国内の場合、すべての携帯電話で海岸から20海里までの通話が保証されている。
- (3) いつでも身に付けておき、緊急時には素早く使用できるようにしておく。
- (4) 海上保安庁への直通番号(緊急通報用電話番号)を登録しておく。

問9 小型船舶の船長の道守事項について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。
(小型船舶操縦者法)

「操縦する小型船舶が衝突したときやその小型船舶にさしせまった危険があるときは、()に必要な手段を尽くさなければならない。」

(1) 通信の確保 (2) 人命の救助 (3) 船位の確認 (4) 船体の確保

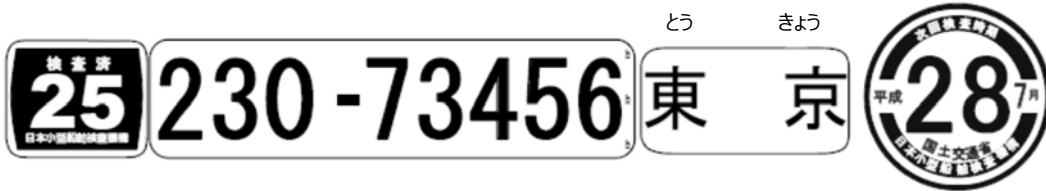
問10 操縦免許証の更新及び失効再交付について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。
(小型船舶操縦者法)

(A) 更新の要件となる更新講習は、操縦免許証の有効期間が満了する日の1年前から満了日までの間に更新申請ができるように受講しなければならない。

(B) 操縦免許証の有効期間を更新せず、満了により免許証が効力を失っても、失効再交付講習を受けて申請をすれば免許証は再交付される。

(1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

問11 小型船舶の両船側にはられた次のステッカーに含まれないものは、下のうちどれか。



- (1) 船舶検査済票 (2) 船舶番号 (3) 船体識別番号 (4) 次回検査時期指定票

問12 環境への配慮として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 所有する船を処分するときには、沖合の安全な場所に沈めるようにする。
- (2) 水域の環境に悪影響を与えるので、ゴミや油を捨てないようにする。
- (3) 高潮や洪水のとき河川の流に悪影響を与えるので、不法係留をしないようにする。
- (4) 船舶交通や工事作業の障害になるので、護岸に係留用の杭を打ちつけないようにする。

【交通の方法】

問13 航行中の2隻の動力船が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。

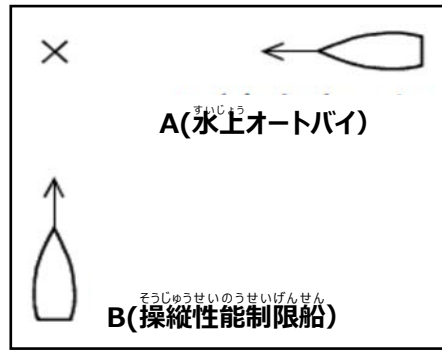
- (1) 互いに針路を右に転じる。(2) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。
(海上衝突予防法)
- (3) 互いに針路を左に転じる。(4) 遅いほうの船舶が、他船の進路を避ける。

問14 衝突を避けるための動作をとる際の注意事項として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 十分に余裕のある時期に動作をとる。
- (2) ためらわずに動作をとる。
- (3) 針路又は速力の変更は、小刻みに行う。
- (4) 他船との間に安全な距離を保って通過できるように行う。

=====
解答 問8 (2) 問9 (2) 問10 (3) 問11 (3) 問12 (1) 問13 (1) 問14 (3)

問15 右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (2) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (3) Aはできるだけ速力を上げて、Bの船首方向を横切る。
- (4) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。

問16 見張りについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 目視だけに頼った方法で見張りを行ってはならない。
- (2) 見張りによって衝突のおそれを判断してはならない。
- (3) 航行中、錨泊中にかかわらず、注意深く行わなければならない。
- (4) 視界の状態にかかわらず、いつでも適切に行わなければならない。

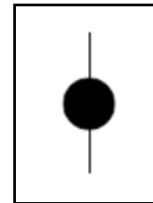
問17 右図に示すように、狭い水道等のわん曲部に接近する船舶が行った次の動作のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)



- (1) 長音1回の汽笛信号を鳴らした。
- (2) 左岸側へ寄って航行した。
- (3) 速力を落とした。
- (4) 耳をすました。

問18 昼間、右図の形象物1個を表示しているのはどのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 操縦性能制限船
- (2) 漁ろうに従事している船舶
- (3) 錨泊中の船舶
- (4) 船舶等を引いている動力船



問19 水上安全条例について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 条例に違反した者の取締りは、国土交通省が行っている。
- (2) 条例により、船舶の航行を制限したり騒音を規制している水域がある。
- (3) 条例に違反しても、懲役や罰金などの罰則は適用されない。
- (4) 条例が定められているのは、大きな湖がある県だけである。

問20 港内における航法について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「船舶は、港内においては、防波堤などの突端や停泊船舶を()に見て航行するときは、できるだけこれから遠ざかって航行しなければならない。」(港則法)

- (1) 右舷
- (2) 左舷
- (3) 風上側
- (4) 風下側

問21 港内の航路における航法として定められていないものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 並列航行禁止
- (2) 追越し禁止
- (3) 左側航行
- (4) 航路航行船優先

問22 海上交通安全法が適用される海域は、次のうちどれか。

- (1) 富山湾
- (2) 東京湾
- (3) 鹿児島湾
- (4) 駿河湾

=====

解答 問15 (1) 問16 (2) 問17 (2) 問18 (3) 問19 (2) 問20 (2) 問21 (3) 問22 (2)

【運輸】

問23 水上オートバイを操縦するときの、緊急エンジン停止コードの端部(緊急エンジン停止スイッチとは反対側)の取扱いとして適切なものは、次のうちどれか。

- (1) ハッチ内に格納する。(2) そのまま垂らす。(3) ハンドルバーに巻きつける。(4) 操縦者の身体に装着する。

問24 ゲレンデのローカルルールについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 遊泳区域と水上オートバイの航行区域を分けている水域がある。(2) 水上オートバイの上げ下ろし場所が指定されている水域がある。(3) ローカルルールは、地元のマリンショップなどに問い合わせる前に調べる。(4) ローカルルールは、水上オートバイにだけ適用される。

問25 水上オートバイの運動特性について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 方向転換中、旋回方向に素早く船首を向けるためには、スロットルレバーを離す。(B) 高速走行中、素早く速力を落とすためには、インペラを逆転させることにより、ジェット噴流を反転させる。(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

問26 艇体各部の名称とその役割について述べた次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- (1) リバースゲート ... 噴射されたジェット噴流の向きを船首方向に変える。(2) ジェットインターク ... 推進用と冷却用の水を吸い込む。(3) スポンソン ... 旋回時の操縦安定性を高める。(4) 冷却水点検孔 ... 冷却水の温度を点検する。

問27 砂浜でシッティングタイプの上水オートバイに乗艇する要領について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 同乗者が安全に乗艇できるよう、エンジンは始動しておく。(2) エンジンを始動する前に、艇体を数回揺すって砂などを落とす。(3) 足が着かなくなるところまで押していき、艇体の横方向から乗艇する。(4) なるべく早く波打ち際を離れるため、波の周期に関係なく素早く乗艇する。

問28 転覆した水上オートバイを復原する(引き起こす)方法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判定し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 緊急エンジン停止コードを外し、エンジンが停止していることを確認する。(B) 艇体に引き起こす回転方向が表示してある場合は、その表示に従って行う。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

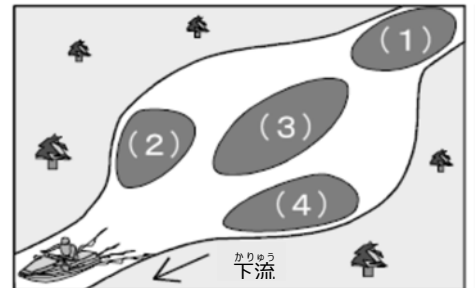
問29 ウェイクボードをトローリングする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ウェイクボードが実施できる水域に制約はなく、どこでも楽しむことができる。(2) プレーヤー(引かれる者)や周囲の安全確保のため、後方の見張り役を同乗させておく。(3) トローリングロープの長さを頭に入れておき、左右に十分余裕のある水域で行う。(4) 障害物を発見したときや旋回するときには、プレーヤーに合図を送って必ず知らせる。

問30 右図に示すように河川がわん曲しているところ

では、一般的にどの部分が浅いとされているか。

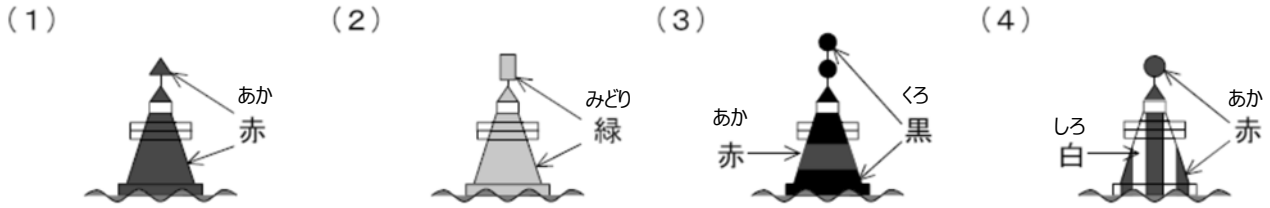
図中に 〇 で示した(1)~(4)のうちから選べ。



解答 問23 (4) 問24 (4) 問25 (4) 問26 (4) 問27 (2) 問28 (3) 問29 (1) 問30 (3)

問31 下図に示す灯浮標のうち、標識の周囲に可航水域があることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。

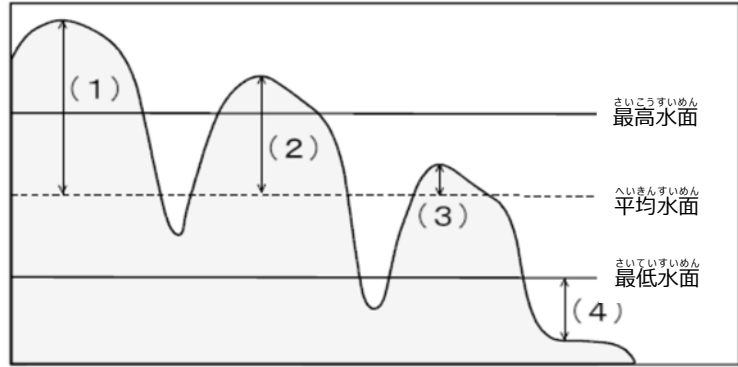


問32 海図に記された高さや水深の基準面

を示した右図のうち、誤っているものは

どれか。

- (1) 山の高さ
- (2) 島の高さ
- (3) 干出の高さ
- (4) 水深



問33 エンジンを始動する前に行う点検事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ハルやデッキに亀裂や損傷がないことを確認する。
- (2) エンジンルーム内にビルジがたまっていないことを確認する。
- (3) 緊急エンジン停止コードがスロットルレバーについていることを確認する。
- (4) ハンドルバーなどの可動部分がなめらかに動くことを確認する。

問34 海水域で使用した後の保守手入について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 艇体にこびりついた塩分を清水で十分に洗い流す。
- (2) ジェットノズルやジェットインテークから清水を注入して、内部を十分に洗い流す。
- (3) エンジン関係では、特に燃料フィルターや燃料パイプを清水で十分に洗い流す。
- (4) 洗った後、乾いた布で水分をふき取り、必要箇所防錆剤を吹き付けておく。

問35 エンジンを停止した後、しばらくして再始動を試みたところ、バッテリーの充電が不十分でエンジンを始動できなかった。

この場合に考えられる原因として最も適切なものは、次のうちどれか。

- (1) バッテリーが艇体に確実に固定されていなかった。
- (2) バッテリー液の注入孔のキャップがゆるんでいた。
- (3) バッテリーの下部が水につかっていた。
- (4) バッテリーのターミナルがゆるんでいた。

問36 天気記号(日本式)「☉」の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 晴れ (2) くもり (3) 雨 (4) 雪

問37 風について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 気圧の高い所から低い所へ向かって吹く。
- (2) 一般に、等圧線の間隔の狭い所ほど強く吹く。
- (3) 風向は、風の吹いて行く方向で表す。
- (4) 風速は、観測時前10分間の平均風速で表す。

=====

解答 問31 (4) 問32 (3) 問33 (3) 問34 (3) 問35 (4) 問36 (2) 問37 (3)

問38 潮汐について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。

- (A) 潮汐により海面が最も高くなった状態を満潮、最も低くなった状態を干潮という。
 (B) 満潮から干潮までの間を上げ潮、干潮から満潮までの間を下げ潮という。
 (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

問39 走行中、浅瀬に乗り揚げた場合の処置として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 再始動できなくなることがあるので、エンジンは停止しない。
 (2) 後進機能が付いている機種であれば、直ちに後進して離礁する。
 (3) 艇体に損傷がなければ、離礁後全速で走行し、エンジンの状態を確認する。
 (4) 自力で走行できない場合は、すみやかに救助を要請する。

問40 走行中、同乗者が落水したときの救助方法として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 落水者から離れないように、直ちに行きあしを止める。
 (2) いつでも飛び込めるように、ライフジャケットを脱いで救助に向かう。
 (3) 安全に短時間で救助できるように近づく。
 (4) 落水者から目を離さないようにする。

問1～問12	問13～問22	問23～問40	合計
/12 正解	/10 正解	/18 正解	/40 正解

各科目50%以上、合計26問以上正解で合格。(1.2級所持者は問23～問40の中で12問以上正解で合格)

=====

解答 問38 (1) 問39 (4) 問40 (2)

【小型船舶操縦者の心得及び遵守事項】

問 1 陸上交通との違い

①陸上交通と比べた水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上には道路のような移動範囲を制限するものがないので、どんな水域でも自由に航行することができる。
- (2) 陸上交通は国によって右側通行や左側通行があるが、水上交通はすべての国で左側通行である。
- (3) すべての水域に速力の制限がないので、どこでも高速で自由に航行することができる。
- (4) 水上では風や潮流等の影響を受けるため、同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。

.....答 (4)

②陸上交通と比べた水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上では風や潮流等の影響を受けるため、同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (2) 一般に、モーターボートにバックミラーやサイドミラーがないのは、水上での周囲の確認が陸上ほど重要ではないためである。
- (3) すべての水域に速力の制限がないので、まわりに他の船舶がいなければどこでも高速で航行することができる。
- (4) 陸上と同じようにガソリンスタンドがあちこちに設置されているので、水上で燃料が不足してもすぐに補給することができる。

.....答 (1)

③小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 釣り人がいる堤防に近づくとき、釣り糸をプロペラシャフト等に巻き込む場合がある。
- (2) 作業用の台船に近づくとき、台船固定用のアンカーロープをドライブ等に引っ掛ける場合がある。
- (3) プレジャーボートが航行する水域でも、定置網や養殖施設が設置されている場合がある。
- (4) 護岸工事やしゅんせつ作業をしている船が、漁網を引いている場合がある。

.....答 (4)

④小型船舶を航行させる場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 簡単なエンジンの故障であれば、自分で修理や応急処置ができるようにしておく。
- (2) ごく狭い範囲だけで天候が急変することがあるので、航行中に少しでも天候に不安を感じたら、迷わず予定を変更して帰港する。
- (3) 同乗者が多いと見張りの妨げになることがあるので、片方の舷にまとめて座らせておく。
- (4) 無線機や携帯電話を持っていないと、海上でトラブルが発生した場合、陸上との連絡が取れなくなることに注意する。

.....答 (3)

⑤小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) ウェイクボードを引いている水上オートバイの操縦者は、後ろに気を取られて前を見ていない場合がある。
- (2) モーターボートの引き波によって、水辺で潮干狩りをしている人が転倒する場合がある。
- (3) 競技中のヨットや水上オートバイは、すべての船に対して優先権があるので、見張りをしなくてもよいと決められている場合がある。
- (4) 手こぎボートは、モーターボートの引き波によって転覆しそうなほど大きく揺れる場合がある。

.....答 (3)

⑥小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) レジャーや仕事などの目的で、さまざまな人が同じ水域を利用している。
- (2) 原則として速力の制限はないが、まわりに迷惑がかからないような速力で航行する。
- (3) 気象状況が悪くなった場合は、安全な水域まで自力で避難しなければならない。
- (4) 船は不安定な水面に浮いているが、風や波などの影響は受けないので安全に航行できる。

.....答 (4)

⑦小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水上スキー等を引いているモーターボートの操縦者は、前方を見ていないことがある。
- (2) ダイバーには常に警戒船が付き添っているので、潜水中かどうかすぐに分かる。
- (3) モーターボートの引き波によって、水辺で潮干狩りをしている人が転倒することがある。
- (4) 釣りをしている人に近づくとき、釣り糸をプロペラシャフトに巻き込むことがある。

.....答 (2)

⑧小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) あらかじめ水域を調べて、浅瀬や暗礁^{あんしやう}などの位置を確かめておく。
- (2) エンジントラブルが起きても、簡単な修理は自分でできるようにしておく。
- (3) 水上で事故が起きて救助を求めても、救助者の到着には時間がかかることが多い。
- (4) 漁業やダイビングなどをしている水域は、標識によって見分けられるようになっている。

.....答 (4)

⑨小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) さまざまな人が同じ水域を利用していることを、頭に入れておかなければならない。
- (2) 沿岸だけを航行する場合は、無線機や携帯電話を持つ必要はない。
- (3) 霧が濃くなって視界が悪くなったら、速力を上げて帰港するのがよい。
- (4) 自分さえ安全ならば、速力をよけて航行してもかまわない。

.....答 (1)

⑩小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 水域にはさまざまな利用者がいて、その利用区域がはっきりと分かれている。
- (2) 事故を防止するため、他の水域利用者に危険を及ぼす行為をしてはならない。
- (3) 大型船が定期的に航行する航路には、近づいただけで罰則を受ける。
- (4) 出航するときには、必要がなければ無線機や携帯電話を持っていかないほうがよい。

.....答 (2)

⑪小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水上では、陸上よりも気象の変化による影響を受けやすいことに注意する。
- (2) 航行に支障のある障害物は簡単に見つけられるので、航行中は操船に集中する。
- (3) 無線機や携帯電話を持っていないと、緊急時に陸上と連絡が取れなくなるので注意する。
- (4) あらゆる方向から船が接近してくることがあるので、常に適切な見張りをする。

.....答 (2)

⑫小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水上スキーなどを引いているモーターボートの操縦者は、前方を見ていないことがある。
- (2) ダイバーには常に警戒船が付き添っているので、潜水中かどうかすぐに分かる。
- (3) モーターボートの引き波によって、水辺^{しおひが}で潮干狩りをしている人が転倒することがある。
- (4) 釣りをしている人に近づくと、釣り糸をプロペラに巻き込むことがある。

.....答 (2)

⑬陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) どのような水域でも自由に航行することができる。
- (2) 水上交通は原則として左側通行である。
- (3) 水上では、どこでも高速で航行することができる。
- (4) 水上では、風などの外力の影響を受けやすい。

.....答 (4)

⑭小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水域にはさまざまな利用者がいるが、その利用区分ははっきりと決められていないことが多い。
- (2) 操縦性能が低い船舶は、自らすすんで、操縦性能が高い船舶を避けなければならない。
- (3) 事故を防止するため、他の水域利用者に迷惑をかける行為をしてはならない。
- (4) 陸から孤立しないよう、出航するときは無線機や携帯電話を持っていくほうがよい。

.....答 (2)

⑮陸上交通と比べた水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上には駐車禁止区域のような制限がないので、どこにでも自由に係留することができる。
- (2) 一般に、モーターボートにバックミラーやサイドミラーがないのは、水上での周囲の確認が陸上ほど重要ではないからである。
- (3) 水上では風や潮流等の影響を受けるため、同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (4) すべての水域に速力の制限がないので、まわりに他の船舶がいなければどこでも高速で航行することができる。

.....答 (3)

⑯陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上では、外力の影響により同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (2) 水上は見通しがよいので、周囲の安全確認が陸上ほど重要ではない。
- (3) まわりに他の船舶がいなければ、どこでも高速で航行することができる。
- (4) 陸上と同じようにガソリンスタンドがあちらこちらに設置されている。

.....答 (1)

⑰小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) モーターボートの引き波によって手こぎボートが転覆するようなことはない。
- (2) 釣りをしている人に近づいても、釣り糸をプロペラに巻き込むようなことはない。
- (3) 水上スキーなどの遊具を引いている操縦者は、前方の見張りが不十分なことがある。
- (4) 大型船が定期的に航行する航路には、近づいただけで罰則を受けることがある。

.....答 (3)

⑱小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水面下の障害物は、見張りをしていれば必ず見つけることができる。
- (2) 水上で事故が起きたときは、自力で適切な処置をとらなければならない。
- (3) 事故が起きても、陸上では誰もそのことを知らない場合がある。
- (4) 救助を求めても、到着までかなりの時間がかかることが多い。

.....答 (1)

⑲小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 旅客船や工事作業船が航行する水域でも、漁船が操業をしていることがある。
- (2) 目標物が少ない水域では、自船の位置が分からなくなってしまうことがある。
- (3) 波が高い場合は、水面上に浮いている漁具や障害物が見えにくいことがある。
- (4) 一部の水域では、季節によって右側通航と左側通航が入れ替わることがある。

.....答 (4)

⑳陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 速力の制限がないので、どこでも高速で航行することができる。
- (2) 水上交通は原則として右側通行である。
- (3) 水上には移動を制限するものがないので、自由に航行することができる。
- (4) 海上では、燃料が不足してもすぐに補給することができる。

.....答 (2)

㉑小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) モーターボートやヨットが航行する水域では、漁業は行われていない。
- (2) 事故が発生した場合は、海上保安庁がすぐに救助してくれるので、自分で対応する必要はない。
- (3) 携帯電話は、通話範囲内であっても、水域によっては通話できないことがある。
- (4) 水面下の障害物や暗礁^{あんしょう}は、見張りをしていれば必ず見つけることができる。

.....答 (3)

②陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上では、どこにでも自由に係留することができる。
- (2) 水上は見通しがよいので、周囲の安全確認が陸上ほど重要ではない。
- (3) 水上では、外力の影響により同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (4) まわりに他の船舶がいなければ、どこでも高速で航行することができる。

.....答 (3)

問 2 水域利用者の特性と注意事項

①小型船舶の船長が知っておいたほうがよい大型船についての知識として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 大型船の船首前方を航行する場合、自船から大型船のブリッジが見えないときは、相手船の死角に入っていると考えた方がよい。
- (2) 高性能の航海計器を積んでいるので、衝突の危険性は自船より早く察知していると考えた方がよい。
- (3) 自船が他の船舶などの陰に隠れてしまった場合は、大型船のレーダー映像からは消えてしまっていると考えた方がよい。
- (4) 風が強く高い波が立っている中では、波の間に入った自船の存在に気付いていないと考えた方がよい。

.....答 (2)

②同じ水域を走行中の水上オートバイに対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 速力を落とさずに、急に変針することがある。
- (2) 突然、同乗者が振り落とされることがある。
- (3) 低速で走っていても、急に転覆することがある。
- (4) 何の前ぶれもなく、高速で後進することがある。

.....答 (4)

③航行中のヨットの特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 帆走中は、風を受ける舷げんを変えながら進んでいく場合がある。
- (2) 大きな帆が死角となって、まわりの状況を確認できない場合がある。
- (3) 帆とエンジンの両方を使用して航行する場合がある。
- (4) 風を帆に受けながら進むので、風下側へのみ航行できる。

.....答 (4)

④モーターボートや水上オートバイで航行する場合、他の水域利用者に対して注意しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 遊泳者に危険を及ぼすおそれがあるので、海水浴場には近づかないようにする。
- (2) 小型ヨットの進路は風に左右されて一定しないので、近づかないようにする。
- (3) ボードセーリングは見失いやすいので、できるだけ並んで航行するようにする。
- (4) 手こぎボートは引き波の影響を受けやすいので、できるだけ離れて航行する。

.....答 (3)

⑤操業中の漁船に対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 操業中は漁に集中していて、見張りを十分にしていない場合がある。
- (2) 自船の進路上にいる場合は、早めにホーンなどを鳴らして避航を求める。
- (3) 操業の形態は、漂泊ひょうはくをしていたり錨泊いぼくをしていたりさまざまである。
- (4) やむを得ず近づく場合は、引き波を立てないように航行する。

.....答 (2)

⑥大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) ブリッジが高い所にあるので、死角がほとんどない。
- (2) 惰力どりょくが大きく、エンジンを止めてから数千メートルも前進する場合がある。
- (3) 高性能な航海計器を積んでいるので、周囲の小型船舶の動きがよく分かる。
- (4) 操縦性能がよいので、他の船舶を簡単に避けることができる。

.....答 (2)

⑦次の文(A)～(C)は、ある水域利用者の特性について述べたものである。すべての要素を満たす水域利用者として最も適切なものは、下のうちどれか。

- (A) 操縦者の技量で操縦性能の引き出し方が大きく変わる。
- (B) 変針するときは、体重移動の併用が有効である。
- (C) 構造上、かなり浅い水域でも航行することができる。

- (1) 工事作業船 (2) 漁船 (3) 水上オートバイ (4) 大型ヨット

..... 答 (3)

⑧漁ろう中の船舶に対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 進行方向が一定でない場合があるので、出会ったときは見張りをより慎重に行う。
- (2) 漁ろう中の船舶を避けるときは、相手船との距離を大きくとって航行する。
- (3) 漁業の種類によっては、複数の船舶が一組になって操業する場合がある。
- (4) 網を揚げている間はほとんど動かないので、すぐ近くを通過することができる。

..... 答 (4)

⑨水上オートバイの特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船底に舵やプロペラがないので、比較的浅い水域を走行できる。
- (2) 加速性能がよく、高速で走行することができる。
- (3) 運動性能がよく、急旋回することができる。
- (4) 推進力がなくても、惰力^{たりのりよく}で進行方向を変えることができる。

..... 答 (4)

⑩大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 最新の航海計器を積んでいるので、他の船舶との衝突を簡単に避けることができる。
- (2) 狭い水道などを航行するときは、他の船舶の進路を避けられないことがある。
- (3) 緊急にエンジンを停止しても、すぐには停船することができない。
- (4) すぐ近くを横に並んで航行する小型船舶を、船側付近に吸い寄せることがある。

..... 答 (1)

⑪大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 舵効きが悪いため、舵を取ってから実際に針路が変わるまでに時間がかかる。
- (2) 大きな出力のエンジンを積んでいるので、緊急時はすぐに停船できる。
- (3) 最新の航海計器を積んでいるので、他の船舶との衝突を簡単に避けることができる。
- (4) ブリッジからは周りをよく見渡せるので、近くにいる小型船舶の動きがよく分かる。

..... 答 (1)

⑫航行中の大型船の特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 小型船舶に比べて舵効きが悪く、また、すぐに停船することができないなど操縦性能が低い。
- (2) 船側に近づく船舶に対して反発作用が働いたため、横に並んで航行する小型船舶とは、一定の間隔を保つことができる。
- (3) 喫水が深いため水深の浅い水域を航行できないなど、小型船舶と比べて航行できる水域が制限される。
- (4) 船首前方の死角が大きく、船首部のすぐ近くを航行する小型船舶はほとんど視認できない。

..... 答 (2)

⑬航行中のエンジン付ヨットの特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) エンジンのみで航行する場合も、帆のみで航行する場合も操縦性能は変わらない。
- (2) 帆走中は、帆と船体の間から周囲を見渡すことができるため、帆が死角を作ることはない。
- (3) 帆走中の操船は風に左右されるため、自由自在に航行することが難しい。
- (4) エンジンを使わず、帆走だけで風上の目標に到達することはできない。

..... 答 (3)

⑭小型船舶の船長が知っておくべき大型船の一般的な特性として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 前方の死角が大きく、船首方向の小型船舶を確認しにくい場合がある。
- (2) 緊急に停止することが難しく、数千メートルも前進する場合がある。
- (3) 高性能な航海計器を積んでいるので、周囲の小型船舶の動きがよく分かる。
- (4) 狭い水道等では、他船を避けることができない場合がある。

.....答 (3)

⑮大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船首前方の死角が大きいものがある。
- (2) 惰力が大きいので、急には止まらない。
- (3) 簡単に変針できないものがある。
- (4) 速度が遅いので、引き波は小さい。

.....答 (4)

⑯小型船舶の船長が知っておくべき大型船の一般的な特性として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 最新の航海機器を積んでいるので、他の船舶との衝突を簡単に避けることができる。
- (2) 狭い水道等を航行するときは、他の船舶の進路を避けられないことがある。
- (3) 緊急にエンジンを停止しても、すぐには行きあしを止めることができない。
- (4) すぐ近くを横に並んで航行すると、小型船舶が船側付近に吸い寄せられることがある。

.....答 (1)

⑰小型船舶の船長が、漁船について知っておかなければならない事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 1隻で操業している場合も、集団で操業している場合も、漁具は必ず船尾から引いている。
- (2) 操縦性能がよいので、漁網を引いている場合でも他の船舶を簡単に避けることができる。
- (3) 操業中は漁に集中しているため、見張りを十分にしていない場合がある。
- (4) 漁具が出ているかどうかは、できるだけ近づいてしばらく並んで航行しないと分からない。

.....答 (3)

⑱水上オートバイの特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船底に舵やプロペラが付いていないので、比較的浅い場所でも走行できる。
- (2) 小さくて軽い艇体に高出力のエンジンを積んでいるので、高速で走行できる。
- (3) 船尾から勢いよく噴射する水流の向きを変えることで進行方向を変えている。
- (4) 速力を落としたり停船したりする場合には、主に艇体が受ける風の抵抗を利用する。

.....答 (4)

⑲次の文(A)～(C)は、ある水域利用者の特性について述べたものである。すべての要素を満たす水域利用者として最も適切なものは、下のうちどれか。

- (A) 操縦者の技量で操縦性能の引き出し方が大きく変わる。
 - (B) 変針するときは、体重移動の併用が有効である。
 - (C) 構造上、かなり浅い水域でも航行することができる。
- (1) 工事作業船 (2) 漁船 (3) 水上オートバイ (4) 大型ヨット

.....答 (3)

⑳小型船舶の船長が、漁船について知っておかなければならない事項として適切なものは、次のうちどれか。

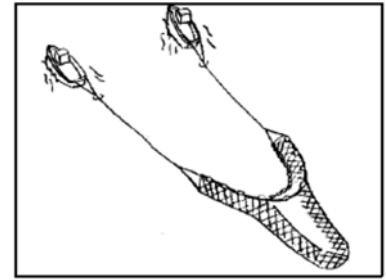
- (1) 操業の形態は、漂泊していたり錨泊をしていたりとさまざまである。
- (2) 1隻で操業している場合も、集団で操業している場合も漁具は必ず船尾から引いている。
- (3) 網を揚げている間はほとんど動かないので、すぐ近くを通過することができる。
- (4) 自船の進路上にいる場合は、早めにホーンなどを鳴らして避航を求める。

.....答 (1)

問3 漁具などに対する注意

① 下図に示す「底引き網漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

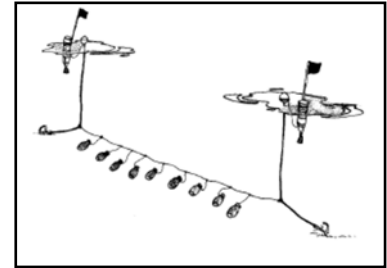
- (1) 右図のように2隻が1組になって操業している場合は、両船の間に入らないように注意する。
- (2) 網は海底に広げられているので、漁船の後方であればすぐ近くを航行することができる。
- (3) 操業中、針路を急に変更する場合があるので、近くを航行する場合は目を離さないようにする。
- (4) 操業中であることを示す形象物をマスト等に掲げている場合がある。



.....答 (2)

② 下図に示す「たこつぼ漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

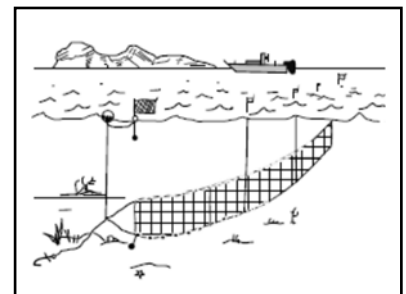
- (1) 水面に浮かんでいるブイや旗竿はたざおを見ただけでは、底刺し網か、たこつぼなのかを判断することは難しい。
- (2) 何組も設置されている場合が多いので、ブイや旗竿を見つけた場合には、十分に離れて航行する。
- (3) たこつぼは、長期間引き上げられることはなく、設置場所はヨットینگチャートなどに記されている。
- (4) 水面上に浮かんだ目印には、ブイの代わりに発泡スチロールかたまりの塊やペットボトルが使用される場合がある。



.....答 (3)

③ 下図に示す「底刺し網漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

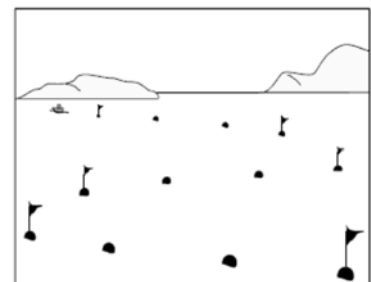
- (1) 漁具が設置されている付近には、必ず監視船が停泊している。
- (2) 目印のブイや旗竿はたざおを見ただけでは、仕掛けられた漁具が刺し網かどうかはわかりにくい。
- (3) 目印には、ブイの代わりにペットボトル等が使われていることがある。
- (4) 何組も設置されている場合があるので、ブイを見つけたらまわりをよく観察する。



.....答 (1)

④ 下図は、刺し網が設置されている水域の、水面上の様子を示した略図である。このような旗竿はたざおやブイに対する注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) ブイとブイの間にはロープや網がないので、低速であれば通過することができる。
- (2) ノリやカキの養殖施設と同じく、年間を通じて同じ位置に設置されている。
- (3) 広範囲に点在している場合もあるので、まわりをよく確認しながら大きく遠回りする。
- (4) 旗竿やブイの材質と大きさは統一されていて、どの水域でも同じものが使用されている。



.....答 (3)

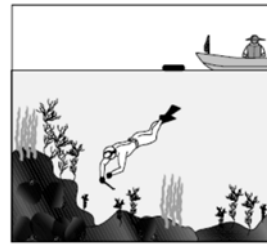
⑤ 「引き縄釣り漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 竿などを利用して、一度に何本もの引き縄(釣り糸)を引く場合がある。
- (2) 引き縄や竿に意識を集中しているため、操業中は見張りをあまりしていないことがある。
- (3) 引き縄は他船から見えにくいので、引き縄釣り漁業専用の形象物を掲げている。
- (4) 引き縄の長さは数十メートルにもなるため、漁船の後方を通る場合は十分離れるようにする。

.....答 (3)

⑥ 下図に示す「潜水漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 操業中の船には、潜水中であることを示す信号旗が必ず掲げられている。
- (2) 一人で操業することが多いので、操業中は船上に誰もいないことがある。
- (3) 潜水者が浮き上がる間隔はいつも同じとは限らず、急に浮上してくることがある。
- (4) 潜水者は必ず海中にいるとは限らず、付近の海面に浮いていることもある。

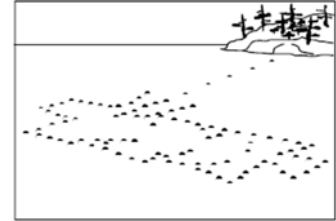


..... 答 (1)

⑦ 下図は、定置網が設置されている水域の、水面上の様子を示した略図である。

このような漁具に対する注意事項について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

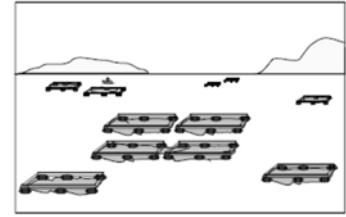
- (1) 陸岸に向かってのびる垣網のブイとブイの間は、高速で航行することができる。
- (2) 設置されている場所は、地元の漁業協同組合やマリーナなどに問い合わせればわかる。
- (3) 内部に立ち入って釣りをする場合は、網やアンカーロープに注意する。
- (4) ブイに係留する場合は、複数のブイにロープをかけるようにする。



..... 答 (2)

⑧ 下図のような養殖施設について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

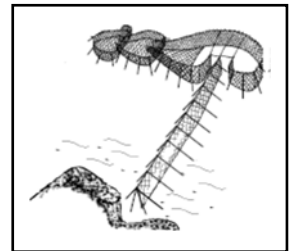
- (1) いかだは1つずつ浮いているので、どのいかだといかだの間でも自由に航行することができる。
- (2) 密集して設置されている場合が多いので、いかだのある水域を大きく避けて航行する。
- (3) いかだは海底に固定されていないので、設置場所は潮流の変化に応じて毎日移動する。
- (4) 所有者名が表示されていないいかだには、自由に係留することができる。



..... 答 (2)

⑨ 右図に示す「定置網漁業」に使用する網について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 魚群が回遊する水域に、比較的長い期間にわたって設置される。
- (2) 目印のブイを避ければ、網の上を航行することができる。
- (3) 本体と陸岸の間に設置された網により、魚を誘い込む。
- (4) 大規模なものから小規模なものまで、大きさはさまざまである。



..... 答 (2)

⑩ 右図に示す「えり漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

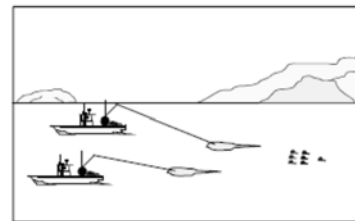
- (1) えりの内部では魚が養殖されている。
- (2) 長い期間にわたって同じ場所に設置されている。
- (3) 木や竹などを使って固定されている。
- (4) 干潟や湖などの水深の浅い所に位置されている。



..... 答 (1)

⑪ 右図のように2隻で網を引いている漁船に対する注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 漁船とブイの間を航行する場合は、引き綱ひきづなに注意する。
- (2) 2隻の間を航行する場合は、できるだけ低速にする。
- (3) 網やブイが見えにくい場合は、十分に近づいて確認する。
- (4) ブイの後方を航行する場合は、ブイから十分に離れる。



..... 答 (4)

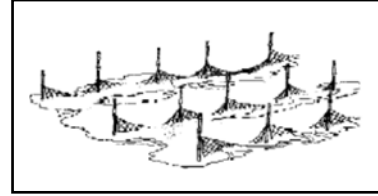
⑫ 長期間にわたって設置場所が固定されている漁具に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 刈養殖網 (2) たこつぼ (3) カキ養殖いかだ (4) 定置網

..... 答 (2)

⑬ 下図に示す「ノリ養殖漁業（支柱式）」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 漁場内は施設を固定するロープなどが多数張られている。
- (2) 網の周囲には、夜間に目印となる灯火が必ず設置されている。
- (3) 陸岸近くの干満差のある浅い場所に設置されている。
- (4) 設置場所や時期は、地元の漁業協同組合に問い合わせればわかる。



.....答 (2)

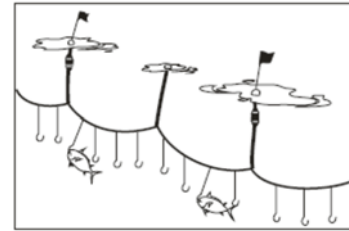
⑭ 漁具の設置状況について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 風や波があるときは、波に隠れて漁具が見えにくい場合がある。
- (2) 使用されている漁具の形や大きさは、全国的に統一されている。
- (3) ブイの代わりにペットボトル等を使用している場合がある。
- (4) 旗の付いた竹竿^{たけざお}を漁具の目印に利用している場合がある。

.....答 (2)

⑮ 右図に示す「はえ縄漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 漁具の長さが数キロメートルに達するものもある。
- (2) 遠洋の海域で大型魚だけを対象に行われる漁法である。
- (3) 漁具は、日によって違う場所に設置されている。
- (4) 幹繩の両端には目印となるブイなどが設置されている。



.....答 (2)

⑯ 航行中、前方に定置網を発見した場合に最も注意しなければならない事項は、次のうちどれか。

- (1) ブイがどの方向に浮かんでいるか。
- (2) どんな魚を捕っているか。
- (3) 定置網の所有者は誰か。
- (4) いつ設置されたものか。

.....答 (1)

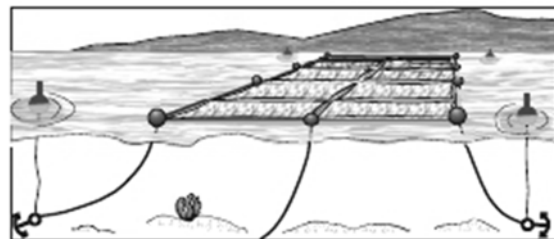
⑰ 漁具の設置状況について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 波が高いときは、波間に隠れて漁具が見えにくい場合がある。
- (2) 使われている漁具の形や大きさは、全国的に統一されている。
- (3) ブイの代わりにペットボトルなどを使用している場合がある。
- (4) 旗の付いた竹竿を漁具の目印に利用している場合がある。

.....答 (2)

⑱ 下図に示す「ノリ養殖漁業（浮き流し式）」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 魚を捕る施設ではないので、船をブイに係留して釣りをしてもかまわない。
- (2) 広範囲にわたる大規模な施設では、船が航行するための水路を設定していることがある。
- (3) 支柱式のノリ養殖施設に比べ、水深の深い場所に設置されていることが多い。
- (4) 設置場所や時期は、地元の漁業協同組合に問い合わせれば分かる。



.....答 (1)

⑲ 漁業権について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 漁具が設置されていない水面であっても、漁業権が設定されている場合がある。
- (2) 漁業権は、湖や川などの内水面には設定されておらず、海面のみに設定されている。
- (3) 漁業権の対象となっている水産動植物を採捕すると、罰則の対象となる場合がある。
- (4) 釣りをする水域に漁業権が設定されていないか、事前に調べておく必要がある。

.....答 (2)

問 4 事故の発生状況

①プレジャーボートの衝突事故の発生原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 航法不遵守 (2) 船体点検不十分 (3) 操船不適切 (4) 見張り不十分

..... 答 (2)

②プレジャーボートの海難種類と、その主要な原因の組合せとして正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 運航不能(機関故障) 操船不適切 (2) 衝突 気象海象不注意
(3) 転覆 船位不確認 (4) 乗揚げ 水域調査不十分

..... 答 (4)

③水上オートバイの衝突事故の主な発生原因は、次のうちどれか。

- (1) 船位不確認 (2) 操船不適切 (3) 気象海象不注意 (4) 発航前点検不十分

..... 答 (2)

④小型船舶の海難種類とその主要原因について示した次の組合せのうち、適切でないものはどれか。

- (1) 乗揚げ 航行予定水域の調査が不十分であった。
(2) 運航不能(機関故障) エンジンや附属機器の点検や整備が不十分であった。
(3) 運航不能(推進器障害) 人員や貨物を必要以上に積み込みすぎた。
(4) 転覆 航行予定水域の調査が不十分であった。

..... 答 (3)

⑤プレジャーボートの乗揚げ事故の発生原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水域調査不十分 (2) 船体点検不十分 (3) 船位不確認 (4) 見張り不十分

..... 答 (2)

⑥プレジャーボートの海難事故の発生傾向について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 海難事故の多くが、港内を含む海岸から3海里以内の水域で発生している。
(2) 事故原因のほとんどが、見張り不十分や機関取扱不良などの人為的ミスである。
(3) 乗船歴の短い船長が起こす事故がほとんどで、熟練者が起こす事故はまったくない。
(4) 海難にともなう転落事故では、ライフジャケットを着用していない者の死亡率が高い。

..... 答 (3)

⑦プレジャーボートの乗揚げ事故の主な発生原因は、次のうちどれか。

- (1) 操船不適切 (2) 機関取扱不良 (3) 水域調査不十分 (4) 船体点検不十分

..... 答 (3)

⑧プレジャーボートの海難事故は、どのような要因によるものが最も多いか。次のうちから選べ。

- (1) 見張り不十分や機関の取扱不良 (2) 船体の材質や構造の不良
(3) 気象や海象の急変 (4) 船体の手入れ不十分

..... 答 (1)

⑨プレジャーボートの海難事故の発生傾向について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 海難事故の8割以上が、陸岸から10海里以上離れた水域で発生している。
(2) 事故原因のほとんどが、見張り不十分や機関取扱不良などの人為的ミスである。
(3) 初心者の船長が起こす事故がほとんどで、熟練者が起こす事故はまったくない。
(4) モーターボートと水上オートバイの海難事故は、最近は大幅に減ってきている。

..... 答 (2)

⑩船舶の海難事故において、港内を含む陸岸から3海里以内の水域で発生したものの割合はどのくらいか。次のうちから選べ。

- (1) 約95% (2) 約80% (3) 約30% (4) 約10%

..... 答 (2)

⑪プレジャーボートの海難種類と、その主要な原因の組合せとして誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 運航不能(機関故障) 機関取扱不良 (2) 衝突 見張り不十分
(3) 火災 水域調査不十分 (4) 乗揚げ 船位不確認

..... 答 (3)

⑫プレジャーボートの衝突事故の発生原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 航法不遵守 (2) 船体点検不十分 (3) 操船不適切 (4) 見張り不十分

.....答 (2)

⑬小型船舶の海難種類とその主な原因について示した次の組合せのうち、正しいものはどれか。

- (1) 運航不能(機関故障) 気象海象不注意
(2) 衝突 見張り不十分
(3) 転覆 船位不確認
(4) 乗揚げ 操船不適切

.....答 (2)

⑭船舶の海難事故の発生傾向について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 事故原因は、人為的要因よりも不可抗力によるもののほうが多い。
(2) 事故水域は、海岸から3海里以遠よりも3海里以内のほうが多い。
(3) 事故の種類は、衝突や機関故障よりも転覆や乗揚げのほうが多い。
(4) 船舶種類別の事故件数は、小型船舶よりも大型船舶のほうが多い。

.....答 (2)

⑮小型船舶の海難事故のうち、「運航不能」に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 機関故障 (2) 燃料欠乏 (3) 居眠り運航 (4) バッテリー過放電

.....答 (3)

⑯プレジャーボートの海難事故の多くは「人為的要因」により発生しているが、その要因に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 材質構造不良 (2) 機関取扱不良 (3) 見張り不十分 (4) 水路調査不十分

.....答 (1)

問5 船長の役割と責任

①小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) いつでも同乗者と船の安全を守らなくてはならない。
(2) 船の最高責任者としての自覚を持って行動しなければならない。
(3) エンジンの出航前点検は、整備士の資格を持った者に行わせなければならない。
(4) 有資格者が何人も乗船する場合は、誰が船長なのかを出航前に決めておかなければならない。

.....答 (3)

②小型船舶の船長が取った行動として法令に違反しないものは、次のうちどれか。

- (1) 船体識別番号を塗りつぶした。
(2) 通知を受けた船舶番号を直ちに船体に表示した。
(3) 登録を受けていない小型船舶を航行させた。
(4) 小型船舶を譲り渡すとき譲渡証明書を交付しなかった。

.....答 (2)

③小型船舶の船長の責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 衝突や乗揚げ事故を起こすと、刑事責任を問われることがある。
(2) 事故にともなって死傷者が発生したときは、刑事責任を問われることがある。
(3) 事故を起こした結果、民事責任を問われることがある。
(4) 家族以外の同乗者が起こした事故であれば、民事責任を問われもることはない。

.....答 (4)

④同乗者に対する船長の責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 同乗者が危険を感じるような操縦をしない。
- (2) 同乗者からの希望があれば、ライフジャケットを着用させる。
- (3) 同乗者には、危険な行為を行わないように注意しておく。
- (4) 同乗者には、船長の指示に従うように言い聞かせておく。

.....答 (2)

⑤小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 出航する前には、安全航行に必要な準備を、順を追って確実に行う。
- (2) 有資格者が何人も乗船する場合は、出航後に役割分担を決める。
- (3) 船の最高責任者なので、同乗者の行為に対しても責任を負う。
- (4) 航行中は、的確で素早い判断により、リーダーシップを発揮する。

.....答 (2)

⑥小型船舶の船長が行った次の行為のうち、船舶安全法に規定された罰則の対象となるものはどれか。

- (1) 船舶検査証書を船内に備えて航行した。
- (2) 船舶検査手帳を自宅に保管して航行した。
- (3) 法定備品を船内に備え付けて航行した。
- (4) 船舶検査済票を船体にはり付けて航行した。

.....答 (2)

⑦小型船舶の船長が、自身の所有する船舶を航行させるときに心掛ける事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶検査手帳を船内に備えたまま、船舶を航行させてはならない。
- (2) 船舶検査証書の有効期間が満了した状態で、船舶を航行させてはならない。
- (3) エンジンを乗せ換えたときは、臨時検査を受けて船舶を航行させなければならない。
- (4) 法定備品をすべて備えた状態で、船舶を航行させなければならない。

.....答 (1)

⑧小型船舶の船長の責任について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。(船舶安全法)

- (A) 指定された航行区域を超えて船舶を航行させても、1海里までなら罰則は適用されない。
- (B) 最大搭載人員を超える人員を乗せて航行させても、1人までなら罰則は適用されない。

- (1) (A)だけ正しい
- (2) (B)だけ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (4)

⑨小型船舶の船長又は所有者が、小型船舶操縦者法に規定された罰則の適用を受けないのは、次のうちどれか。

- (1) 小型船舶操縦者の遵守事項に違反し、累積点数が基準に達した場合
- (2) 小型船舶操縦免許の航行区域を超えて船舶を操縦した場合
- (3) 小型船舶操縦士を船長以外の同乗者として乗船させた場合
- (4) 小型船舶操縦免許証を他人に譲^{ゆず}ったり貸したりした場合

.....答 (3)

⑩小型船舶の船長がとった行動として法令に違反するものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶検査証書を自宅に保管して航行した。
- (2) エンジンを乗せ換え、臨時検査を受けて航行した。
- (3) 船舶検査手帳を船内に備えたまま航行した。
- (4) 船舶検査済票を両船側にはり付けて航行した。

.....答 (1)

⑪小型船舶の船長の責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 衝突や乗揚げ事故を起こすと、行政処分を受けることがある。
- (2) 事故にともなって死傷者が発生したときは、刑事責任を問われることがある。
- (3) 事故を起こした場合、損害賠償責任を問われることがある。
- (4) 同乗者が起こした事故の場合は、民事責任を問われることはない。

.....答 (4)

⑫小型船舶の船長がとった行動として法令に違反するものは、次のうちどれか。

- (1) 操縦免許証が失効したままで、水上オートバイを操縦した。
- (2) 操縦免許証を船内に保管して、小型船舶を操縦した。
- (3) 登録を受けている小型船舶を借りて航行させた。
- (4) 小型船舶を譲ったので、譲渡証明書を交付した。

.....答 (1)

⑬小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 小型船舶の船長には、大型船の船長と同じように社会的な責任と義務がある。
- (2) 船の最高責任者なので、リーダーシップを発揮して何ごとにも的確な判断をする。
- (3) 水域ごとのルールや遵守事項を守り、他の利用者と譲り合^{ゆず}って水域を利用する。
- (4) 同乗者が操縦中に起こした事故については、どんな場合でも船長に法的責任はない。

.....答 (4)

⑭小型船舶の船長が所有する船舶の登録について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 登録を受けていない船舶を航行させてはならない。
- (2) 登録を受けた場合は、自分で船体識別番号を船体に刻まなければならない。
- (3) 登録を受けた場合は、船舶番号を船体に表示しなければならない。
- (4) 登録を受けた船舶を他人に語る場合は、譲渡証明書を^{じょうと}作成して交付しなければならない。

.....答 (2)

⑮海難審判法に規定された懲戒に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 戒告^{かいこく} (2) 罰金 (3) 免許の取消し (4) 業務の停止

.....答 (2)

⑯小型船舶の船長が行った次の行為のうち、船舶安全法に規定された罰則の対象とはならないものはどれか。

- (1) 指定された航行区域を超えて船舶を航行させた。
- (2) 船舶検査済票を両船側にはり付けた船舶を航行させた。
- (3) 中間検査を受けずに船舶を航行させた。
- (4) 最大搭載人員を超える旅客を乗せて船舶を航行させた。

.....答 (2)

⑰小型船舶操縦者法により、罰則の適用を受けることとなるのは、次のうちどれか。

- (1) 失効した操縦免許証で操縦したが、事故を起こさなかった。
- (2) 有効な操縦免許証を持っていたが、他の小型船舶操縦士を同乗させた。
- (3) 操縦免許証を身に付けず、小型船舶の船内に保管して操縦した。
- (4) 特殊小型船舶操縦士の操縦免許証で水上オートバイを操縦した。

.....答 (1)

⑱小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 出航してから港へ帰るまで、常に同乗者と船の安全を守らなくてはならない。
- (2) 船の最高責任者としての自覚を持って行動しなければならない。
- (3) エンジンの発航前点検は、整備士の資格を持った者に行わせなければならない。
- (4) 有資格者が何人も乗船する場合は、誰が船長なのかを出航前に決めておかなければならない。

.....答 (3)

⑲船長が所有する小型船舶を航行させるときの注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶を航行させるときは、船舶検査手帳を自宅に保管しておかなければならない。
- (2) 船舶検査証書の有効期間が切れていても、船舶を航行させてかまわない。
- (3) 定期検査を受けていれば、エンジンを乗せ換えても検査を受ける必要はない。
- (4) 法定備品は、すべて船内に備えておかなければならない。

.....答 (4)

⑳小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 小型船舶の船長には、大型船の船長と同じように社会的な責任と義務がある。
- (2) 船の最高責任者なので、リーダーシップを発揮して何ごとにも的確な判断をする。
- (3) 水域ごとのルールや遵守事項を守り、他の利用者と譲り合って水域を利用する。
- (4) 同乗者が操縦中に起こした事故については、どんな場合でも船長に法的責任はない。

.....答 (4)

㉑小型船舶の船長が所有する船舶の登録について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 登録を受けていない船舶を航行させてはならない。
- (2) 登録を受けた場合は、自分で船体識別番号を船体に刻まなければならない。
- (3) 登録を受けた場合は、船舶番号を船体に表示しなければならない。
- (4) 登録を受けた船舶を他人に譲る場合は、譲渡証明書を作成して交付しなければならない。

.....答 (2)

㉒小型船舶の船長の責任について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。 (船舶安全法)

- (A) 指定された航行区域を超えて船舶を航行させても、1海里までなら罰則は適用されない。
- (B) 最大搭載人員を超える人員を乗せて航行させても、1人までなら罰則は適用されない。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (4)

問 6 シーマンシップと海のマナー

①遊泳者に対する注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 遊泳者に危険を与えるおそれがあるので、海水浴場に近づいてはならない。
- (B) 付近に遊泳者を発見した場合には、できるだけ速力を落とすか、停船しなければならない。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

②ダイビング中の船舶に対する注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ダイビング船には必ず警戒船が付き、ダイバーの上を絶えず旋回している。
- (2) 船長自らが潜っていて、ダイビング船にはだれもない場合がある。
- (3) ダイビング中の標識として、「A旗」を掲げている場合がある。
- (4) ダイビング船から離れた場所にダイバーがいることもある。

.....答 (1)

③「私は、潜水夫を降ろしている。微速で十分避けよ。」を意味する国際信号旗の配色は、次のうちどれか。

ただし、白、青、赤は信号旗の色を表す。



.....答 (1)

④下図に示す国際信号旗の意味は、次のうちどれか。ただし、赤は信号旗の色を表す。

- (1) 人が、海中に落ちた。
- (2) 私は、危険物を荷役中または運送中である。
- (3) あなたは、すぐ停船されたい。
- (4) 私は、潜水夫を降ろしている、微速で十分避けよ。



.....答 (2)

⑤小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 暴走や見せびらかし走行といった、他人に迷惑がかかる行為をしないこと。

(B) 水域を不法に占拠したり、他人の係留施設に無断で係留したりしないこと。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑥小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 海水浴場や人家の近くでは、高速で航行しないようにする。

(2) 早朝や夜間には、なるべく出入港を行わないようにする。

(3) 定置網や養殖施設からは、離れて航行するようにする。

(4) 暖機運転は、空吹かしを繰り返しながら行うようにする。

.....答 (4)

⑦トレーラブルポートに関する注意について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 持ち込んだボートをスロープから水面に下ろす場合は、その施設の管理者に許可を受けてから利用する。

(B) 上げ下ろしをしようとする場所が車両乗り入れ禁止区域に指定されていないかどうか、あらかじめ確認しておく。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑧小型船舶の船長が注意しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 操縦者の免許と乗船する船舶の両方に適合した航行区域内を航行すること。

(2) 交通量が多く大型船も通航している航路であっても、航路内を航行すること。

(3) 係留は、保管契約を結んだか許可を受けた場所に行き、不法係留や無断係留はしないこと。

(4) 早朝や夜間に出入港するときは、まわりの住民に迷惑をかけないように注意すること。

.....答 (2)

⑨ダイバーに対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) ダイバーにはいつでも警戒船が付いているので、その船を目標としてダイバーを避ける。

(2) ダイバーが潜水していることを示す標識が掲げられていない場合があるので注意する。

(3) 日頃からダイバーが潜水していることが多い水域は、できるだけ離れて航行する。

(4) ダイバーがいる可能性がある水域では、いつ出会ってもすぐ止まれるような速力で航行する。

.....答 (1)

⑩小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

(1) 見せびらかし走行は、他人に迷惑をかけることがないので行ってもよい。

(2) 操船に自信があれば、海水浴場に近づいて航行しても危険はない。

(3) 手こぎボートは引き波に強いので、すぐ近くを高速で航行してもよい。

(4) 操業中の漁船からはできるだけ離れ、引き波を立てないように航行する。

.....答 (4)

⑪小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 操業中の漁船からはできるだけ離れ、引き波を立てないように注意して航行する。

(B) 手こぎボートは引き波の影響を受けにくいので、すぐ近くを航行する場合でも特に速力を落とさなくてもよい。

(1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑫釣りをしている船舶に対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 早めに汽笛を鳴らして避けてもらうようにする。

(2) 引き波を立てないように気をつけて航行する。

(3) 釣りに熱中してまわりを見ていないことがある。

(4) エンジンを止めて、漂流しながら釣りをしていることがある。

.....答 (1)

⑬小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) ダイバーが潜水している水域は高速で通過する。

(B) 手こぎボートがいる水域には近づかない。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑭小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 見せびらかし走行は、他人に迷惑をかけることがないので行ってよい。

(B) 所有者が分からない桟橋であれば、短時間なら自由に係留してもかまわない。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (4)

⑮小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

(1) 見せびらかすように航行することは、特に危険でなければ構わない。

(2) 作業船の近くを航行する場合は、なるべく高速で素早く通過する。

(3) ダイバーが潜っている水域からは、できるだけ離れて航行する。

(4) 通航船舶の多い航路では、できるだけ大型船に近づいて航行する。

.....答 (3)

⑯小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

(1) 工事区域の近くには、できるだけ近づかないように注意して航行する。

(2) 錨泊びようはくしている船舶のすぐ近くを航行する場合は、高速で素早く通過する。

(3) 水中作業をしている船を見つけたら、確認のため十分に近づいて航行する。

(4) 出航するときは、なるべく早朝や夜間になるように時間を調整する。

.....答 (1)

⑰海上に設置された漁具に関する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 航行予定水域での漁法や漁具に関する情報をあらかじめ調べておく。

(2) 漁具が設置されている水域には、できるだけ近寄らないようにする。

(3) 進路上に漁具を発見した場合、小さなブイ程度なら船首の波で押しよける。

(4) プロペラで漁具を傷付けたようなときは、必ず関係者に届け出る。

.....答 (3)

⑱下図に示す国際信号旗の意味は、次のうちどれか。ただし、白、青は信号旗の色を表す。

(1) あなたは、すぐ停船されたい。

(2) 私は、危険物を荷役中又は運送中である。

(3) 私は、潜水夫を降ろしている、微速で十分避けよ。

(4) 私は、水先人を乗せている。



.....答 (3)

⑲小型船舶の船長が注意しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 船長の免許と乗船する小型船舶の両方に適合した航行区域内を航行すること。

(2) 大型船が通航している交通量の多い航路であっても、航路内を航行すること。

(3) 係留は、保管契約を結んだか許可を受けた場所に行い、不法係留や無断係留はしないこと。

(4) 早朝や夜間に出入港するときは、まわりの住民に迷惑をかけないように注意すること。

.....答 (2)

⑳不要になった船の処理方法を確認するときの問い合わせ先として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 消防署 (2) 海上保安庁 (3) 地方自治体 (4) マリーナ

.....答 (1)

問 7 安全な航海をするための船長の心得

①航行予定水域の状況を確認する方法として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 海図やプレジャーボート・小型船用港湾案内(Sガイド画像)で調べる。
- (2) 航行予定水域付近のマリーナや漁業協同組合に問い合わせる。
- (3) 航行予定水域を管轄する海上保安部に問い合わせる。
- (4) 使用する船舶の船舶検査証書や船舶検査手帳で調べる。

.....答 (4)

②小型船舶の船長が、出航前に確認しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 係留ロープや船体の損傷の有無を確認する。
- (2) 暖機運転中のエンジンの状態を確認する。
- (3) 信号紅炎や消火器を試用してみる。
- (4) 当日の気象や海象の情報を入手する。

.....答 (3)

③小型船舶の船長が同乗者に対して注意すべき事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 飛び乗りや飛び降りをさせないようにする。
- (2) ゴミは船外に捨てさせ、船内を汚さないようにする。
- (3) 乗船中は、低い姿勢をとらせるようにする。
- (4) 服装や靴についても細かい注意を払うようにする。

.....答 (2)

④気象庁予報部の気象情報を聞くことができる電話番号は、次のうちどれか。

- (1) 115 (2) 117 (3) 118 (4) 177

.....答 (4)

⑤小型船舶の船長の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 養殖いかだや定置網などの漁業施設の付近は、低速で通過する。
- (2) 気象や海象の変化に注意し、不安を感じた場合はすぐに帰港する。
- (3) 他船の故障や事故を発見した場合は、できる限り救助に向かう。
- (4) 定員を超えて乗船させる場合は、人数分のライフジャケットを用意する。

.....答 (4)

⑥小型船舶の船長の心得として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 気象や海象の変化に不安を感じても、航海計画どおりに航行することを優先する。
- (2) 同乗者が船内で出したゴミは船外に捨てさせ、船内を汚さないようにする。
- (3) 養殖いかだや定置網などの漁業施設の付近では、引き波を立てないようにする。
- (4) 他船の故障や事故を発見しても、かかわらないようにする。

.....答 (3)

⑦航海計画を立てるときに考慮すべき事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 燃料消費量はいつも一定ではなく、海域の状況によって変わること。
- (2) あらかじめ、同乗者の航海中の役割分担を決めておく必要があること。
- (3) 複数の艇で航海する場合、速力や航続距離などの性能は各艇ごとに異なること。
- (4) 慣れ親しんでいる水域であれば、海図や港湾案内等による事前の調査は必要ないこと。

.....答 (4)

⑧安全な航行をするために船長がとった次の判断のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 天候が悪化しつつあったが、荒天準備よりも、とりあえず目的地へ直行することを優先した。
- (2) 日没を過ぎたので、窓に反射した明かりが見張り^{さまた}げ妨げないように、計器の照明を調整した。
- (3) 交通が混み合う水域にさしかかったので、見張りをしやすくするため、速力を落とした。
- (4) 会話をしたり、ラジオを聞いている最中でも、エンジンやまわりの音の状況変化に注意した。

.....答 (1)

⑨小型船舶の船長が、出航するときに家族やマリナーなどに知らせておかなければならない事項として最も重要なものは、次のうちどれか。

- (1) 燃料の搭載量 (2) 機関の出力 (3) 帰港予定時刻 (4) 免許の種類

.....答 (3)

⑩航海計画について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 同乗する初心者や子供に気を配った、無理のない計画を立てる。
(2) 海上経験の豊かな同乗者がいれば、計画を立てる必要はない。
(3) 計画の内容は、あらかじめ同乗者に知らせておく。
(4) 航行中に計画内容を変更する場合は、家族やマリナーに連絡をする。

.....答 (2)

⑪気象情報を確認する方法として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) テレビや新聞、ラジオなどを利用して当日の天気予報を調べる。
(2) インターネットの気象情報サイトを利用して確認する。
(3) その土地特有の気象現象や予測方法をマリナーなどで確認する。
(4) 117番に電話をして気象庁予報部の気象情報を聞く。

.....答 (4)

⑫通信手段として、海上で携帯電話を使用する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 予備のバッテリーを用意しておく。 (2) 通話可能範囲を確認しておく。
(3) 使わない時は、電源を切っておく。 (4) できるだけ防水対策をしておく。

.....答 (3)

⑬小型船舶の船長が同乗者に対して注意しておく事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 乗下船するときに、飛び乗ったり飛び降りたりさせないようにする。
(2) 航行中に生じたゴミは船外に捨てさせ、船内を汚させないようにする。
(3) 人と船の安全のため、航行中は低い姿勢をとらせるようにする。
(4) 落水事故を防止するため、身体を船外に乗り出させないようにする。

.....答 (2)

⑭小型船舶の船長が航海計画を立てる場合の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) その船が出せる最高速度をもとにして計画を立てる。
(2) 暗礁あんしょうの多い水域から離れたコースを設定する。
(3) 天候が悪くなったときのための避難港を選んでおく。
(4) できるだけ夜間の航海をしないような計画を立てる。

.....答 (1)

⑮小型船舶の船長の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 養殖いかだや定置網などの漁業施設の付近は、低速で通過する。
(2) 気象や海象の変化に注意し、不安を感じた場合はすぐに帰港する。
(3) 他船の故障や事故を発見した場合は、できるだけ救助に向かう。
(4) 定員を超えて乗船させる場合は、人数分のライフジャケットを用意する。

.....答 (4)

⑯小型船舶に乗船する場合の服装について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 出航するときに晴れていれば、雨具は準備しなくてもよい。
(2) 軽快で動きやすく、素肌の露出が少ない服装がよい。
(3) 靴やブーツは底が柔らかく、滑りにくいものがよい。
(4) 陸上よりも寒さを感じやすいので、1枚余分に準備しておくほうがよい。

.....答 (1)

⑰航行予定水域の情報や交通ルールを確認するときの問い合わせ先として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) その地域のマリーナやマリショップ
- (2) その地域の地方気象台
- (3) 海上保安部や地方自治体
- (4) その地域の漁業協同組合

.....答 (2)

⑱小型船舶の船長の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 法定備品は、航行中に使用するものだけを選んで積み込む。
- (2) 発航前の点検は、短時間の航海であっても必ず行う。
- (3) 余分にライフジャケットを積み込んでいても、定員を超えて乗船させない。
- (4) あらかじめ天気予報を確認していても、観天望気を行う。

.....答 (1)

⑲海上で携帯電話を使用する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 防水対策として防水パックに入れるか、防水機能があるものを使用する。
- (2) 日本国内の場合、すべての携帯電話で海岸から20海里までの通話が保証されている。
- (3) いつでも身に付けておき、緊急時には素早く使用できるようにしておく。
- (4) 海上保安庁への直通番号(緊急通報用電話番号)を登録しておく。

.....答 (2)

⑳小型船舶を操縦する場合の体調管理について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 前日には十分な睡眠時間をとるようにする。
- (2) 当日、体調が悪い場合は出航しないようにする。
- (3) 風邪をひいたときには薬を多めに飲んでから操縦する。
- (4) 前日の飲酒の影響が残った状態で操縦しないようにする。

.....答 (3)

問 8 事故が起きた時の対応

①小型船舶における事故発生時の対応について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) まず自分自身で、全力を挙げて応急処置をとる。
- (2) 救助が必要な場合には遭難信号を行い、付近の船舶に救助を求める。
- (3) 緊急通報は、海上では海上保安庁に行い、湖や川では警察に行く。
- (4) 他船の事故を目撃したときには、現場に急行して、まず船体の安全確保に努める。

.....答 (4)

②海上における事件や事故の緊急通報用電話番号は、次のうちどれか。

- (1) 115
- (2) 117
- (3) 118
- (4) 177

.....答 (3)

③船から落水した場合の対処として適切でないものは次のうちどれか。

- (1) 浮くものにつかまり、浮力を確保する。
- (2) 発見されやすいように、落水した場所で救助を待つ。
- (3) できるだけ泳がず、体力を温存する。
- (4) あわてず、服を脱いで身軽になる。

.....答 (4)

④遭難した場合の通報先について述べた次の文のうち、最も適切なものはどれか。

- (1) 海上では海上保安庁に通報し、湖や川では警察に通報する。
- (2) 海上では警察に通報し、湖や川では海上保安庁に通報する。
- (3) 遭難場所がどこであっても、必ず海上保安庁に通報する。
- (4) 遭難場所がどこであっても、必ず警察に通報する。

.....答 (1)

⑤他の船舶の事故を知った場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 携帯電話で連絡を受けた場合は、船位を正確に聞いてから救助に向かう。
- (2) 信号紅炎等の遭難信号で事故を知った場合は、直ちに救助に向かう。
- (3) 事故を目撃した場合は、二次災害を防ぐため、必ず泳いで救助に向かう。
- (4) 海上で事故を発見した場合は、必要に応じて「1 1 8番」に通報する。

.....答 (3)

⑥遭難して救助を求める場合の措置について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 遭難信号など、あらゆる手段を使って救助を要請する。
- (2) 捜索救助は、海上でも湖川でも海上保安庁に要請する。
- (3) 無線機や携帯電話があれば、救助を求める手段として積極的に使用する。
- (4) 救助を求めるときには、特に自船の位置を正確に伝える。

.....答 (2)

⑦海上で事故が発生したときの処置について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 救助が必要な場合は、遭難信号を発し、付近の船舶に救助を求める。
- (2) 救助を求める場合は、自船の位置や事故の発生状況等の情報を正確に伝える。
- (3) 落水した場合は、衣服を脱いで身軽になり、岸に向かって全力で泳ぐ。
- (4) 他の船舶の事故を目撃した場合は、できる限り救助に向かう。

.....答 (3)

⑧航行中に事故が起きた場合の措置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 負傷者がいないかどうか、いればその程度はどうかを確認する。
- (2) 落ち着いて状況を確認し、必要があれば救助を求める。
- (3) 衝突した場合は、船体の安全確保を最優先に考える。
- (4) 落水した場合は、無理に泳がず浮力の確保に努める。

.....答 (3)

⑨小型船舶の船長が事故を起こした場合にとらなければならない処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) あわてず、冷静に状況を確認する。
- (2) 一番年上の者の指示に従って行動する。
- (3) 人命の救助を最優先する。
- (4) 必要に応じて救助を要請する。

.....答 (2)

⑩プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) プレジャーボートの保険はすべて任意保険であり、強制保険はない。
- (2) 船外機を使用して航行するボートは、保険に加入することができない。
- (3) 水上オートバイは、保険に加入することができない。
- (4) プレジャーボートの保険では、搭乗者に対する補償は受けられない。

.....答 (1)

⑪航行中に事故が起きた場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 冷静になって事故の状況を確認する。
- (2) 救助要請が必要かどうかを判断する。
- (3) 負傷者がいないかどうかを確認する。
- (4) 船体の安全確保を最優先する。

.....答 (4)

⑫船舶が海上、あるいは湖や川で事故を起こした場合の最も適切な通報先は、次のうちどれか。

- (1) 海上では海上保安庁に通報し、湖や川では警察に通報する。
- (2) 海上では警察に通報し、湖や川では海上保安庁に通報する。
- (3) 海上では消防署に通報し、湖や川では海上保安庁に通報する。
- (4) 海上では消防署に通報し、湖や川では海難審判所に通報する。

.....答 (1)

⑬小型船舶における事故発生時の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 損傷状況を確認して、自分の船だけで航行ができるかどうかを判断する。
- (2) 救助が必要な場合であっても、むやみに遭難信号を発信しないようにする。
- (3) 事故が発生した場所によって、海上保安庁と警察のどちらに通報するのかを判断する。
- (4) 他船の事故を目撃したときには、できるだけ救助や協力を行う。

.....答 (2)

⑭プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) プレジャーボートの保険では、搭乗者に対する補償は受けられない。
- (2) プレジャーボートの保険はすべて任意保険であり、強制保険はない。
- (3) 船外機を使用して航行するボートは、保険に加入することができない。
- (4) あまり使用しないプレジャーボートは、保険に加入する必要はない。

.....答 (2)

⑮プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 毎日使用するのでなければ加入する必要はない。
- (2) 強制加入制度がないので、すべて任意で加入する。
- (3) 水上オートバイは加入することができない。
- (4) 船体の損傷は補償の対象とはならない。

.....答 (2)

⑯プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 自船の運航形態に応じた保険を選ぶようにする。
- (2) 万一の場合に備えて、保険に加入しておく方がよい。
- (3) 水上オートバイであっても、保険に加入することができる。
- (4) 自動車の保険のような、強制保険制度がある。

.....答 (4)

⑰プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 自分の船の運航形態に合った保険を選ぶようにする。
- (2) 万一の場合に備えて、保険に加入しておく方がよい。
- (3) 水上オートバイであっても、保険に加入することができる。
- (4) プレジャーボートの保険では、搭乗者に対する補償は受けられない。

.....答 (4)

⑱プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 自動車の保険のような、強制保険制度になっている。
- (2) 船体の損傷だけが補償の対象となっている。
- (3) 水上オートバイは保険に加入することができない。
- (4) 自分の船の運航状態に合った保険を選ぶようにする。

.....答 (4)

問 9 小型船舶操縦者法に基づく遵守事項

①小型船舶の船長の遵守事項として定められた、自ら小型船舶を操縦しなければならないときに当てはまらないものは、次のうちどれか。 (船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 水上オートバイに乗船するとき
- (2) エンジンのない5トン未満の帆船に乗船するとき
- (3) 港則法に基づく港の区域を航行するとき
- (4) 海上交通安全法に基づく航路を航行するとき

.....答 (2)

②小型船舶操縦者法の遵守事項違反に基づく行政処分の免除または軽減の措置を受けるために受講する講習を何というか。次のうちから選べ。

- (1) 違反者講習 (2) 失効再交付講習 (3) 再教育講習 (4) 小型旅客安全講習

.....答 (3)

③小型船舶の船長の遵守事項で禁止されている「危険な操縦の方法」に融当するものは、次のうちどれか。 (船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 釣り船の近くを低速で航行した。
- (2) 障害物のない広い水域を高速で航行した。
- (3) ダイバーを発見したので微速で遠ざかった。
- (4) 付近にいた遊泳者の間を高速ですり抜けた。

.....答 (4)

④小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。 (船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒や薬物の影響により正常に操縦できない場合は、操縦してはならない。
- (2) 水上オートバイに乗船する場合は、免許受有者以外の者が操縦してはならない。
- (3) 港則法に基づく港の区域を航行する場合は、免許受有者が操縦しなければならない。
- (4) 二人以上で水上オートバイに乗船して航行する場合は、操縦者だけがライフジャケットを着用しなければならない。

.....答 (4)

⑤小型船舶の船長の遵守事項に違反して行政処分を受けた場合、その処分の免除または軽減を受けるためには、どのようにすればよいか。次のうちから選べ。 (船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 再教育講習を受講する。(2) 罰金を支払う。
- (3) 略式裁判を受ける。(4) 社会奉仕活動に従事する。

.....答 (1)

⑥小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。 (船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒や薬物の影響などにより正常な操縦ができない同乗者には、操縦させてはならない。
- (2) 水上オートバイを無資格者に操縦させる場合は、有資格者が指揮監督しなければならない。
- (3) 海上交通安全法に基づく航路を航行する場合は、有資格者が操縦しなければならない。
- (4) 水上オートバイに乗船して航行する場合は、ライフジャケットを着用しなければならない。

.....答 (2)

⑦小型船舶の船長の遵守事項に規定されていないものは、次のうちどれか。 (船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 乗船前には、睡眠をよく取り、体調管理を十分に行うこと。
- (2) 発航前には、気象情報や水路情報等の情報収集を行うこと。
- (3) 発航前には、燃料の量や救命設備等の点検を行うこと。
- (4) 事故が起きたときは、人命の救助に必要な手段を尽くすこと。

.....答 (1)

⑧小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒により正常な操縦ができない者に、操縦をさせてはならない。
- (2) 同乗する12歳未満の小児には、ライフジャケットを着用させなければならない。
- (3) 港則法に基づく港の区域では、免許受有者以外の者が操縦してもよい。
- (4) 危険を生じするような速力で、遊泳者に近づいてはならない。

.....答 (3)

⑨小型船舶の船長の遵守事項に定められた「常時適切な見張りの確保」が十分になされていない状況は、次のうちどれか。

- (1) 夜間航行中、レーダーも使用して周囲の状況を監視した。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)
- (2) 霧が出てきたので、船内がぬれないように窓やドアを閉め切った。
- (3) より遠くの水域まで見渡せるように双眼鏡を使用した。
- (4) 自分だけでは不安なので、同乗者にも見張りをしよう指示した。

.....答 (2)

⑩小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 付近に遊泳者がいる場合には、高速で遠ざからなければならない。
- (2) 水上オートバイに乗船して航行する場合は、必ずライフジャケットを着用しなければならない。
- (3) 海上交通安全法に基づく航路を航行する場合は、有資格者が操縦しなければならない。
- (4) 飲酒などの影響により正常に操縦できないおそれのある状態の者に、操縦させてはならない。

.....答 (1)

⑪小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 同乗者が見張りをしていれば、船長は操船に専念して見張りをしなくてもよい。
- (2) 12歳未満の子供を同乗させる場合は、ライフジャケットを着用させなければならない。
- (3) 小型船舶のうち水上オートバイだけが、遊泳者の近くでジグザグ走行してはならない。
- (4) 港内を航行するときは、船長はもちろん同乗者も飲酒をしてはならない。

.....答 (2)

⑫小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒や薬物の影響により正常に操縦できないおそれのある場合は、操縦してはならない。
- (2) 水上オートバイに乗船する場合は、無資格者が操縦してはならない。
- (3) 港則法に基づく港の区域を航行する場合は、有資格者が操縦しなければならない。
- (4) 二人以上で水上オートバイに乗船して航行する場合は、操縦者だけがライフジャケットを着用しなければならない。

.....答 (4)

⑬小型船舶の船長の遵守事項に定められた「自己操縦」について述べた次の文の、(ア)及び(イ)の中に当てはまる適切な語句の組合せは、下のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

「小型船舶の船長は、(ア)に基づく港の区域や(イ)に基づく航路を航行するときは、自ら船を操縦しなければならない。」

- (1) (ア):港則法(イ):海上交通安全法 (2) (ア):船舶安全法(イ):海上衝突予防法
- (3) (ア):港則法(イ):海上衝突予防法 (4) (ア):船舶安全法(イ):海上交通安全法

.....答 (1)

⑭小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 見張りを行わなければならないのは、エンジンをかけて船が動いているときだけである。
- (2) 12歳未満の小児を同乗させる場合は、身体に合ったライフジャケットを着用させる義務がある。
- (3) 遊泳者のすぐそばでの高速航走や縫航ほうこうが禁じられているのは、水上オートバイだけである。
- (4) 酒酔い操縦が禁止されるのは、港内又は海上交通安全法の航路内を航行する場合だけである。

.....答 (2)

⑮小型船舶の船長の遵守事項では、その時の状況に適したすべての手段により常時適切な見張りを行うように規定されているが、次のうち、適切でない手段はどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 遠くまで見えるように双眼鏡を使った。 (2) 同乗者に行わず船長が一人で行った。
(3) 視界が悪くなったので耳をすました。 (4) 暗くなってきたのでレーダーを使用した。

.....答 (2)

⑯小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 酒に酔って正常な操縦ができない者に操縦させてはならない。
(2) 水上オートバイに乗船して航行する場合は、ライフジャケットを着用しなければならない。
(3) 港則法に基づく港の区域を航行するときは、免許受有者が操縦しなければならない。
(4) 自身が安全だと判断すれば、遊泳者のすぐそばで急回転してもかまわない。

.....答 (4)

⑰小型船舶の船長は、その時の状況に適したすべての手段により常時適切な見張りを行わなければならないが、次のうち、適切でない手段はどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 遠くまで見えるように双眼鏡を使った。 (2) 暗くなったので前方の見張りに集中した。
(3) 視界が悪くなったので耳をすました。 (4) 定期的にレーダーを使用して周囲を確認した。

.....答 (2)

⑱小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (A) 小型船舶操縦者が、遵守事項のうちの酒酔い操縦や危険操縦などの禁止された事項に違反し、違反行為の内容および回数が一定の基準に達した場合は、罰金処分が科せられる。
(B) 違反点数が基準に達し、処分を受けることになった者には再教育講習についての通知があり、これを受講することにより処分が軽減される。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑲ライフジャケットの着用義務が適用されないのは、次のうちどれか。次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 航行中の水上オートバイの後部座席に同乗するとき
(2) 航行中の旅客船に乗船して、その船室内にいるとき
(3) 12歳未満の子供が航行中の小型船舶に乗船するとき
(4) 航行中の小型漁船に一人で乗船して漁ろうするとき

.....答 (2)

⑳小型船舶の船長の遵守事項に定められた「常時適切な見張りの確保」が十分になされていない状況は、次のうちどれか。

- (1) 夜間航行中、レーダーも使用して周囲の状況を監視した。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)
(2) 霧が出てきたので、船内がぬれないように窓やドアを閉め切った。
(3) より遠くの水域まで見渡せるように双眼鏡を使用した。
(4) 自分だけでは不安なので、同乗者にも見張りをしよう指示した。

.....答 (2)

㉑小型船舶の船長の遵守事項において、着用が義務付けられているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) サングラス (2) 手袋 (3) ライフジャケット (4) マリンシューズ

.....答 (3)

問 10 小型船舶の免許制度

①操縦免許証の取扱いについて述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 操縦免許証は自宅に置き、その写しを持って操縦する。
- (2) 操縦免許証の有効期間は6年である。
- (3) 操縦免許証の更新は、3年ごとに1回行う。
- (4) 操縦免許証は有効期間の満了日を過ぎると失効する。

.....答 (4)

②特殊小型船舶操縦士の免許は満何歳から取得できるか。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 15 歳 (2) 16 歳 (3) 18 歳 (4) 20 歳

.....答 (2)

③操縦免許証の有効期間を更新する際、身体適正基準に加えて満たさなければならないもう一つの要件に該当しないものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 講習機関が行う更新講習を修了していること。
- (2) 必要な乗船履歴を有していること。
- (3) 操縦免許証の有効期間が満了した後、6か月を経過していないこと。
- (4) 乗船履歴がある者と同等と認められる職務に一定期間従事していたこと。

.....答 (3)

④操縦免許証の有効期間の更新申請はいつから行うことができるか。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 有効期間が満了する日の1か月前 (2) 有効期間が満了する日の1年前
- (3) 有効期間が満了する日の3か月前 (4) 有効期間が満了する日の前後3か月

.....答 (2)

⑤操縦免許証の有効期間を更新するための要件として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 一定の身体適性基準を満たしていること。
- (2) 講習を更新要件にする場合は、更新講習を修了していること。
- (3) 有効期間満了後1年以内に、更新手続きが完了していること。
- (4) 乗船履歴を更新要件にする場合は、所定の乗船履歴があること。

.....答 (3)

⑥小型船舶操縦士の免許制度について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 操縦免許証を他入に貸したり、譲^{ゆず}ったりしてはならない。
- (2) 一級小型船舶操縦士の免許は、18歳未満の者には与えられない。
- (3) 氏名が変わった場合は、操縦免許証の訂正を申請しなければならない。
- (4) 操縦免許証の有効期間は10年で、満了の際には国に返さなければならない。

.....答 (4)

⑦操縦免許証の有効期間を更新することなく満了してしまい、その効力が失われてしまった場合に、再交付を申請するにはどのような手続きをとらなければならないか。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 再教育講習を受講する。 (2) 失効再交付講習を受講する。
- (3) 小型旅客安全講習を受講する。 (4) 1か月以上の乗船履歴を証明する。

.....答 (2)

⑧操縦免許証の有効期間を更新するための要件として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 所定の身体適性基準を満たしていること。
- (2) 講習により更新する場合は、更新講習を修了していること。
- (3) 有効期間満了後3か月以内に、更新手続きが完了していること。
- (4) 乗船履歴により更新する場合は、所定の乗船履歴があること。

.....答 (3)

⑩操縦免許証が失効するのはどのような場合か。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 船を他人に売った。 (2) 有効期間を更新しなかった。
(3) 外国に移住した。 (4) 結婚して名前が変わった。

.....答 (2)

⑪小型船舶操縦士の免許について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 一級小型船舶操縦士の免許は、すべての小型船舶に船長として乗船できる。
(2) 水上オートバイを操縦するには、二級小型船舶操縦士以上の免許が必要である。
(3) 二級小型船舶操縦士の免許は、平水区域及び海岸から5海里以内の水域を航行できる。
(4) 一級小型船舶操縦士の免許は、満16歳以上であれば取得できる。

.....答 (3)

⑫操縦免許証の訂正を申請しなければならないのは、どのような場合か。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 操縦免許証を汚して読めなくなった場合 (2) 本人の氏名が変わった場合
(3) 所有する船の船名が変わった場合 (4) 所有する船の保管場所が変わった場合

.....答 (2)

⑬小型船舶に船長として乗船するときには、操縦免許証をどのように扱わなければならないか。次のうちから選べ。

(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) マリーナや漁業協同組合に預ける。 (2) 船内に備えておく。
(3) 自宅に保管する。 (4) 最寄りの海上保安部に預ける。

.....答 (2)

⑭操縦免許証の取扱いとして誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) なくしたときや文字が読めないほど汚れたときは、再交付を申請することができる。
(2) 小型船舶に船長として乗船するときには、操縦免許証の写しを持って行かなければならない。
(3) 二級小型船舶操縦士が一級の資格を取得したときは、二級の操縦免許証を国に返さなければならない。
(4) 住所を変えたときや記載内容に誤りを発見したときは、訂正申請をしなければならない。

.....答 (2)

⑮操縦免許証の有効期間は何年か。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 3年 (2) 4年 (3) 5年 (4) 6年

.....答 (3)

⑯二級小型船舶操縦士の資格で航行することができる区域として定められているものは、次のうちどれか。

(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 平水区域のみ
(2) 湖や川と海岸から2海里以内の水域まで
(3) 平水区域と海岸から5海里以内の水域まで
(4) 海岸から20海里以内の水域まで

.....答 (3)

⑰小型船舶操縦士の免許について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 二人乗りの手こぎボートに乗るときには、免許は必要ない。
(2) 大型船舶の免許(海技士免許)では、小型船舶の船長にはなれない。
(3) 外国人が日本国内で船長として小型船舶に乗船するときには、免許は必要ない。
(4) エンジン付きの長さ5メートルのヨットに船長として乗船するときには、免許が必要である。

.....答 (3)

⑩小型船舶操縦士免許の資格区分と航行区域を示した下表のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

	資格区分	航行区域
(1)	一級小型船舶操縦士	海岸から50海里以内
(2)	二級小型船舶操縦士	平水区域及び海岸から5海里以内
(3)	二級小型船舶操縦士(第一号限定)	平水区域
(4)	特殊小型船舶操縦士	平水区域

.....答 (2)

問 11 小型船舶の検査及び登録制度

①定期検査に合格した小型船舶に対して交付される書類として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 譲渡証明書 (2) 船舶検査証書 (3) 船舶検査手帳 (4) 船舶検査済票

.....答 (1)

②登録を受けた小型船舶が船体に表示しなければならないものは、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 船舶の長さ (2) 船舶番号 (3) 総トン数 (4) 船舶の種類

.....答 (2)

③船舶検査を受ける必要のない船舶に該当するものは、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 旅客定員7人以上のろかい客船
 (2) 長さ3メートル未満でエンジンの出力が1.5キロワット未満の船舶
 (3) 他の船舶に引かれるエンジン付きの客船
 (4) 沿海区域を超えて航行するヨット

.....答 (2)

④最大搭載人員について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶安全法)

- (1) 船舶検査証書に記されている。
 (2) 船の大きさや性能によって決められている。
 (3) 船の見やすい場所に表示することが義務付けられている。
 (4) 年齢に関係なく、乗船している人は全員最大搭載人員に含まれる。

.....答 (4)

⑤初めて船舶を航行させるとき又は船舶検査証書の有効期間が満了したときに行う検査は、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 中間検査 (2) 定期検査 (3) 臨時検査 (4) 特別検査

.....答 (2)

⑥売買や相続により、小型船舶の所有者に変更があったときに行う登録は、次のうちどれか。

(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録

.....答 (2)

⑦一般の小型船舶(旅客船以外)の船舶検査証書の有効期間は、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 4年 (2) 5年 (3) 6年 (4) 7年

.....答 (3)

⑧登録を受けていない小型船舶を航行させるときに行う登録は、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録

.....答 (1)

⑨プレジャーボートの保管に関する条例について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 不法な係留に対して罰則を適用する条例がある。
 (2) 放置艇を強制的に撤去することを定めた条例がある。
 (3) 保管場所の届出を義務付けている条例がある。
 (4) 橋脚やガードレールを係留設備として利用するよう定めた条例がある。

.....答 (4)

⑩両船側の船外から見やすい場所にはり付け
なければならない、右図に示すステッカーの
名称は、次のうちどれか。(船舶安全法)



(1) 船舶検査証書 (2) 船舶検査手帳 (3) 船舶検査済票 (4) 次回検査時期指定票
.....答 (3)

⑪船舶検査証書に記載されていない事項は、次のうちどれか。(船舶安全法)

(1) 船籍港 (2) 船長名 (3) 最大搭載人員 (4) 航行区域
.....答 (2)

⑫小型船舶の登録に関する事務は、次のうちどこが行っているか。(小型船舶の登録等に関する法律)

(1) 都道府県庁 (2) 日本小型船舶検査機構
(3) 船用メーカー (4) 国土交通省の地方運輸局
.....答 (2)

⑬船舶検査証書に記載されている事項は、次のうちどれか。(船舶安全法)

(1) 航行区域 (2) 船長名 (3) 機関の製造者 (4) 所有者の住所
.....答 (1)

⑭登録している小型船舶を沈没などで失ったときに行う登録は、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

(1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録
.....答 (4)

⑮国際航海に使用しない小型船舶の、1歳以上の最大搭載人員の算出方法について述べた次の文のうち、
正しいものはどれか。(船舶安全法)

(1) 1歳以上6歳未満の子供は3人を2人として計算する。
(2) 1歳以上6歳未満の子供は2人を1人として計算する。
(3) 1歳以上12歳未満の子供は3人を2人として計算する。
(4) 1歳以上12歳未満の子供は2人を1人として計算する。
.....答 (4)

⑯小型船舶の登録の種類と、その説明の組合せとして誤っているものは、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

(1) 新規登録 …… 登録を受けていない小型船舶が最初に行う登録
(2) 移転登録 …… 登録されている所有者に変更があったときに行う登録
(3) 変更登録 …… 登録されている船名を変更するときに行う登録
(4) 抹消登録 …… 登録小型船舶が沈没などで船舶として存在しなくなったときに行う登録
.....答 (3)

⑰5人家族のAさん宅は、4人家族のBさん宅とCさん宅とでレンタルボートを借りることになった。マリーナに問い合わせたところ、
定員(最大搭載人員)は10人だった。合計人数と乗船の可否について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。なお、各家
族の構成は下表のとおりである。(船舶安全法)

Aさん宅	父	母	長女12歳	次女10歳	長男3歳
Bさん宅	父	母	長男11歳	次男6歳	
Cさん宅	父	母	長女7歳	長男2歳	

(1) 合計人数が13人なので、全員が乗船することはできない。
(2) 6歳未満は算入しないが、合計11人で全員が乗船することはできない。
(3) 12歳未満は2人で1人に換算するので、合計10人で全員乗船することができる。
(4) 大人1人に対して小人1人は算入しないので、合計7人で全員乗船することができる。
.....答 (3)

⑱国際航海に従事しない小型船舶の、最大搭載人員の算出方法について述べた次の文の(ア)～(ウ)の中に当てはまる数値の正しい組合せは、下のうちどれか。

「1歳未満は算入せず、1歳以上(ア)歳未満のものは(イ)人をもって(ウ)人に換算する。」

(船舶安全法)

- (1) (ア) : 12 (イ) : 2 (ウ) : 1 (2) (ア) : 15 (イ) : 3 (ウ) : 2
(3) (ア) : 12 (イ) : 3 (ウ) : 2 (4) (ア) : 15 (イ) : 2 (ウ) : 1

.....答 (1)

⑲小型船舶の長さや推進機関の種類などに変更があったときに行う登録は、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録

.....答 (3)

⑳移転登録はどのようなときに行う登録か。次のうちから選べ。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 小型船舶の船籍港を移転したとき (2) 小型船舶の所有者に変更があったとき
(3) 小型船舶の所有者の住所を移転したとき (4) 小型船舶の船名を変更したとき

.....答 (2)

㉑船体の改造又は航行区域など船舶検査証書に記載された航行上の条件を変更するときに受ける検査は、次のうちどれか。

(船舶安全法)

- (1) 定期検査 (2) 臨時検査 (3) 中間検査 (4) 臨時航行検査

.....答 (2)

問 12 環境への配慮

①環境への配慮として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 騒音や大気汚染につながるため、エンジンの悪質な改造を行わないようにする。
(2) 出航前の点検時は、できるだけエンジンの回転を上げて調子確かめるようにする。
(3) 岸から十分に離れるまで、必要以上にスピードを上げて航行しないようにする。
(4) 生態系に与える影響を小さくするため、環境対応型のエンジンを使うようにする。

.....答 (2)

②環境への配慮について述べた次の文のうち、適当なものはどれか。

- (1) 海洋生物の生活環境を良好にするので、まき餌は大量に行う。
(2) 水鳥を死傷させることがあるので、切れた釣り糸は回収して持ち帰る。
(3) 航行中であれば特に支障はないので、ビニール袋は水中に捨てる。
(4) プロペラにからむことはないため、ロープの切れはしは水中に捨てる。

.....答 (2)

③海に捨てられたゴミ等による影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 捨てられた釣り糸がプロペラにからまり、推進器の故障につながることもある。
(2) 捨てられた釣り針や釣り糸が水鳥の足や体にかみ付き、死傷させることがある。
(3) 大量のまき餌は魚介類の栄養源となり、養殖漁業に悪い影響を与えることがある。
(4) 捨てられたゴミによって、海網や漁具が損害を受けることがある。

.....答 (3)

④環境への配慮について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 航行中にたまったビルジは、油水分離器で油分を取り除いてから排出する。
(2) 係留中に生じたゴミは、出航後、広い水域に出てから捨てる。
(3) 切れたロープは、プロペラにからみ他船を航行不能にすることがあるので捨てないようにする。
(4) 釣り針や釣り糸は、ダイバーや水生動物を傷付けることがあるので捨てないようにする。

.....答 (2)

⑤小型船舶の係留や処分について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 大きな河川であれば、自由に杭を打ちつけて係留場所にすることができる。
- (2) 無許可で係留する場合は、他の船舶の航行の邪魔にならないよう、きちんと係留しておく。
- (3) まわりの景観に影響を与えないと判断すれば、不要になった船舶はどこにでも放置できる。
- (4) 船舶の処分方法が分からない場合は、海上保安部や自治体等に問い合わせる。

.....答 (4)

⑥環境への配慮について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 岸から十分に離れるまで、エンジン音を上げないようにする。
- (2) 早朝や夜間には、不必要なエンジンの始動は行わないようにする。
- (3) 環境への影響が小さければ、消音器はなるべく外すようにする。
- (4) 排出ガス規制に適合した、環境対応型のエンジンを使うようにする。

.....答 (3)

⑦環境への配慮について述べた次の文のうち、適当なものはどれか。

- (1) 騒音対策のため、排出ガス規制が強化される以前のエンジンを使うようにする。
- (2) 陸上でエンジンを始動したときは、なるべく短時間で大きく空吹かしを行うようにする。
- (3) 岸から十分に離れるまで、エンジン音を上げないような操縦を心掛けるようにする。
- (4) 人家に近い水域での騒音をともなうような操縦は、日中に行うようにする。

.....答 (3)

⑧環境保全に関するルールについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律により、船舶からの油の排出が規制されている。
- (B) 環境保全を目的とした条例により、航行できる水域や時間帯が制限されている場合がある。
- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑨環境への配慮として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 漁業に大きな被害を及ぼすので、廃油や油を含んだビルジを捨ててはならない。
- (2) 海岸や砂浜を汚すので、ゴミや汚物を捨ててはならない。
- (3) 生物の生活環境を壊すので、弁当や釣り餌の残りを捨ててはならない。
- (4) 船舶の故障や海難の原因となるので、海底に沈むもの以外は捨ててはならない。

.....答 (4)

⑩油や廃棄物を海洋に排出することが特別に許されるのはどのような場合か。次のうちから選べ。

- (1) 油水分離器を通さないビルジの排出 (海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律)
- (2) 軽油やガソリンのような粘度の低い油の排出
- (3) 船舶の安全を確保するための廃棄物の排出
- (4) 海底に沈んでしまうような廃棄物の排出

.....答 (3)

⑪不法係留や放置船による影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船舶所有者と付近の住民との間にトラブルが生じることがある。
- (2) 船体の破損や沈没により、水域の景観や水質を汚すことがある。
- (3) 船舶交通がなめらかになり、工事作業がはかどることがある。
- (4) 高潮や洪水のときに船舶が流されて、被害が大きくなる可能性がある。

.....答 (3)

⑫環境への配慮として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) まき餌は海洋生物の生活環境を良好にするので、大量に行うようにする。
- (2) 切れた釣り糸は水鳥を傷付けることがあるので、回収して持ち帰るようにする。
- (3) ビニール袋は航行の支障になることはないので、水中に捨てるようにする。
- (4) ロープの切れはしはプロペラにからむことはないので、水中に捨てるようにする。

.....答 (2)

⑬不法係留^{たかしお}や放置船による影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 高潮や洪水時に流水を止めるので、被害を最小限に抑える効果がある。
- (2) 無秩序に係留された船舶は、他の船舶の通航や工事作業の妨げとなる。
- (3) 所有者がわからないまま放置された船舶は、やがて沈没して大きな障害となる。
- (4) 生活環境や景観が悪くなって、住民や漁業者等とトラブルになる。

.....答 (1)

⑭海に捨てられたゴミなどによる影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 釣り糸の切れはしがプロペラシャフトにからまり、推進器の故障につながる場合がある。
- (2) ビニール袋が冷却水の取入口をふさぎ、エンジンがオーバーヒートを起こす場合がある。
- (3) 海底に沈んだ大量のまき餌は、海洋生物の生活環境にいい影響を与える場合がある。
- (4) 不法に捨てられたゴミや油により、漁網や漁具が被害を受ける場合がある。

.....答 (3)

⑮小型船舶の係留や処分について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 大きな河川であれば、自由に杭を打ちつけて係留場所にすることができる。
- (2) 無許可で係留する場合は、他の船舶の航行の邪魔にならないように係留しておく。
- (3) まわりの景観に影響を与えなければ、不要になった船舶はどこにでも放置できる。
- (4) 船舶の処分方法が分からない場合は、自治体やマリーナなどに問い合わせる。

.....答 (4)

⑯環境への配慮として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 出航前の点検時は、できるだけエンジンの回転数を上げて調子を確認する。
- (2) 使用する船には、できるだけ環境に与える影響が少ないエンジンを搭載する。
- (3) 出航するときは、できるだけ速力を上げて、早く岸から離れる。
- (4) 所有する船を処分するときは、沖合の安全な場所に沈める。

.....答 (2)

⑰大量の原油や重油などの油が広範囲に渡って海面に広がっていることを発見し、「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律」に基づいて通報する場合、通報先として最も適切なものは、次のうちどこか。

- (1) 消防本部・消防署
- (2) 地方海難審判所
- (3) 都道府県警警察署
- (4) 海上保安部・保安署

.....答 (4)

⑱日本国内で販売するマリンガソリンエンジンを対象として、日本の業界団体が行っている排出ガス規制について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 規制の対象となっているのは、水上オートバイのエンジンだけである。
- (B) 規制により、4ストロークガソリンエンジンや環境対応型の直噴式2ストロークガソリンエンジンに順次切り替わっている。

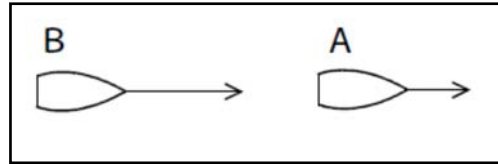
- (1) (A)だけ正しい
- (2) (B)だけ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (2)

【交通の方法】

問 13 行き会い船・追い越し船

①右図に示すように、広い水域において、航行中のA船がB船に追い越される場合、A船の航法として正しいものは、次のうちどれか。 (海上衝突予防法)



- (1) Bが針路を転じた側と反対側に舵かじを取り、停止する。
- (2) 早めに大きく左転をして、Bに進路を譲る。
- (3) Bに注意しながら、針路と速力を保って航行する。
- (4) 針路を保ったまま速力を落とし、Bが通り過ぎるのを待つ。

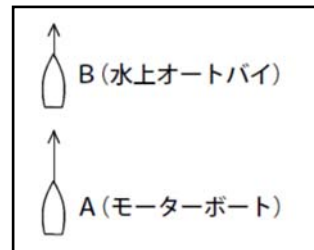
.....答 (3)

②広い水域において、他の船舶に追い越される船舶の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
- (2) 追い越される側の反対側に針路を転じる。
- (3) かりうじて舵が効く程度まで速力を落とす。
- (4) エンジンを停止して、追越し船が通り過ぎるのを待つ。

.....答 (1)

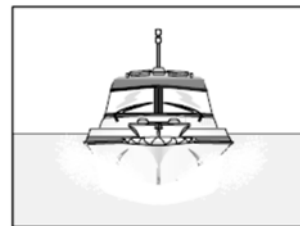
③右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越す場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) Aは、Bに十分近づいてから追い越す。
- (2) Aは、Bの進路を避けて航行する。
- (3) Bは、速力を保ち、針路を変更する。
- (4) Bは、できる限り早めに停止する。

.....答 (2)

④航行中のA動力船が、その正船首方向に右図に示すような態勢で近づいてくる他の動力船を認め、衝突するおそれがあるとき、A船はどのように操船しなければならないか。次のうちから選べ。 (海上衝突予防法)

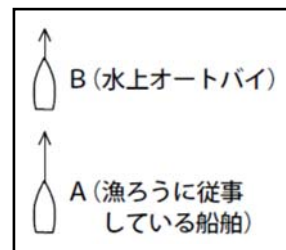


- (1) 大幅に左転して、他船の進路を避ける。
- (2) 早めに、大角度の右転をして、他船の進路を避ける。
- (3) 針路を保ったまま、舵かじが効く程度まで速力を落とす。
- (4) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。

.....答 (2)

⑤右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)



- (1) Aは、Bの動きを確認するため速力を上げて近づく。
- (2) Aは、できる限りBに近づいてから追い越す。
- (3) Bは、Aの進路を避けて航行する。
- (4) Bは、針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。

.....答 (4)

⑥行会い船の航法について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「2隻の動力船が真向かいに行き会い衝突するおそれがあるとき、各動力船はそれぞれ針路を()に転じなければならない。」
(海上衝突予防法)

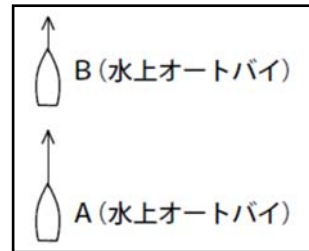
- (1) 風上 (2) 風下 (3) 右 (4) 左

.....答 (3)

⑦右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) Aは、針路を保って航行しなければならない。
- (2) Bは、針路、速力を保ち、十分に注意して航行しなければならない。
- (3) Aは、早めに速力を落として航行しなければならない。
- (4) Bは、できる限り早めに停止しなければならない。

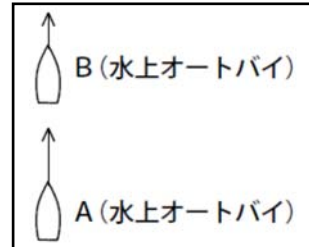


.....答 (2)

⑧右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) Aは、Bの動きを確認するため速力を上げて近づく。
- (2) Bは、針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
- (3) Aは、できる限りBに近づいてから追い越す。
- (4) Bは、追い越される反対舷側(げん)に転舵(てんた)する。



.....答 (2)

⑨航行中の2隻の船舶に衝突のおそれがあるとき、互いに針路を右に転じなければならないのは、次のうちどの場合か。

(海上衝突予防法)

- (1) 動力船と動力船が真向かいに行き会う場合
- (2) 帆船と帆船が真向かいに行き会う場合
- (3) 運転不自由船と帆船が真向かいに行き会う場合
- (4) 漁ろうに従事している船舶と操縦性能制限船が真向かいに行き会う場合

.....答 (1)

⑩航行中の2隻の動力船が真向かいに行き会い衝突するおそれがある場合、両船が互いにとらなければならない航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

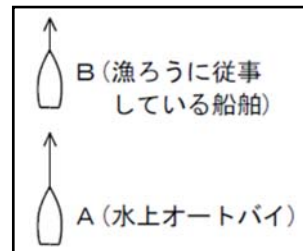
- (1) 針路、速力を保つ。
- (2) 針路を左に転じる。
- (3) 針路を右に転じる。
- (4) 速力を落とす。

.....答 (3)

⑪右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越す場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) AはBの動きを確認するため速力を上げて近づく。
- (2) Bは針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
- (3) AはできるだけBのすぐそばを追い越す。
- (4) Bは操業を一時やめて、直ちに停船する。



.....答 (2)

⑫2隻の船舶の間に衝突のおそれがあるとき、互いに針路を右に転じなければならないのは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) 帆船が動力船を追い越す場合
- (2) 帆船と帆船が真向かいに行き会う場合
- (3) 動力船が帆船を追い越す場合
- (4) 動力船と動力船が真向かいに行き会う場合

.....答 (4)

⑬行会い船の航法について述べた次の文の(ア)と(イ)に当てはまる語句の組合せとして正しいものは、下のうちどれか。

(海上衝突予防法)

「互いに他船の(ア)舷側(げん)を通過するよう、針路を(イ)に転じなければならない。」

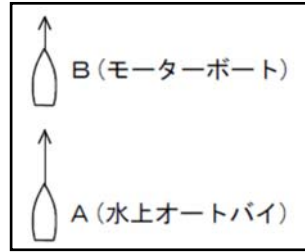
- (1) ア：左 イ：左
- (2) ア：右 イ：左
- (3) ア：左 イ：右
- (4) ア：右 イ：右

.....答 (3)

⑭右図に示すように、航行中のA船がB船を追い越そうとする場合の航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) Bは追い越される舷の反対側に転舵する。
- (2) AはBの進路を避けて航行する。
- (3) Aはできるだけ早めに速力を上げてBに近づく。
- (4) Bはできるだけ早めに停船する。



.....答 (2)

⑮右図に示すように、広い水域において、航行中のA船がB船を追い越す場合、A船の航法として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) 自船が追越し船であるかどうかを確かめられないときは、追越し船と判断する。
- (2) Bに十分に近づいてその動きを確認した後、追越しを開始する。
- (3) Bとの間に安全な距離を保って、確実に追い越す。
- (4) 追い越した後は、十分に遠ざかるまでBの進路を避けて航行する。

.....答 (2)

⑯広い水域において、他の船舶に追い越される船舶の航法として正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。(海上衝突予防法)
- (2) 追い越される側の反対側に針路を転じる。
- (3) かつらうじて舵が効く程度まで速力を落とす。
- (4) エンジンを停止して、追越し船が通り過ぎるのを待つ。

.....答 (1)

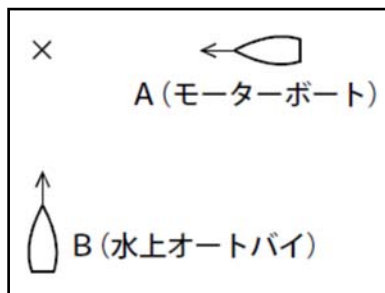
問 14 横切り船・避航船・保持船

①航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り衝突するおそれがあるとき、他の動力船の進路を避けなければならない動力船は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 他の動力船より動きがよい動力船
- (2) 他の動力船よりも大きな動力船
- (3) 他の動力船を右舷側に見る動力船
- (4) 他の動力船を先に認めた動力船

.....答 (3)

②右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



- (1) Aはエンジンを停止して、Bが通り過ぎるのを待つ。
- (2) Bは速力を上げて、Aの船首方向を横切る。
- (3) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (4) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。

.....答 (4)

③航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り衝突するおそれがある場合、他の動力船の進路を避けなければならない動力船は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 他の動力船を左舷側に見る動力船
- (2) 他の動力船よりも速い動力船
- (3) 他の動力船を右舷側に見る動力船
- (4) 他の動力船よりも小さい動力船

.....答 (3)

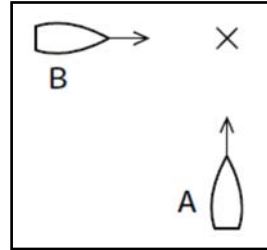
④横切り船の航法について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「2隻の動力船が互いに進路を横切り衝突するおそれがあるとき、その針路及び速力を保たなければならないのは、他の動力船を()に見る動力船である。」 (海上衝突予防法)

- (1) 風上側 (2) 風下側 (3) 右舷側 (4) 左舷側

.....答 (3)

⑤右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるとき、A船はB船の短音1回の汽笛信号を聞いた。この場合、A船はどのようにしたらよいか。

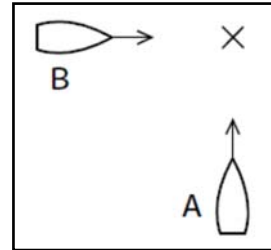


次のうちから正しいものを選べ。(海上衝突予防法)

- (1) エンジンを停止して、Bの通過を待つ。
 (2) 速力を上げながら右転して、Bの船首方向を通過する。
 (3) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
 (4) 針路を左に転じて、Bの船尾方向を通過する。

.....答 (3)

⑥右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるとき、B船はどのようにしたらよいか。



次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) そのときの針路と速力を保ち、十分に注意して航行する。
 (2) 右転して、Aの船尾方向を通過する。
 (3) 速力を上げて、Aの船首方向を横切る。
 (4) 急速に短音5回以上の汽笛信号を行う。

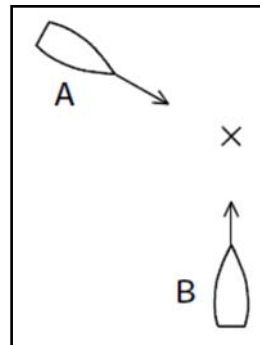
.....答 (2)

⑦衝突を避けるための動作をとる際の注意事項として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 避航動作は早めに行う。 (2) 速力の変更は少しずつ行う。
 (3) 針路の変更は大幅に行う。 (4) 他船との距離は十分に離す。

.....答 (2)

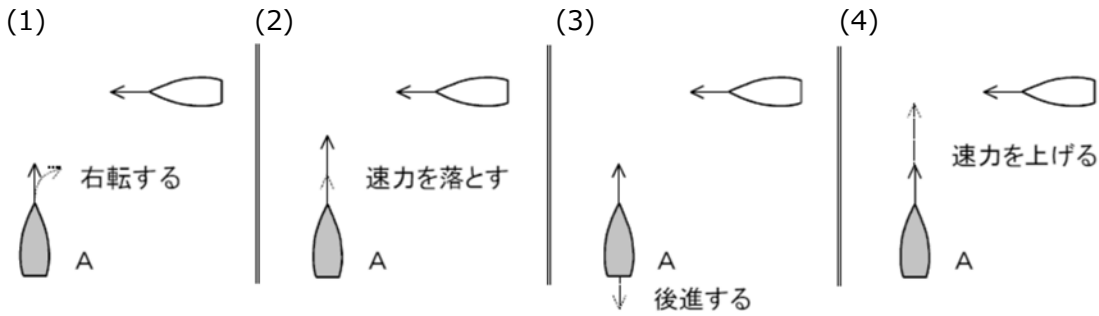
⑧右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがある場合、A船が適切な避航動作をとっていないことが明らかになったため、B船が衝突を避けるための動作をとるときは、やむを得ない場合を除き、どのようなことをしてはならないか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)



- (1) 針路を右に転じること
 (2) 針路を左に転じること
 (3) エンジンを停止すること
 (4) エンジンを後進にかけること

.....答 (2)

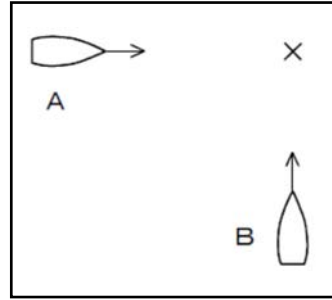
⑨ 下図は、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り衝突するおそれがある場合のA船の動作の具体例を示したものである。
やむを得ない場合を除き、A船がとってはならない避航動作はどれか。 (海上衝突予防法)



..... 答 (4)

⑩ 右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、
×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、
次のうちどれか。 (海上衝突予防法)

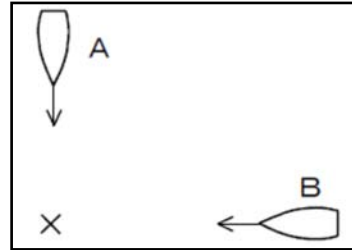
- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) Aは速力を上げて、Bの船首方向を横切る。



..... 答 (2)

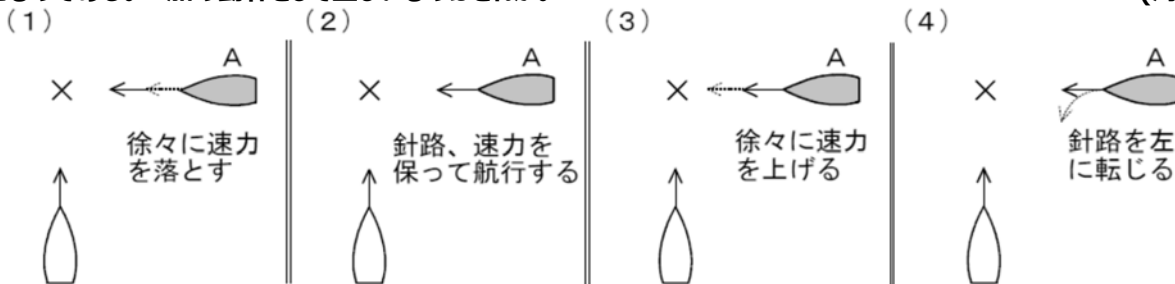
⑪ 右図に示すように、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、
×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、
次のうちどれか。 (海上衝突予防法)

- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。



..... 答 (1)

⑫ 下図は、航行中の2隻の動力船が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときのA船の動作の具体例を示したものである。A船の動作として正しいものはどれか。 (海上衝突予防法)



..... 答 (2)

⑬ 横切り船の関係にある2隻の動力船のうち、避航船が保持船に対して、やむを得ない場合を除きとってはならない動作は、
次のうちどれか。 (海上衝突予防法)

- (1) 針路を左に転じること
- (2) 船尾方向を横切ること
- (3) 船首方向を横切ること
- (4) エンジンを後進にかけること

..... 答 (3)

⑭衝突を避けるための動作をとる際の注意事項として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

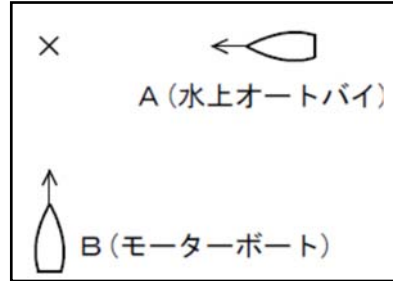
- (1) 他船に十分近づいてから行う。
- (2) 速力を変更するときは、徐々に進行。
- (3) 針路の変更は、できるだけ小さな角度で行う。
- (4) 他船との間に安全な距離を保って通過できるように進行。

.....答 (4)

⑮右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、

×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) Aは速力を上げて、Bの船首方向を横切る。
- (2) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (3) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (4) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。

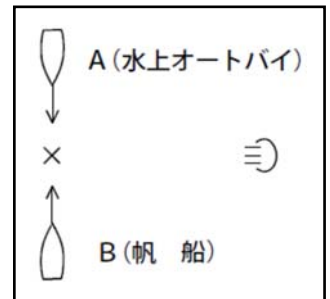


.....答 (4)

問 15 各種船舶間の航法

①右図に示すように、航行中の2隻の船舶が真向かいに行き会い、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

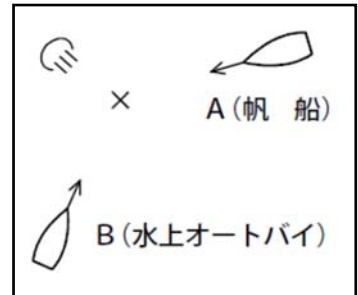
- (1) Bは風下側に転舵して、Aは風上側に転舵する。
- (2) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (3) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (4) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。



.....答 (3)

②右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

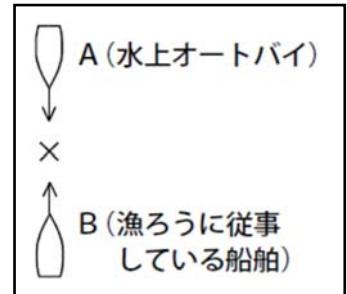
- (1) Aは風下側に転舵して、Bは風上側に転舵する。
- (2) A、Bともに風下側に転舵して、他船の進路を避ける。
- (3) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (4) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。



.....答 (4)

③右図に示すように、航行中の2隻の船舶が真向かいに行き会い、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

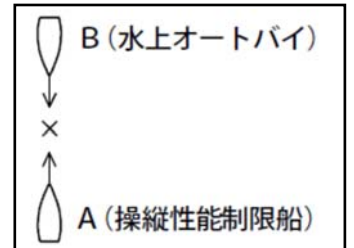
- (1) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (2) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。



.....答 (1)

④右図に示すように、航行中の2隻の船舶が真向かいに行き会い、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (3) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (4) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。



.....答 (4)

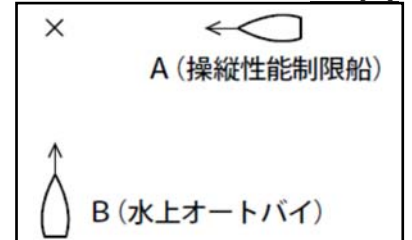
⑤海上衝突予防法の規定上、水上オートバイは次のどの船舶に該当するか。

- (1) 特殊高速船 (2) 動力船 (3) 水上航空機 (4) エアクッション船

.....答 (2)

⑥右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (2) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (3) Bは速力を上げて、Aの船首方向を横切る。
- (4) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。



.....答 (2)

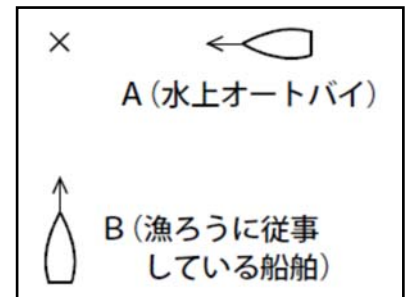
⑦エンジンを装備しているヨットが帆のみを用いて航行している場合は、海上衝突予防法の規定上、次のどの船舶に該当するか。

- (1) 操縦性能制限船 (2) 運転不自由船 (3) 動力船 (4) 帆船

.....答 (4)

⑧右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

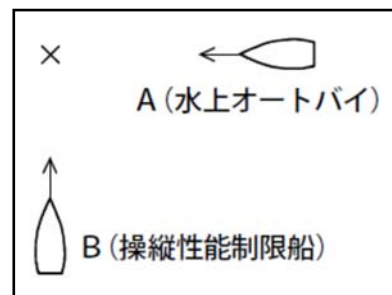
- (1) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (2) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (3) Aはできる限り速力を上げて、Bの船首方向を横切る。
- (4) Bは操業を一時やめてエンジンを停止し、Aの通過を待つ。



.....答 (1)

⑨右図に示すように、航行中の2隻の船舶が互いに進路を横切り、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (2) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (3) Aはできる限り速力を上げて、Bの船首方向を横切る。
- (4) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。



.....答 (1)

⑩航行中の水上オートバイと漁ろうに従事している船舶が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるときの航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

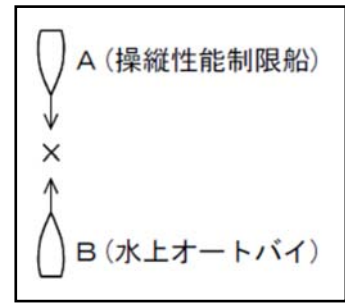
- (1) 互いに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) 互いに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (3) 漁ろうに従事している船舶が水上オートバイの進路を避ける。
- (4) 水上オートバイが漁ろうに従事している船舶の進路を避ける。

.....答 (4)

⑪右図に示すように、航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) AがBの進路を避け、Bは針路、速力を保つ。
- (2) BがAの進路を避け、Aは針路、速力を保つ。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) A、Bともに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。



.....答 (2)

⑫航行中の水上オートバイと帆船が真向かいに行き会い、衝突するおそれがある場合の航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 両船ともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) 両船ともに針路を風下側に転じ、他船の進路を避ける。
- (3) 水上オートバイが帆船の進路を避け、帆船は針路、速力を保つ。
- (4) 帆船が水上オートバイの進路を避け、水上オートバイは針路、速力を保つ。

.....答 (3)

⑬航行中の水上オートバイと操縦性能制限船が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるときの航法について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 互いに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) 互いに針路を左に転じ、他船の進路を避ける。
- (3) 操縦性能制限船が水上オートバイの進路を避ける。
- (4) 水上オートバイが操縦性能制限船の進路を避ける。

.....答 (4)

問 16 見張り・安全な速力・衝突のおそれ

①安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として定められているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 自船の定員 (2) 帰港予定時刻 (3) 自船の操縦性能 (4) 目的地までの距離

.....答 (3)

②近づいてくる他の船舶と衝突するおそれがあるかどうかを確かめることができない場合は、どのようにしなければならないか。次のうちから正しいものを選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 衝突するおそれはないと判断しなければならない。
- (2) 衝突するおそれがあると判断しなければならない。
- (3) 速力を上げて近づかなければならない。
- (4) 相手船の行動を待たなければならない。

.....答 (2)

③近づいてくる他の船舶と衝突するおそれがあると判断しなければならないのは、次のうちどの場合か。(海上衝突予防法)

- (1) 他の船舶の針路が変わらない場合 (2) 他の船舶の速力が変わらない場合
- (3) 他の船舶の見える方位が変わらない場合 (4) 他の船舶との距離が変わらない場合

.....答 (3)

④安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 他船の速力 (2) 帰港予定時刻 (3) 視界の状態 (4) 目的地までの距離

.....答 (3)

⑤安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されていないものは、次のうちどれか。

(海上衝突予防法)

- (1) 視界の状態 (2) 船舶交通の混み具合 (3) 自船の操縦性能 (4) 帰港予定時刻

.....答 (4)

⑤見張りについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 航行中、^{びょうほく}錨泊中にかかわらず、いつでも行う。
(2) 広い水域を航行している場合は、視覚だけで行う。
(3) そのときの状況に適したすべての手段により行う。
(4) 前方だけでなく、すべての方向に対して行う。

.....答 (2)

⑥見張りについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) エンジンを止めて漂流しているときも行う。
(2) 前方だけでなく、すべての方向に対して行う。
(3) 船舶の通航が多い水域に差しかけたら行う。
(4) 視覚や聴覚など、そのときの状況に適したすべての手段により行う。

.....答 (3)

⑦衝突のおそれについて述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「近づいてくる他の船舶の()に明確な変化がないときは、衝突するおそれがあるものと判断しなければならない。」

(海上衝突予防法)

- (1) 針路 (2) 速力 (3) 方位 (4) 大きさ

.....答 (3)

⑧他の船舶と衝突するおそれがあるかどうかを確かめることができない場合は、どのように判断しなければならないか。

次のうちから選べ。

(海上衝突予防法)

- (1) 自船が保持船である。 (2) 自船が避航船である。
(3) 衝突するおそれがある。 (4) 衝突するおそれはない。

.....答 (3)

⑨見張りについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 航行中は、まわりに船が見えるときだけ行う。
(2) 広い水域を航行している場合は、目視だけで行う。
(3) 船舶の通航が多い水域に差しかけたら行う。
(4) 前方だけでなく、すべての方向に対して行う。

.....答 (4)

⑩見張りについて述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 目や耳など、そのときの状況に適したすべての手段により行う。
(2) 航行中は、まわりに船が見えるときだけ行う。
(3) 航行中、^{びょうほく}錨泊中にかかわらず、注意深く行う。
(4) 視界の状態にかかわらず、適切に行う。

.....答 (2)

⑪衝突のおそれについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。(海上衝突予防法)

- (A) 近づいてくる他の船舶の見える方位が変わらない場合は、衝突するおそれがあると判断しなければならない。
(B) 接近してくる他の船舶と衝突するおそれがあるかどうかを確かめることができない場合は、衝突するおそれはないものと判断しなければならない。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑫安全な速力について説明した次の文のうち、正しいものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 衝突を避けるための動作がとれる速力
- (2) 自船の性能の半分の速力
- (3) 12ノット以下の速力
- (4) 他船に危険を及ぼさない速力

.....答 (1)

⑬安全な速力の決定にあたって特に考慮しなければならない事項として規定されているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 船舶交通の混み具合
- (2) 船長の年齢
- (3) 他船の速力
- (4) 目的地までの距離

.....答 (1)

⑭安全な速力について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。(海上衝突予防法)

(A) 安全な速力とは、他船と衝突しそうになったときに、適切な避航動作を確実にとることができる速力をいう。

(B) 安全な速力は、自船の操縦性能や船舶交通の混み具合などを考えて決めなければならない。

- (1) (A)だけ正しい
- (2) (B)だけ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (3)

問 17 狭い水道・視界制限状態

①右図に示すように、狭い水道等のわん曲部に接近する船舶が行った次の動作のうち、誤っているものはどれか。(海上衝突予防法)

- (1) エンジンを直ちに操作できるようにした。
- (2) 耳をすまし、見張りを厳重にした。
- (3) 短音2回の汽首信号を繰り返し鳴らした。
- (4) 右岸側へ寄って航行した。



.....答 (3)

②水上オートバイで狭い水道等を航行するときの航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。(海上衝突予防法)

- (A) 狭い水道等では、その水道等の右側端に寄って航行しなければならない。
- (B) 狭い水道等では、漁ろうに従事している船舶の進路を避けなければならない。

- (1) (A)のみ正しい
- (2) (B)のみ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (3)

③狭い水道等における航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。(海上衝突予防法)

- (A) できる限り、狭い水道等の左側端に寄って航行しなければならない。
- (B) 前方が確認できないわん曲部を航行する場合は、十分に注意して航行しなければならない。

- (1) (A)のみ正しい
- (2) (B)のみ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (2)

④狭い水道等における航法について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(海上衝突予防法)

「狭い水道等をこれに沿って航行する船舶は、できる限り、その水道等の()に寄って航行しなければならない。」

- (1) 右側端
- (2) 左側端
- (3) 中央
- (4) 内側

.....答 (1)

⑤視界制限状態の水域を航行する場合の措置について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。(海上衝突予防法)

- (A) 視界制限状態になったときは、できる限りそのときの速力を保たなければならない。
- (B) 他船の霧中信号を聞いたときは、直ちに針路を左に転じなければならない。

- (1) (A)のみ正しい
- (2) (B)のみ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (4)

⑥狭い水道等における航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(海上衝突予防法)

(A) 航行中の水上オートバイは、帆船の進路を避けなければならない。

(B) できる限り、狭い水道等の右側端に寄って航行しなければならない。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑦視界制限状態の水域を航行する場合の注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(海上衝突予防法)

(A) エンジンを直ちに操作することができるようにしておかなければならない。

(B) 他船の霧中信号を聞いたときは、エンジンを直ちに停止しなければならない。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑧狭い水道等における航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(海上衝突予防法)

(A) できる限り、狭い水道等の右側端に寄って航行しなければならない。

(B) 前方が確認できないわん曲部は、できる限り速力を上げて早めに通過しなければならない。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑨視界制限状態の水域を航行中、自船の正横より前方に他の船舶の霧中信号を聞いた場合は、どのような行動をとらなければならないか。次のうちから選べ。

(海上衝突予防法)

(1) 他船が見える距離まで近づく。 (2) 大幅に右転する。

(3) 舵が効く最小限度の速力とする。 (4) 大幅に左転する。

.....答 (3)

⑩動力船が濃い霧の中を航行する場合に行う措置として誤っているものは、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

(1) 見張りを厳重にする。 (2) 短音1回の汽笛信号を繰り返し行う。

(3) 法定灯火を表示する。 (4) エンジンを直ちに操作できるようにする。

.....答 (2)

⑪狭い水道等における航法について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。(海上衝突予防法)

「船舶は、狭い水道においては、やむを得ない場合を除き()をしてはならない。」

(1) 高速航行 (2) 錨泊 (3) 漁ろう (4) 追越し

.....答 (2)

⑫長さ20メートル未満の動力船で狭い水道等を航行する場合の航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(海上衝突予防法)

(A) できる限り、狭い水道等の右側端に寄って航行しなければならない。

(B) 狭い水道等の内側でなければ安全に航行できない他の動力船の通航を妨げてはならない。

(1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑬他の船舶の動きをよく判断することができない次の状態のうち、「視界制限状態」に該当しないものはどれか。(海上衝突予防法)

(1) 降雪 (2) 暴風雨 (3) もや (4) 太陽光の反射

.....答 (4)

問 18 形象物・信号

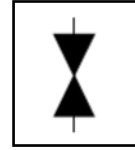
①他船との衝突を避けるため、針路を左に転じている船舶が行わなければならない汽笛信号は、次のうちどれか。
(海上衝突予防法)

- (1) 短音1回 (2) 短音2回 (3) 短音3回 (4) 短音5回

.....答 (2)

②昼間、右図の形象物を表示している船舶は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 操縦性能制限船 (2) 船舶等を引いている動力船
(3) 錨泊中の船舶 (4) 漁ろうに従事している船舶



.....答 (4)

③他船との衝突を避けるため、エンジンを後進にかけている船舶が行わなければならない汽笛信号は、次のうちどれか。
(海上衝突予防法)

- (1) 短音1回 (2) 短音2回 (3) 短音3回 (4) 短音5回

.....答 (3)

④「左右に伸ばした腕を繰り返しゆっくりと上下させることによる信号」は、どのようなことを意味しているか。次のうちから選べ。
(海上衝突予防法)

- (1) これから出港しようとしている。 (2) これから錨泊しようとしている。
(3) 他船に速力を落とすよう求めている。 (4) 遭難して救助を求めている。

.....答 (4)

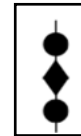
⑤短音3回の汽笛信号を行っているのはどのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じている船舶 (2) 針路を左に転じている船舶
(3) エンジンを後進にかけている船舶 (4) 他船の動作が理解できない船舶

.....答 (3)

⑥昼間、右図の形象物を表示しているのはどのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 操縦性能制限船 (2) 船舶等を引いている動力船
(3) 錨泊中の船舶 (4) 漁ろうに従事している船舶




.....答 (1)

⑦急速に短音5回以上の汽笛信号を行っているのは、どのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じている船舶 (2) 針路を左に転じている船舶
(3) エンジンを後進にかけている船舶 (4) 他船の動作が理解できない船舶

.....答 (4)

⑧昼間、錨泊して釣りをしている船舶が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1)  (2)  (3)  (4) 

.....答 (1)

⑨「赤色の手持ち炎火による信号」は、どのようなことを意味しているか。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) これから錨泊しようとしている。 (2) 他船の進路を横切ろうとしている。
(3) これから出港しようとしている。 (4) 遭難して救助を求めている。

.....答 (4)

⑨ 昼間、漁労に従事している船舶が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



..... 答 (4)

⑩ 昼間、船舶などを引いている航行中の動力船(曳航物件の後端までの距離が200メートルを超える)が表示している形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



..... 答 (2)

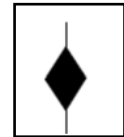
⑪ 昼間、^{びょうはく} 錨泊中の船舶が表示しなければならない形象物は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)



..... 答 (4)

⑫ 昼間、右図の形象物1個を表示しているのはどのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 操縦性能制限船
- (2) 船舶等を引いている動力船
- (3) 錨泊中の船舶
- (4) 漁ろうに従事している船



..... 答 (2)

⑬ 短音2回の汽笛信号を行っているのはどのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じている船舶
- (2) 針路を左に転じている船舶
- (3) エンジンを後進にかけている船舶
- (4) 他船の動作が理解できない船舶

..... 答 (2)

⑭ 衝突するおそれがある他の船舶の意図を理解することができない船舶が行わなければならない汽笛信号は、次のうちどれか。(海上衝突予防法)

- (1) 短音1回
- (2) 短音2回
- (3) 短音3回
- (4) 急速に短音5回以上

..... 答 (4)

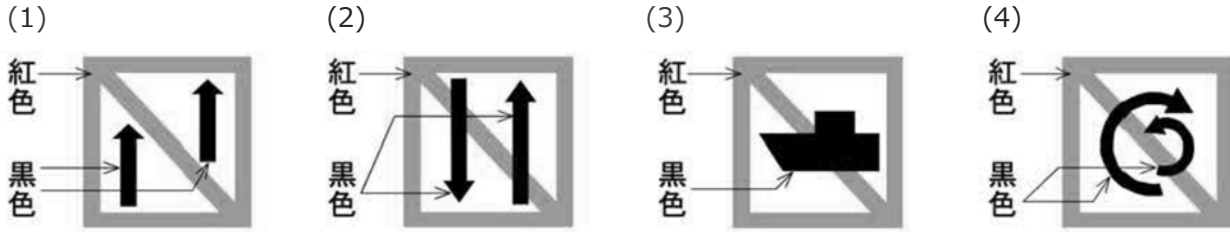
⑮ 短音1回の汽笛信号を行っているのはどのような船舶か。次のうちから選べ。(海上衝突予防法)

- (1) 針路を右に転じている船舶
- (2) 針路を左に転じている船舶
- (3) エンジンを後進にかけている船舶
- (4) 他船の動作が理解できない船舶

..... 答 (1)

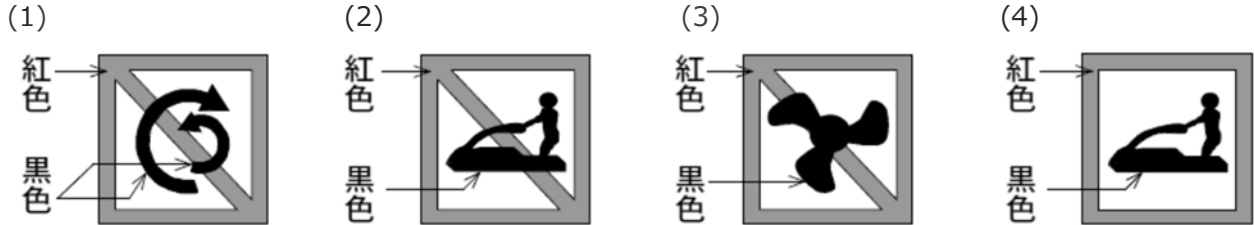
問 19 都道府県条例

① 次の河川通航標識のうち「行会い・追越し禁止」を表すものはどれか。(河川法)



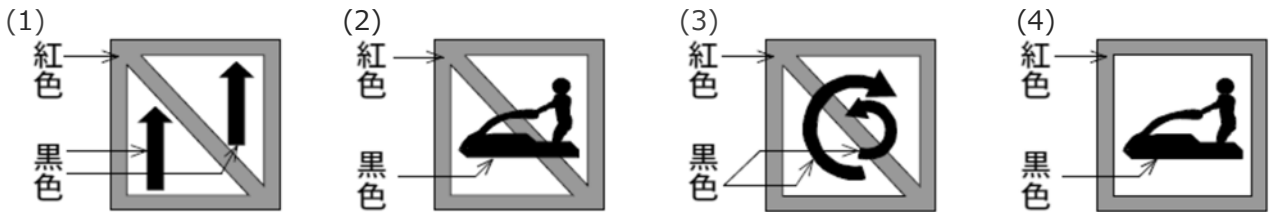
.....答 (2)

② 次の河川通航標識のうち「水上オートバイ禁止」を表すものはどれか。(河川法)



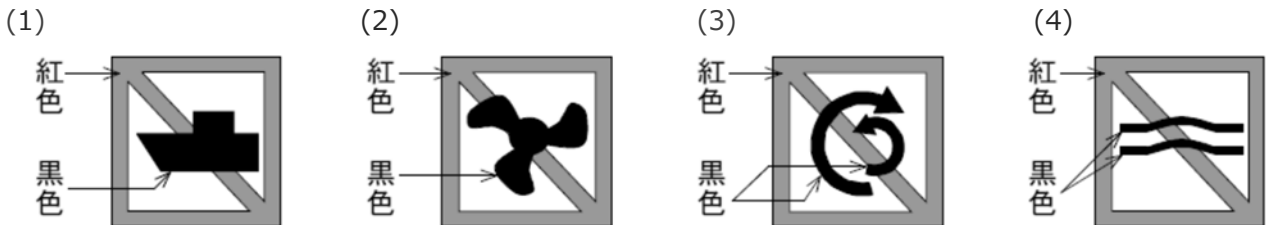
.....答 (2)

③ 次の河川通航標識のうち「水上オートバイ通航方法制限」を表すものはどれか。(河川法)



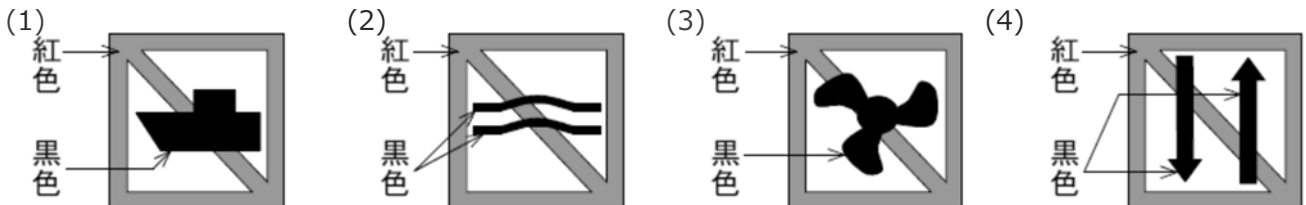
.....答 (4)

④ 次の河川通航標識のうち「引き波禁止」を表すものはどれか。(河川法)



.....答 (4)

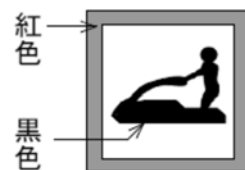
⑤ 次の河川通航標識のうち「船舶等通航禁止」を表すものはどれか。(河川法)



.....答 (1)

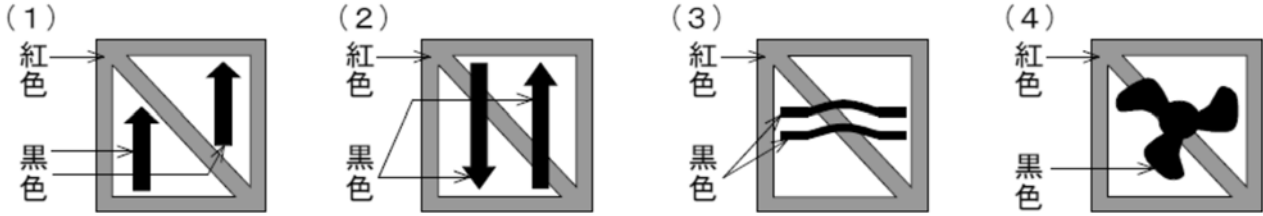
⑥ 右図に示す河川通航標識の表す意味は、次のうちどれか。(河川法)

- (1) 水上オートバイ通航方法制限
- (2) 動力船通航禁止
- (3) 水上オートバイ禁止
- (4) 船舶等通航禁止



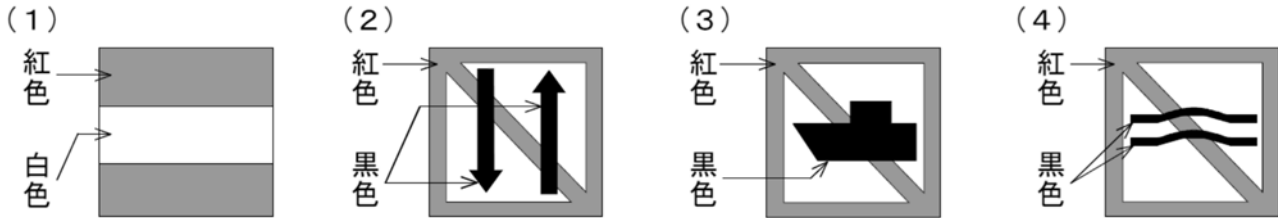
.....答 (1)

⑦ 次の河川通航標識のうち「追越し禁止」を表すものはどれか。(河川法)



..... 答 (1)

⑧ 次の河川通航標識のうち「進入禁止」を表すものはどれか。(河川法)



..... 答 (1)

⑨ 右図に示す河川通航標識の表す意味は、次のうちどれか。(河川法)

- (1) 水上オートバイ通航方法制限 (2) 動力船通航禁止
 (3) 水上オートバイ禁止 (4) 船舶等通航禁止



..... 答 (3)

⑩ 河川や湖沼における交通の方法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 条例によって、急旋回などの危険行為を禁止している地方自治体がある。
 (2) 条例によって、指定水域での航行を制限している地方自治体がある。
 (3) 河川や湖沼における交通の方法には、海上交通安全法は適用されない。
 (4) 交通の方法を定めた条例には、罰則についての規定がない。

..... 答 (4)

⑪ 水上安全に関する条例について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 海上衝突予防法や港則法が適用されない内水域での交通の方法について規定している。
 (2) 水上オートバイの操縦者に対して、指定した講習の受講を義務付けている条例がある。
 (3) 水上交通の安全や遊泳者の保護などを目的とした条例である。
 (4) 条例に違反した者の取締りは、国土交通省が行っている。

..... 答 (4)

⑫ 河川や湖沼における交通の方法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 一部の河川には、船舶の通航方法を示す標識が設置されている。
 (2) 内水面における違反者の取締りは、海上保安庁が行っている。
 (3) 条例により、水上オートバイの危険行為を禁止している地方自治体がある。
 (4) 条例には、懲役や罰金などの罰則規定が設けられているものがある。

..... 答 (2)

⑬ 河川や湖沼における交通の方法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 条例によって、内水域における交通の方法を定めている地方自治体がある。
 (2) 条例によって、急旋回などの危険行為を禁止している地方自治体がある。
 (3) 条例によって、船舶の航行を制限する水域を設けている地方自治体がある。
 (4) 河川や湖沼における交通の規定に、海上交通安全法を適用している地方自治体がある。

..... 答 (4)

⑭河川や湖沼^{こしやう}における交通の方法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 水上安全条例によって、内水域における交通の方法を定めている地方自治体がある。
- (2) 迷惑防止条例によって、急旋回等の危険行為を禁止している地方自治体がある。
- (3) 環境保全を目的とした条例によって、指定水域での航行を制限している地方自治体がある。
- (4) 河川や湖沼における交通の規定に、海上交通安全法を適用している地方自治体がある。

.....答 (4)

⑮河川や湖沼^{こしやう}における交通の方法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 迷惑防止条例によって、急旋回等の危険行為を禁止している地方自治体がある。
- (2) 環境保全を目的とした条例によって、指定水域での航行を制限している地方自治体がある。
- (3) 河川や湖沼における交通の方法には、海上交通安全法は適用されない。
- (4) 地方自治体が定めた水上安全条例には、内水域における交通の方法は規定されていない。

.....答 (4)

⑯水上安全条例について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 水上安全指導員は、水上交通の安全や事故防止等についての指導や啓発を行っている。
- (2) 水域利用者の遵守事項や船舶の交通の方法等について規定している。
- (3) 条例に違反した者の取締りは、各都道府県の警察が行っている。
- (4) 条例に違反した者に対する懲役^{ちやうえき}や罰金などの罰則規定はない。

.....答 (4)

⑰河川や湖沼^{こしやう}における交通の方法について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 水上安全条例によって、内水域における交通の方法を定めている地方自治体がある。
- (2) 迷惑防止条例によって、急旋回等の危険行為を禁止している地方自治体がある。
- (3) 河川や湖沼における交通の方法には、海上交通安全法は適用されない。
- (4) 内水域の環境保全を目的とした条例では、交通の方法については規定されていない。

.....答 (4)

⑱水上安全条例について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 条例に違反した場合には、懲役^{ちやうえき}や罰金などの罰則が適用されることがある。
- (2) 条例に違反した者の取締りは、各都道府県の警察が行っている。
- (3) 水上交通の安全の確保や遊泳者の保護等を目的として制定されている。
- (4) 条例が定められているのは、大きな湖がある県だけである。

.....答 (4)

⑲水上安全条例について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 水上安全に関する指導や啓発を行うため、水上安全指導員を置く場合がある。
- (2) 河川や湖沼^{こしやう}における船舶の交通の方法について規定している。
- (3) 条例に違反した者は、懲役^{ちやうえき}や罰金などの罰則が適用される場合がある。
- (4) 条例に違反した者の取締りは、海上保安庁が行っている。

.....答 (4)

問 20 港内での一般的な航法

①港内の航路における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路外から航路に入ろうとする船舶は、航路を航行する船舶の進路を避けなければならない。
- (2) 航路内で他の船舶と行き会うときは、航路の左側を航行しなければならない。
- (3) 航路内では、他の船舶を追い越してはならない。
- (4) 航路内では、他の船舶と横に並んで航行してはならない。

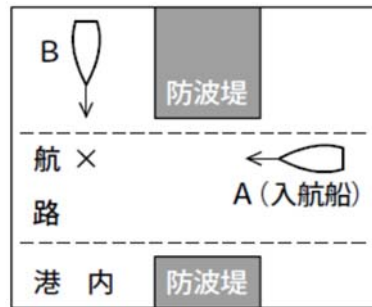
.....答 (2)

②港内を航行する場合において、「港則法」に規定されていない事項については、どの法律の規定に従えばよいか。次のうちから選べ。

- (1) 海上交通安全法 (2) 船舶安全法 (3) 海上衝突予防法 (4) 港湾法

.....答 (3)

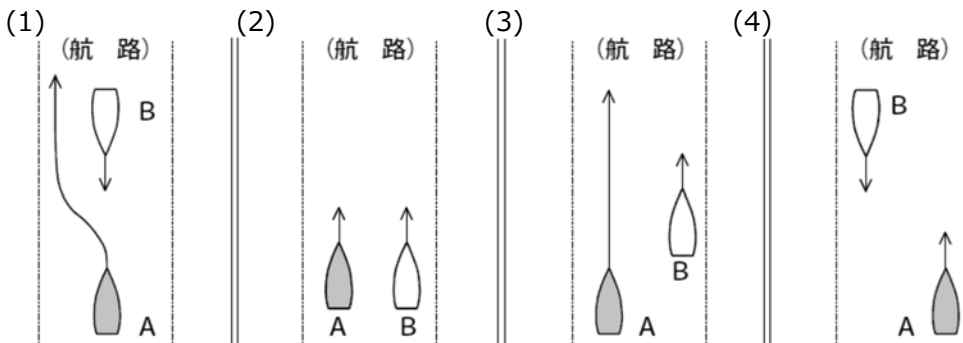
③右図に示すように、港内の航路を航行しながら入航しようとするA船と、その航路を横切って航行しようとするB船が、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) 先に汽笛信号を行った船舶が、他船の進路を避ける。
- (3) Aはそのまま入航し、BがAの進路を避ける。
- (4) Bはそのまま航路を横切り、AがBの進路を避ける。

.....答 (3)

④下图は、A船とB船が港内の航路を航行している状況を示したものである。A船の航路における航法として正しいものは、図(1)～(4)のうちどれか。(港則法)



.....答 (4)

⑤港内の航路における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路を航行する船舶は、航路外から航路に入ろうとする他船の進路を避けなければならない。
- (2) 航路内で他の船舶と行き会うときは、右側を航行しなければならない。
- (3) 航路内では、他の船舶と横に並んで航行してはならない。
- (4) 航路内では、他の船舶を追い越してはならない。

.....答 (1)

⑥港則法が適用される「港内」について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 防波堤より内側の水域のことをいう。
- (2) 岸壁から2海里以内の水域のことをいう。
- (3) 海図に記された港界と防波堤との間の水域のことをいう。
- (4) 港ごとに設定された港界より内側の水域のことをいう。

.....答 (4)

⑦港内における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 港内では、他の船舶に危険を及ぼさないような速力で航行しなければならない。
- (2) 航路内では、運転の自由を失ったときや、海難を避けるときなどを除き、投錨してはならない。
- (3) 防波堤の突端を右舷に見るときは、できるだけこれから遠ざかって航行しなければならない。
- (4) 汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるとき、入航船は、防波堤の外で出航船の進路を避けなければならない。

.....答 (3)

⑧港内における航法について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「船舶は、港内においては、防波堤などの突端や停泊船舶を()に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。」 (港則法)

- (1) 右舷 (2) 左舷 (3) 風上側 (4) 風下側

.....答 (1)

⑨港内における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路内では、人命救助のときや運転の自由を失ったときなどを除き、投錨してはならない。
- (2) 汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるときは、入航船は、出航船の進路を避けなければならない。
- (3) 港内において、防波堤の突端を右舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。
- (4) 港内や港の境界付近では、12ノットを超える速力で航行してはならない。

.....答 (4)

⑩港内における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路内では、人命救助のときや運転の自由放ったときなどを除き、投錨してはならない。
- (2) 汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるとき、出航船は、入航船の進路を避けなければならない。
- (3) 港内や港の境界付近では、他の船舶に危障を及ぼさないような速力で航行しなければならない。
- (4) 防波堤の突端を右舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。

.....答 (2)

⑪港内における航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路内では、どのような場合でも、投錨してはならない。
- (2) 2隻の汽船が港の防波堤の入口付近で出会うおそれのあるとき、入航船は防波堤の外で出航船の進路を避けなければならない。
- (3) 港内や港の境界付近では、12ノットを超える速力で航行してはならない。
- (4) 港内において、防波堤の突端を左舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。

.....答 (2)

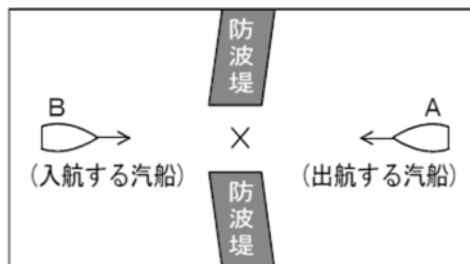
⑫港内における航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 港内では、他の船舶に危険を及ぼさないような速力で航行しなければならない。
- (2) 航路内では、どのような場合でも、投錨してはならない。
- (3) 防波堤の突端を左舷に見るときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。
- (4) 汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるとき、出航船は、防波堤の内に入航船の進路を避けなければならない。

.....答 (1)

⑬右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が×印の付近で出会うおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

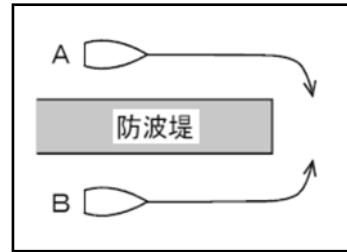
- (1) Aは防波堤の内をBを避け、Bはそのまま入航する。
- (2) Bは防波堤の外でAを避け、Aはそのまま出航する。
- (3) A、Bともに右側に寄って航行する。
- (4) A、Bともに左側に寄って航行する。



.....答 (2)

⑭港内を、右図に示すように航行する場合のA、B両船の航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) A、Bともに防波堤から遠ざかって航行する。
- (2) Aは防波堤から遠ざかって航行し、Bは防波堤に近寄って航行する。
- (3) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。
- (4) Aは防波堤に近寄って航行し、Bは防波堤から遠ざかって航行する。



.....答 (4)

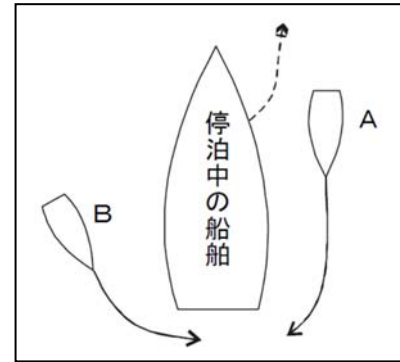
⑮港内において、「港則法」と「海上衝突予防法」との規定の間に異なる解釈が生じたときは、どの法律の規定に従えばよいか。次のうちから選べ。

- (1) 海上衝突予防法 (2) 海上交通安全法 (3) 船舶安全法 (4) 港則法

.....答 (4)

⑯港内を、右図に示すように航行しようとするA、B両船の航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。
- (2) 他船を先に視認した船舶が、進路を避ける。
- (3) Aは停泊中の船舶に近寄って航行し、Bは停泊中の船舶から遠ざかって航行する。
- (4) Aは停泊中の船舶から遠ざかって航行し、Bは停泊中の船舶に近寄って航行する。



.....答 (3)

⑰速力の制限について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「船舶は、港内及び港の境界付近においては、()で航行しなければならない。」(港則法)

- (1) 12ノット以下の速力 (2) 他の船舶の影響を受けないような速力
- (3) 他の船舶に追い越されないような速力 (4) 他の船舶に危険を及ぼさないような速力

.....答 (4)

問 21 汽艇等・防波堤の突端付近の航法

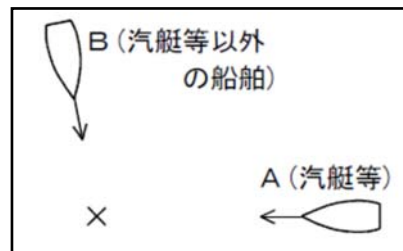
①港内において、汽艇等と汽艇等以外の船舶が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 互いに針路を右に転じる。
- (2) 互いに針路を左に転じる。
- (3) 汽艇等が、汽艇等以外の船舶の進路を避ける。
- (4) 汽艇等以外の船舶が、汽艇等の進路を避ける。

.....答 (3)

②右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。



.....答 (2)

③「汽艇等」について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(港則法)

- (1) みだりに係船浮標や他の船舶に係留してはならない。
- (2) 港内では、汽艇等以外の船舶の進路を避けなければならない。
- (3) みだりに船舶交通の妨げとなるような場所に停泊してはならない。
- (4) 特定港に出入りするときは、航路を航行しなければならない。

.....答 (4)

④港内において、汽艇等と汽艇等以外の船舶が真向かいに行き会い、衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 互いに針路を右に転じる。
- (2) 互いに針路を左に転じる。
- (3) 汽艇等が、汽艇等以外の船舶の進路を避ける。
- (4) 汽艇等以外の船舶が、汽艇等の進路を避ける。

.....答 (3)

⑤港内において、防波堤の突端にできるだけ近寄って航行しなければならないのはどのようなときか。次のうちから選べ。(港則法)

- (1) 防波堤の突端を左舷に見るとき (2) 防波堤の突端付近で他船の進路を避けるとき
- (3) 防波堤の突端を右舷に見るとき (4) 防波堤の突端付近で他船に追い越されるとき

.....答 (3)

⑥港内における次の規定のうち、汽艇等に適用されないものはどれか。(港則法)

- (1) みだりに係船浮標もしくは他の船舶に係留してはならない。
- (2) 特定港に出入し、又は通過する場合は、航路を航行しなければならない。
- (3) 船舶交通の妨げとなる場所で、みだりに漁ろうをしてはならない。
- (4) みだりに汽笛又はサイレンを吹き鳴らしてはならない。

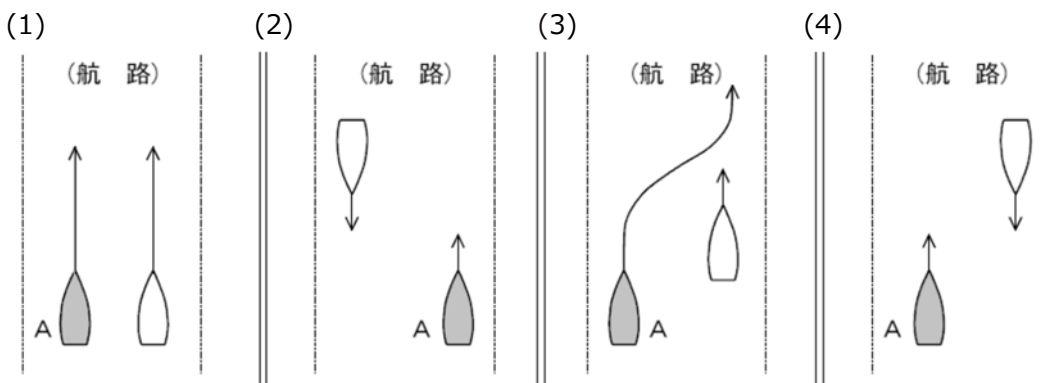
.....答 (2)

⑦港内における航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 汽艇等は、汽艇等以外の船舶の進路を避けて航行しなければならない。
- (2) 汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるとき、出航船は、入航船の進路を避けなければならない。
- (3) 港内や港の境界付近では、他の船舶に危険を及ぼさないような速力で航行しなければならない。
- (4) 防波堤の突端を右舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。

.....答 (2)

⑧下図は、港内の航路を航行する2隻の船舶の状況を示したものである。A船がとった航法として正しいものはどれか。(港則法)



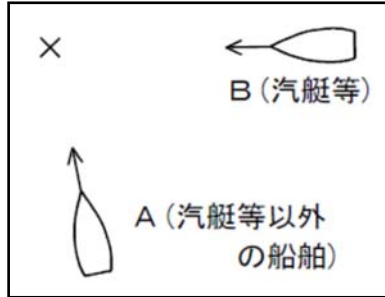
.....答 (2)

⑨水上オートバイが、やむを得ず港内の航路を航行する場合にとらなければならない航法として誤っているものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路外から航路に入るときは、航路を航行する他の船舶の進路を避けなければならない。
- (2) 航路を航行する他の船舶と横に並んで航行してはならない。
- (3) 航路を航行する他の船舶を追い越してはならない。
- (4) 航路を航行する他の船舶と行き会うときは、航路の左側を航行しなければならない。

.....答 (4)

⑩右図に示すように、港内を航行中の2隻の船舶が×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) Aは針路、速力を保ち、BがAの進路を避ける。
- (2) Bは針路、速力を保ち、AがBの進路を避ける。
- (3) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (4) 速いほうの船舶が、他船の進路を避ける。

.....答 (1)

⑪汽艇等の航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。(港則法)

- (A) 汽艇等は、港内においては、汽艇等以外の船舶の進路を避けなければならない。
- (B) 汽艇等は、特定港内を航行するときは、航路を航行しなければならない。
- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

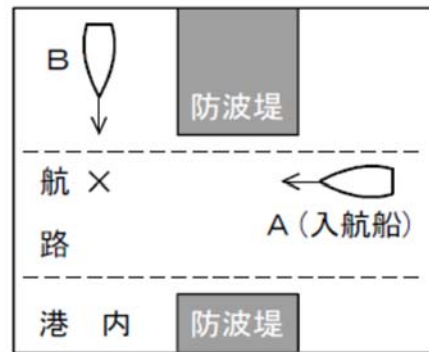
.....答 (1)

⑫港内の航路における航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)

- (1) 航路を航行する船舶は、航路外から航路に入ろうとする他船の進路を避けなければならない。
- (2) 航路内で他の船舶と行き会うときは、左側を航行しなければならない。
- (3) 航路内では、他の船舶と横に並んで航行してはならない。
- (4) 航路内では、引き波を立てるような速力で航行してはならない。

.....答 (3)

⑬右図に示すように、港内の航路を航行しながら入航しようとするA船と、その航路を横切って航行しようとするB船が、×印の付近で衝突するおそれがあるときの航法として正しいものは、次のうちどれか。(港則法)



- (1) A、Bともに針路を右に転じ、他船の進路を避ける。
- (2) 先に汽笛信号を行った船舶が、他船の進路を避ける。
- (3) Aはそのまま入航し、BがAの進路を避ける。
- (4) Bはそのまま航路を横切り、AがBの進路を避ける。

.....答 (3)

問 22 海上交通安全法

①海上交通安全法が適用されない海域は、次のうちどれか。

- (1) 函館湾 (2) 東京湾 (3) 伊勢湾 (4) 瀬戸内海

..... 答 (1)

②海上交通安全法が適用される海域は、次のうちどれか。

- (1) 函館湾 (2) 伊勢湾 (3) 駿河湾 (4) 鹿児島湾

..... 答 (2)

③海上交通安全法で定められた航路における一般的航法として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) すべての動力船は、航路を航行しなければならない。
- (2) 12ノットを超える速力で航行してはならない航路の区間がある。
- (3) 横断してはならない区間が定められている航路がある。
- (4) 航路では、海難を避けるときなどを除いて、びよう泊をしてはならない。

..... 答 (1)

④海上交通安全法が適用される海域は、次のうちどれか。

- (1) 阿蘇海 (2) 有明海 (3) 瀬戸内海 (4) オホーツク海

..... 答 (3)

⑤海上交通安全法が適用されない海域は、次のうちどれか。

- (1) 東京湾 (2) 伊勢湾 (3) 瀬戸内海 (4) 鹿児島湾

..... 答 (4)

⑥海上交通安全法で定められた航路における一般的な航法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判定し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 水上オートバイが航路を横断する場合は、航路を航行中の船舶の通航を妨げてはならない。
- (B) 水上オートバイが航路を航行する場合は、航路に沿わず、自由に走行することができる。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

..... 答 (1)

⑦航路をこれに沿って航行している船舶の進路を避けなければならない船舶に該当しないものは、次のうちどれか。

(海上交通安全法)

- (1) 航路外を航路に沿って航行する船舶 (2) 航路外から航路に入る船舶
- (3) 航路から航路外に出る船舶 (4) 航路を横断しようとする船舶

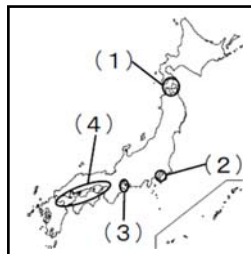
..... 答 (1)

⑧海上交通安全法で定められた航路における一般的航法として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 航路外から航路に入ろうとする動力船は、航路をこれに沿って航行している他の船舶の進路を避けなければならない。
- (2) 航路を横断する場合は、できるだけ直角に近い角度で、すみやかに横断しなければならない。
- (3) 長さ50メートル以上の船舶は、航路を航行しなければならない。
- (4) 航路内では、長さ100メートル未満の船舶を除き、追い越しをしてはならない。

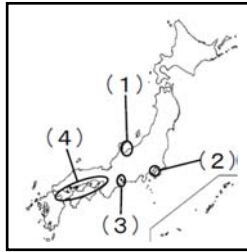
..... 答 (4)

⑨右の概略の日本地図に示した海域(1)~(4)のうち、海上交通安全法が適用されない海域はどれか。



..... 答 (1)

⑩右の概略の日本地図に示した海域(1)～(4)のうち、
海上交通安全法が適用されない海域はどれか。



.....:答 (1)

⑪海上交通安全法に規定された航路における一般的航法に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 速力の制限 (2) 転舵てんたの制限 (3) 横断の制限 (4) 錨泊ひょうぼくの禁止

.....:答 (2)

⑫海上交通安全法で定められた航路における一般的航法として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 航路を横断しようとする船舶は、航路をこれに沿って航行している船舶の進路を避けなければならない。
 (2) 汽笛を備えている船舶は、航路内で他の船舶を追い越そうとするときは、追越しの場合の信号を行わなければならない。
 (3) 全航路の全区間において、航路内は12ノット以下の速力で航行しなければならない。
 (4) 航路では、海難を避けるときや、他の船舶を救助するときなどを除いて、錨泊ひょうぼくしてはならない。

.....:答 (3)

⑬海上交通安全法で定められた航路における一般的航法として正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 長さ50メートル以上の船舶は、航路を航行しなければならない。
 (2) 航路では、すべての船舶は追い越しをしてはならない。
 (3) 航路を横断するときは、艇が効く程度の速力で航行しなければならない。
 (4) 航路では、どのようなときでも錨泊ひょうぼくをしてはならない。

.....:答 (1)

⑭海上交通安全法に規定された航路を航行しなければならない船舶は、次のうちどれか。

- (1) 速力12ノット以上で航行できる船舶 (2) 長さ50メートル以上の船舶
 (3) 総トン数20トン以上の船舶 (4) 汽笛装置を備えた船舶

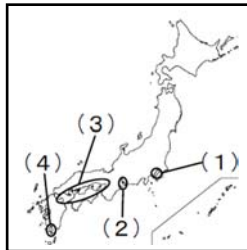
.....:答 (2)

⑮海上交通安全法が適用される海域は、次のうちどこか。

- (1) 富山湾とやまわん (2) 東京湾とうきょうわん (3) 鹿児島湾かごしまわん (4) 駿河湾するがわん

.....:答 (2)

⑯右の概略の日本地図に示した海域(1)～(4)のうち、
海上交通安全法が適用されない海域はどれか。



.....:答 (4)

【運 航】

問 23 水上オートバイ操縦時の心得

①水上オートバイを操縦するときの服装に関する注意として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 体型に合った、動きやすい服装を心掛ける。
- (2) 同乗する小児には、大人用のライフジャケットを着けさせる。
- (3) 落水時の衝撃を吸収できるような服装をする。
- (4) 同乗者にも乗艇に適した服装をさせる。

.....答 (2)

②水上オートバイを操縦ときに着用するウェットスーツの効果として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 落水したときの衝撃から身体を守ってくれる。
- (2) 浮力があり、ライフジャケットの代わりになってくれる。
- (3) 保温性があり、体温の低下を防いでくれる。
- (4) 肌の露出を抑えることで、直射日光から守ってくれる。

.....答 (2)

③ゲレンデでの火気やゴミの取扱いについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 肌寒いときには、水から上がって暖をとるために砂浜にたき火をしておく。
- (2) 給油中にこぼした燃料は、処理ができないのでそのままにしておく。
- (3) 海岸で火気を使用する前に、禁止場所でないかどうかを確かめておく。
- (4) 生じたゴミは、持ち帰らないで海岸で燃やすか穴を掘って埋めておく。

.....答 (3)

④水上オートバイを操縦するときの服装について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 気温や水温が高いときは、軽快に動けるよう、水着以外は着ない。
- (2) まわりが見えにくくなるので、サングラスやゴーグルはかけない。
- (3) 感覚がにぶるのを防ぐため、グローブやブーツは着けない。
- (4) 気温や水温が低くても、動きを妨げるような着ぶくれはしない。

.....答 (4)

⑤水上オートバイを操縦するときの心得について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 急旋回の練習は、できるだけ岸近くで行うほうがよい。
- (2) 水道用水の取水口のそばには、近づかないほうがよい。
- (3) できるだけ早朝や夕方の走行はしないほうがよい。
- (4) できるだけ単独での走行はしないほうがよい。

.....答 (1)

⑥水上オートバイを操縦するときにとった行動として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 太陽光の水面反射がきつかったので、サングラスをかけて操縦した。
- (2) 水上オートバイ用のブーツがなかったので、はだしのまま操縦した。
- (3) 暑かったので、ライフジャケットのバックルやベルトを外して操縦した。
- (4) 緊急エンジン停止コードが邪魔だったので、ハンドルバーに巻き付けて操縦した。

.....答 (1)

⑦水上オートバイを操縦するときの服装について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 気温が高くても、素肌が露出するような衣類は着ない。
- (2) 素手や素足を避け、手袋をはめたり滑りにくい靴をはく。
- (3) ドライスーツを着るときは、ライフジャケットは着けない。
- (4) 日差しが強いときは、サングラスやゴーグルをかける。

.....答 (3)

⑧ゲレンデの環境保全について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) ゴミはまとめて、人目につかない場所に捨てるようにする。
- (2) 砂浜を保護するため、車両で直接乗り入れないようにする。
- (3) 車両が通行しやすいように、邪魔な植物は引き抜くようにする。
- (4) 水上オートバイを降ろした水辺以外には駐車しないようにする。

.....答 (2)

⑨水上オートバイを操縦するときの心得について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ジグザグ運転の練習は、できるだけ岸近くで行うようにする。
- (2) 漁業用のブイや浮標を、旋回目標として使用しないようにする。
- (3) 釣りをしているボートのそばでは、引き波を立てないようにする。
- (4) ボードセーリングを行っている水域からは、できるだけ離れるようにする。

.....答 (1)

⑩水上オートバイを操縦するときの心得について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 海水浴場や遊泳者には、近づかない。(2) サーフィンとの水域の競合は避ける。
- (3) 高速走行の練習は、波打ち際で行う。(4) 徐行区域では、引き波を立てない。

.....答 (3)

⑪ゲレンデの環境保全について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 生じたゴミは、ゲレンデから持ち帰りやすいように分別しておくといよい。
- (2) 排気ガスを減らす目的であれば、エンジンを自由に改造してもよい。
- (3) 魚類の生息や産卵の場所となる藻場を航行しないほうがよい。
- (4) 浜辺であっても、早朝や夕方以降にエンジンの始動は行わないほうがよい。

.....答 (2)

⑫水上オートバイの騒音に対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 早朝や夕方のエンジン始動は避けること。
- (2) エンジンの始動は、シートを開けた状態で行うこと。
- (3) 不必要な空吹かしはしないこと。
- (4) 岸近くでは速度を上げないようにすること。

.....答 (2)

⑬水上オートバイを操縦するときにとった行動として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 太陽光の水面反射がきつかったので、サングラスをかけて操縦した。
- (2) 水上オートバイ用のブーツがなかったので、はだしそのまま操縦した。
- (3) 暑かったので、ライフジャケットのバックルやベルトを外して操縦した。
- (4) 緊急エンジン停止コードが邪魔だったので、ハンドルバーに巻き付けて操縦した。

.....答 (1)

⑭水上オートバイを操縦するときの心得について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 生態系を壊すおそれがあるので、海草が群生している水域を走行しないようにする。
- (2) 走行の障害となる水辺の植物は、できるだけ取り除いてから走行するようにする。
- (3) 水質汚染の原因となるようなエンジンの改造を行わないようにする。
- (4) 湖や川の水道用水の取水口のそばには、近づかないようにする。

.....答 (2)

問 24 操縦時の法的順守事項

①水上オートバイの航行制限について述べた次の文のうち、適当でないものはどれか。

- (1) ローカルルールにより、航行が制限されている水域がある。
- (2) 都道府県条例により、乗り入れが制限されている水域がある。
- (3) 海上衝突予防法により、航行できる時間帯が制限されている水域がある。
- (4) 河川法に基づく規定により、通航方法が制限されている河川がある。

.....**答 (3)**

②ゲレンデのローカルルールについて述べた次の文の()に当てはまる語句として最も適切なものは、下のうちどれか。

「ローカルルールとは、()にだけ適用される、その土地独自の自主的な取決めのことである。」

- (1) 限定された水域 (2) 水上オートバイ (3) 遊泳区域 (4) 日没から日出の間

.....**答 (1)**

③水上オートバイを操縦する場合の法定遵守事項として正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 一級小型船舶操縦士の免許が必要である。
- (2) 使用後の格納点検が義務付けられている。
- (3) 有資格者の自己操縦が義務付けられている。
- (4) 平水区域内のすべての水域を航行できる。

.....**答 (3)**

④水上オートバイを操縦する場合の法定遵守事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 特殊小型船舶操縦士の免許が必要である。
- (2) 有資格者の自己操縦が義務付けられている。
- (3) ライフジャケットの着用が義務付けられている。
- (4) 湖川及び海岸から5海里以内の水域が航行区域である。

.....**答 (4)**

⑤水上オートバイの航行区域について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 操縦免許証の裏面に記されている。
- (2) 母船に搭載された艇の場合は、母船から半径1海里以内の水域に限定される。
- (3) 水域を直接設定する場合と、任意の点からの航行範囲を設定する場合とがある。
- (4) 湖に限り、陸岸から2海里を超えた水域でも航行できる。

.....**答 (3)**

⑥水上オートバイを操縦する場合の法定遵守事項について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 操縦をしない同乗者も、ライフジャケットを着ることが義務付けられている。
- (2) 無資格者が操縦する場合は、有資格者の同乗が義務付けられている。
- (3) 特殊と二級の小型船舶操縦士の資格があれば、海岸から5海里までの水域を航行できる。
- (4) 防水型の懐中電灯を灯火として積み込めば、夜間航行ができる。

.....**答 (1)**

⑦水上オートバイに乗艇するときのライフジャケットの着用について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 乗艇者は全員着用する。(2) 操縦者以外は着用しなくてもよい。
- (3) 荒天になったら着用する。(4) 12歳未満の小児は着用しなくてもよい。

.....**答 (1)**

⑧特殊小型船舶操縦士の資格で航行できるのは、原則として海岸から何海里以内の水域か。次のうちから選べ。

- (1) 1海里 (2) 2海里 (3) 3海里 (4) 5海里

.....**答 (2)**

⑨母船に搭載された水上オートバイを操縦する場合に必要な免許は、次のうちどれか。

- (1) 一級小型船舶操縦士の免許 (2) 二級小型船舶操縦士の免許
- (3) 二級小型船舶操縦士(第一号限定)の免許 (4) 特殊小型船舶操縦士の免許

.....**答 (4)**

⑩水上オートバイの航行区域が記されているものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶検査手帳 (2) 船舶検査証書 (3) 船舶検査済票 (4) 操縦免許証

.....答 (2)

⑪ある地域の海岸や河川の一部といった、限定された水域を安全に利用するための取決めや各種の制限事項は、何によって定められているか。次のうちから選べ。

- (1) 道路交通法 (2) 海上交通安全法 (3) 船舶安全法 (4) ローカルルール

.....答 (4)

⑫グレンデのローカルルールについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ある特定の水域にだけ適用される。
(2) 一人乗りの水上オートバイにだけ適用される。
(3) 航行禁止区域が設定されているところがある。
(4) 安全で秩序ある水域利用を図るために設けられている。

.....答 (2)

⑬グレンデのローカルルールについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 安全で秩序ある水域利用を図るために設けられている。
(2) 湖や川などの内水面にだけ適用されている。
(3) 混乱を避けるため、全国どこでも共通のルールとなっている。
(4) 水上オートバイにだけ適用されている。

.....答 (1)

⑭母船に搭載された水上オートバイの航行区域は、母船を中心にした半径何海里以内の水域か。次のうちから選べ。

- (1) 1 海里 (2) 2 海里 (3) 3 海里 (4) 5 海里

.....答 (2)

⑮水上オートバイを操縦する場合、船舶安全法及びこれに基づく命令により禁止されている事項は次のうちどれか。

- (1) 夜間航行 (2) 高速航行 (3) 連続航行 (4) 沿岸航行

.....答 (1)

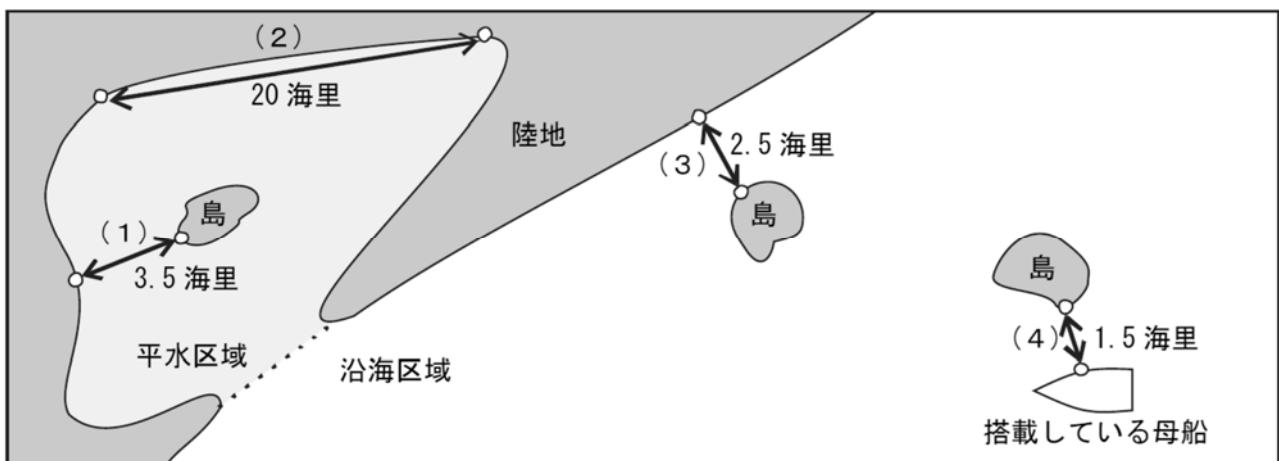
⑯水上オートバイを操縦する場合の法定遵守事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 操縦する場合には、特殊小型船舶操縦免許証を船内に備えおくことが義務付けられている。
(2) 無資格者が操縦する場合には、免許受有者の同乗が義務付けられている。
(3) 乗艇する者全員について、ライフジャケットの着用が義務付けられている。
(4) 船舶検査証書に記されている航行区域内での航行が義務付けられている。

.....答 (2)

⑰下図に示す(1)～(4)のうち、航行区域の規定上、水上オートバイで2 地点間を航行してはならないものはどれか。

(船舶安全法)



.....答 (3)

⑱ ゲレンデのローカルルールについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 航行区域がブイや旗で分けられている場合がある。
- (2) 徐行区域が設けられている場合がある。
- (3) 混乱を避けるため、全国どこでも共通のルールとなっている。
- (4) さまざまな利用者が同じ水域を安全に使用するために設けられている。

..... 答 (3)

⑲ 水上オートバイを操縦する場合に、法令で着用が義務付けられているものは、次のうちどれか。

- (1) グローブ (2) マリンシューズ (3) ヘルメット (4) ライフジャケット

..... 答 (4)



問 25 水上オートバイの運動特性

① 水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) シフト機能がある機種は、後進を使うことで、高速状態から瞬時に止まることができる。
- (2) 船尾船底付近に突起物がないので、プロペラや舵板のある船に比べて浅い水域も走行できる。
- (3) 小型で軽い艇体に高出力のエンジンを積んでいるので、高速で走行することができる。
- (4) 針路変更は、スロットルとハンドルの操作と、体重移動を同時に使って特う。

..... 答 (1)

② 水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 一般のモーターボートに比べて水深の浅い所を走行できる。
- (2) 小型で軽く、しかも高出力なので、加速がよく、高速走行ができる。
- (3) ブレーキがなくても、水の抵抗で速力を落としたり行きあしを止めることができる。
- (4) 転覆しても、キルスイッチコードを再びセットすると自動的に復元できる。

..... 答 (4)

③ 水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンを始動すると、スロットルレバーを離してもジェットノズルから水流が出る。
- (2) 高速走行中にスロットルを完全に閉じてしまうと、ハンドルバーを操作しても急旋回できない。
- (3) 船尾船底付近に突起物がないので、プロペラや舵板のある船に比べて浅い水域も走行できる。
- (4) ジェット噴流の向きを変えて方向転換するので、舵板の付いている船に比べて旋回性能が低い。

..... 答 (4)

④ 水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 艇体が水底に着かない場所であれば、どこでも走ることができる。
- (2) ある程度の推進力がないと、進行方向を自由に変わることができない。
- (3) 航行中にエンジンを停止しても、すぐには止まれないことがある。
- (4) 転覆しても、操縦者が自力で復元させて再び走り出すことができる。

..... 答 (1)

⑤ 水上オートバイの運動特性について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 転覆することを前提に設計されているため、転覆しても人力で復元することができる。
- (B) 推進力となるジェット噴流の向きを直接変えて方向転換するため、効率的で旋回性能が高い。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

..... 答 (3)

⑥ 水上オートバイが、一般のモーターボートやヨットに比べて水深の浅いところを走特できる理由として最も適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 高出力ですぐに滑走できるため (2) 最大搭載人員が少ないため
- (3) 船底に突起物がなく平らなため (4) 沈まない構造で浮力が大きいため

..... 答 (3)

⑦走行中の水上オートバイを停止させる方法として最も適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 急旋回させて遠心力で停止する。
- (2) 風の抵抗を利用して停止する。
- (3) インペラを逆転させて停止する。
- (4) 水の抵抗を利用して停止する。

.....答 (4)

⑧水上オートバイの運動特性について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 旋回時に体重を移動することで遠心力とのバランスを取り、なめらかに旋回できる。
- (B) 旋回方向に体重移動することで艇体が内側に傾き、抵抗が増して小さな径で旋回できる。
- (1) (A)のみ正しい
- (2) (B)のみ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑨走行中の水上オートバイは、体重移動を行うことで何を向上させることができるか。次のうちから最も適切なものを選び。

- (1) 燃費効率
- (2) 乗り心地
- (3) 旋回性能
- (4) エンジンの耐久性

.....答 (3)

⑩水上オートバイの一般的な運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 小型で軽い艇体に高出力のエンジンを積んでいるので、高速で走行することができる。
- (2) 進行方向の変更は、スロットル、ハンドルの操作及び体重移動を同時に使って行う。
- (3) 後進は、ジェット噴流の向きを反転しているだけなので、旋回性能はよくない。
- (4) エンジンを始動しても、緊急エンジン停止コードの一端を身体に装着しないと走行できない。

.....答 (4)

⑪水上オートバイの特性について述べた次の文の()の中に当てはまる語句として最も適切なものは、下のうちどれか。

「転覆しても沈まないように設計されているが、エンジンの電気系統が水につかると、最悪の場合、()できなくなるので、転覆したときはすみやかに引き起こす。」

- (1) 復原
- (2) 排水
- (3) 始動
- (4) 停止

.....答 (3)

⑫水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) エンジンが小さいので、加速が悪い。
- (2) 推進力がなくても簡単に進行方向を変えることができる。
- (3) 転覆しても簡単に引き起こすことができる。
- (4) 一般のモーターボートに比べ、水深の浅い所は走行できない。

.....答 (3)

⑬水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ジェット噴流の向きを変えることで、後進でも高速で航行することができる。
- (2) ある程度の推進力がなければ、進行方向を自由に変えることができない。
- (3) 走行中にエンジンを停止しても、惰力のためすぐには止まることができない。
- (4) 転覆しても、操縦者が自力で引き起こして再び走り出すことができる。

.....答 (1)

⑭水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ジェットインテークからゴミを吸い込むと、走行できなくなることがある。
- (2) 走行中にエンジンを停止しても、惰力のためすぐには止まることができない。
- (3) ジェット噴流の向きを変えることで艇体の向きを変えるため、旋回性能が高い。
- (4) 推進力がなくても、惰力があれば簡単に進行方向を変えることができる。

.....答 (4)

⑮水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 一般のモーターボートに比べ、水深の浅い所を走行することができる。
- (2) 万が一転覆したとしても、人力で簡単に引き起こすことができる。
- (3) ブレーキがなくても、水の抵抗で速力を落とすことができる。
- (4) 推進力がなくても、風を受けて動いていれば自由に方向転換できる。

.....答 (4)

⑯水上オートバイの運動特性について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 加速性がよく、素早く滑走状態になり、高速で走行することができる。
- (B) 船尾に舵^{かじ}が付いていないので、舵のある船に比べて旋回性能が低い。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑰水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンを始動すると、スロットルレバーを離してもジェットノズルから水流が出る。
- (2) 高速走行中にスロットルレバーを離してしまうと、ハンドルバーを操作しても急旋回できない。
- (3) 船底に突起物がないので、プロペラや舵のある船に比べて浅い水域も走行できる。
- (4) ジェット噴流の向きを変えて方向転換するので、舵の付いている船に比べて旋回性能が低い。

.....答 (4)

⑱水上オートバイの運動特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ジェット噴流の向きを変えることで、後進でも高速で航行することができる。
- (2) ある程度の推進力がないと、進行方向を自由に換えることができない。
- (3) 走行中にエンジンを停止しても、惰力のためすぐには止まることができない。
- (4) 転覆しても、操縦者が自力で引き起こして再び走り出すことができる。

.....答 (1)

⑲水上オートバイの特性について述べた次の文の()の中に当てはまる語句として最も適切なものは、下のうちどれか。

「転覆しても沈まないように設計されているが、エンジンの電気系統が水につかると、最悪の場合、

()できなくなるので、転覆したときはすみやかに引き起こす。」

- (1) 復原 (2) 排水 (3) 始動 (4) 停止

.....答 (3)



問 26 水上オートバイの構造

①次の文に該当する水上オートバイの装置は、下のうちどれか。

「ここにプレートなどをセットすることにより、エンジンが始動できる状態になる。走行中、転落などでここからプレートが外れると、瞬時にエンジンを停止させる。」

- (1) ストップボタン (2) キルスイッチ (3) スタートボタン (4) グリップハンドル

.....答 (2)

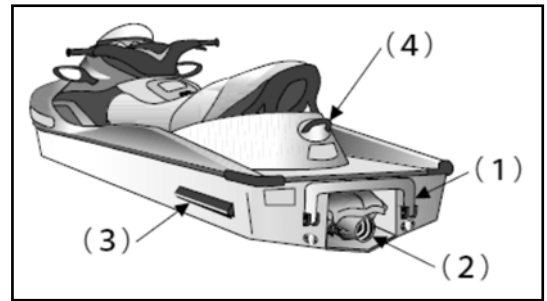
②ジェットインテークから吸い込む水の使用目的として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) エンジンの潤滑と冷却 (2) エンジンの冷却と艇体の推進
- (3) エンジンの冷却と洗^{せんじょう}浄 (4) エンジンの潤滑と艇体の推進

.....答 (2)

③右図は、水上オートバイを斜め後方から見た略図である。図中(1)～(4)の名称として適切でないものは、次のうちどれか。

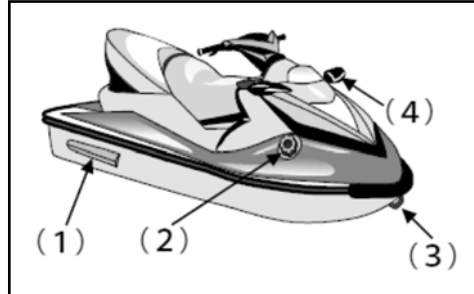
- (1) ボーディングステップ
- (2) ジェットノズル
- (3) スポンソン
- (4) パウアイ



.....答 (4)

④右図は、水上オートバイを斜め前方から見た略図である。図中(1)～(4)の役割として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 旋回時の操縦安定性を高める。
- (2) エンジンの冷却水を注入する。
- (3) 係船ロープや曳航ロープをつなぐ。
- (4) 走行中に後方の安全を確認する。



.....答 (2)

⑤艇体各部の名称とその役割について示した次の組合せのうち、適切でないものはどれか。

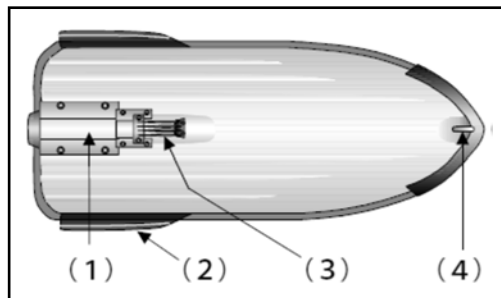
- (1) パウアイ.....係留ロープをつないだり、曳航される場合に曳航ロープをつなぐ。
- (2) リバースゲート.....ジェットノズルをふさいで、エンジンを停止させる。
- (3) 冷却水点検孔.....エンジン始動後、冷却水の循環状態を確認する。
- (4) ドレンプラグ.....陸揚げしたときに、エンジンルームにたまった水を艇外に排出する。

.....答 (2)

⑥右図は、水上オートバイを船底から見た略図である。

図中(1)～(4)の名称として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) ジェットノズル
- (2) スポンソン
- (3) ジェットインテーク
- (4) パウアイ



.....答 (1)

⑦水上オートバイの構造上の特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンルーム内が水で満たされても、沈まないような構造になっている。
- (2) クラッチがないので、エンジンを始動すると同時に水流を噴射し始める。
- (3) 後方へ噴射する水の方向を左右に変えることで艇体の向きを変えている。
- (4) 船尾から吸い込んだ水を勢いよく船底から噴射することで推進力を得ている。

.....答 (4)

⑧後進機能が付いた水上オートバイのシフト操作について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ハンドルを切っても旋回できないような狭い場所で、方向転換をする場合に使用する。
- (2) エンジン始動時に、噴流の方向を変えて急発進を防止するために使用する。
- (3) 高速走行中、他船との衝突の危険が迫った場合に、緊急停止するために使用する。
- (4) 栈橋に着岸するときや、砂浜に着けるときに、行きあしを調節するために使用する。

.....答 (3)

⑨ジェットポンプ内のインペラについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 回転することにより、推進用と冷却用の水を吸い込む。
- (2) 垂鉛で作られていて、ドライブシャフトの電食を防ぐ。
- (3) クラッチがないので、エンジンの運転中は常に回転している。
- (4) ゴミやロープがからむと、エンジンが停止する原因となる。

.....:答 (2)

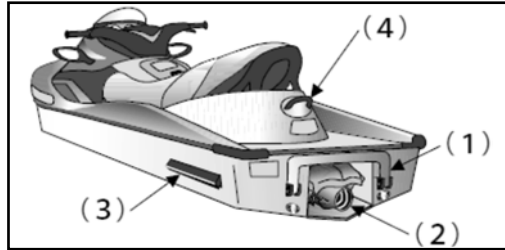
⑩水上オートバイの推進力となる水の流れについて述べた次の文の()の中に当てはまる語句として最も適切なものは、下のうちどれか。

「ジェットインテークから吸い込んだ水を、ジェットポンプ内の()で加速し、整流器を通してジェットノズルから噴出する。」

- (1) シフトレバー (2) ドライブシャフト (3) リバースゲート (4) インペラ

.....:答 (4)

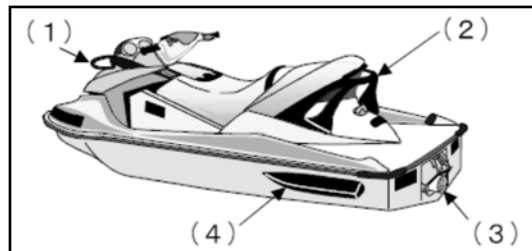
⑪右図は、水上オートバイを斜め後方から見た略図である。図中(1)～(4)の名称として誤っているものは、次のうちどれか。



- (1) リポーディングステップ
- (2) ジェットインテーク
- (3) スポンソン
- (4) スターンアイ

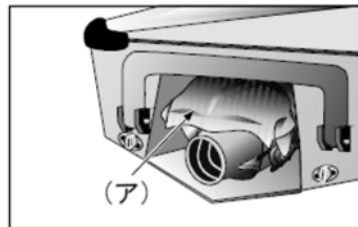
.....:答 (2)

⑫右図は、水上オートバイを斜め後方から見た略図である。図中(1)～(4)のうち、ハンドルバーと連動しているものはどれか。



.....:答 (3)

⑬右図は、艇体の船尾部分を拡大した略図である。図中(ア)の役割は次のうちどれか。



- (1) 滑走時の直進性を高める。
- (2) ジェット噴流の向きを船首方向に変える。
- (3) 旋回時の操縦安定性を高める。
- (4) 水中から乗艇するときの補助となる。

.....:答 (2)

⑭次の文に該当する艇体の箇所は、下のうちどれか。

「水上に降ろす前にしっかり締めておかないと、エンジンルームに水が入って走行ができなくなるおそれがある。また、陸揚げしたときには開放して、エンジンルーム内に入った水を排出する。」

- (1) 冷却水点検孔 (2) ジェットノズル (3) ドレンプラグ (4) ジェットインテーク

.....:答 (3)

⑮ジェット噴流の方向を反転させるためのリバースゲートの操作は、何という装置によって行うか。次のうちから選べ。

- (1) シフトレバー (2) ハンドルバー (3) チョークノブ (4) スロットルレバー

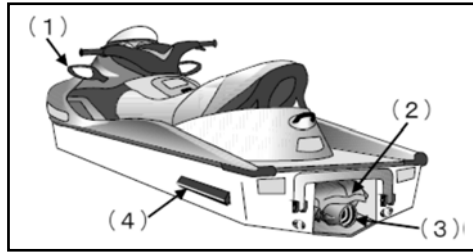
.....:答 (1)

⑯艇体各部の名称とその役割について示した次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- (1) ハンドルバー ……連動するステアリングノズルの向きを変える。
- (2) ジェットインテーク ……推進力を得るためのジェット噴流を噴射する。
- (3) スロットルレバー ……指で押し(引いて)、エンジンの回転数を調整する。
- (4) 緊急エンジン停止スイッチ ……落水などの緊急時に、エンジンを瞬時に停止させる。

……………答 (2)

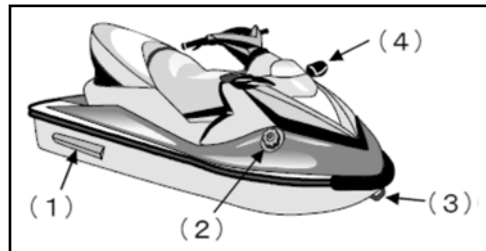
⑰右図は、水上オートバイを斜め後方から見た略図である。図中(1)～(4)のうち、シフトレバーと連動しているものはどれか。



……………答 (2)

⑱右図は、水上オートバイを斜め前方から見た略図である。図中(1)～(4)の名称として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) スポンソン
- (2) 燃料タンクキャップ
- (3) パウアイ
- (4) スロットルレバー



……………答 (4)

問27 操縦の基本

①操縦時の基本操作について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) まわりに遊泳者がいないか、近づいてくる船がないかどうかを確認した後、発進させるようにする。
- (B) スロットルレバーの操作はゆっくりとなめらかに行い、急加速や急減速をしないようにする。
- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

……………答 (3)

②旋回や増減速の基本操作について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 高速時の旋回は、ハンドル操作だけで行う。
- (2) 低速時の旋回は、体重移動だけで行う。
- (3) 高速からの減速は、スロットルレバーとシフトを同時に操作して行う。
- (4) 低速からの増速は、スロットルレバーを少しずつ操作して行う。

……………答 (4)

③シッティングタイプ的水上オートバイに乗り込む場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 操縦前に、ストレッチなどの準備運動をしておく。
- (2) 栈橋から乗る場合は、ハンドルを持って静かに乗り込む。
- (3) 同乗者を乗せる場合は、先に操縦者が乗ってバランスを取る。
- (4) 砂浜では、足首が水につかる程度の深さの所から乗り込む。

……………答 (4)

④シッティングタイプの上水オートバイに乗り降りする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 棧橋に着けた場合は、係留ロープを持って降りる。
- (2) 同乗者がいる場合は、先に同乗者を降ろしてから、操縦者が降りる。
- (3) 砂浜での乗り降りは、腰がつかる程度の水深の場所で行う。
- (4) 水中での乗り降りは、必ずエンジンをかけた状態で行う。

.....答 (4)

⑤シッティングタイプの上水オートバイに乗艇する要領について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 棧橋に横付けされている場合は、側方から乗る。
- (2) 足が着く深さの水中では、後部から乗る。
- (3) 足が着く深さの水中では、操縦者が先に乗り、その後同乗者が乗る。
- (4) 足が着かない深さの水中では、操縦者と同乗者が左右から同時に乗る。

.....答 (4)

⑥水中からシッティングタイプの上水オートバイへ乗艇する要領について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) リポーディングステップがある場合は、これを利用して乗艇する。
- (2) 水深の深いところでは後部から乗艇する。
- (3) エンジンが確実に停止していることを確認してから乗艇する。
- (4) 水深の浅いところでは前部から乗艇する。

.....答 (4)

⑦上水オートバイに乗艇する場合の注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 全身を使って操縦するので、乗艇前にストレッチなどの準備運動を行い、十分に体をほくしておく。
- (B) 砂浜での乗艇は、船底から砂や小石を吸い込まないように、腰がつかる程度の水深がある所で行う。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑧同乗者を乗り降りさせる場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 操縦者が先に乗った後、同乗者を乗せる。
- (2) 同乗者が乗るときには、一緒にバランスを取り合う。
- (3) 同乗者が完全に乗ったことを確認してから、エンジンを始動する。
- (4) 操縦者が先に降り、同乗者を降ろしてから、エンジンを停止する。

.....答 (4)

⑨旋回方法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 低速時には、ハンドル操作は行わず、体重移動だけで旋回する。
- (B) 高速時には、体重移動を行いつつ、スロットルとハンドルを操作して旋回する。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑩シッティングタイプの上水オートバイに、水中から操縦者と同乗者が乗艇する場合の要領について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンを停止した状態で乗艇する。
- (2) 同乗者は水中で艇体を支え、操縦者が乗艇しやすいようにする。
- (3) 操縦者は艇体前部から乗艇し、同乗者は艇体後部から乗艇する。
- (4) 乗艇するときには、お互いにバランスを取り合う。

.....答 (3)

⑪シッティングタイプの上水オートバイの操縦姿勢について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 通常走行時は、ひじを軽く曲げて肩の力を抜き、内またでシートをはさむようにする。
- (B) 波が高い場合は、大きく前かがみの姿勢をとり、ひじで衝撃を吸収するようにする。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑫シッティングタイプの上水オートバイを砂浜から発進させる場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 乗艇する場合には、バランスを取って側面から乗るようにする。
- (2) エンジンを始動する前に、艇体を数回揺すって砂などを落とす。
- (3) 乗艇すると不安定になるので、あらかじめエンジンを始動しておく。
- (4) 足首が水につかる程度の深さのところから、発進させるようにする。

.....答 (2)

⑬シッティングタイプの上水オートバイでの操縦姿勢について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 両手でハンドルを握り、両足をフットレストに乗せる。
- (2) ひじを少し上げて軽く曲げ、肩の力を抜くようにする。
- (3) 内またを思い切り開いて、両足でふんばるように座る。
- (4) ハンドルバーの高さが調節できるものは、最適な位置に合わせる。

.....答 (3)

⑭操縦要領について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 高速から速力を落とすときは、スロットルレバーを戻すと同時にシフトを後進に入れて水の抵抗を増加させる。
- (B) 高速で旋回するときは、ハンドルを旋回方向に切りながら、旋回方向に体重を移動させ、スロットルをなめらかに操作する。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑮操縦時の基本操作について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) まわりに遊泳者がいないか、近づいてくる船がないかどうかを確認した後、発進させるようにする。
- (B) スロットルレバーの操作はゆっくりとなめらかにいき、急加速や急減速をしないようにする。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)



問 28 危険回避・転覆復元の方法

①転覆した水上オートバイを復元する方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 再始動できなくなることがあるので、エンジンは停止しないで行く。
- (2) 波があるときは、波を利用して引き起こすと、簡単に復元できる場合がある。
- (3) 復元するときは、片舷側^{かたげん}を沈めるように押し下げて回転させる。
- (4) 復元するときの回転方向が艇体に表示してある場合は、その表示に従う。

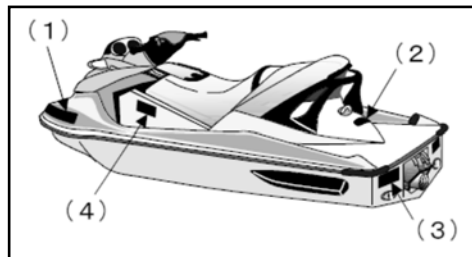
.....答 (1)

②転覆した水上オートバイを復元する要領について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 沖であわてないように、比較的浅いところで復原要領を練習しておく。
- (2) 船尾部分に警告ラベルがあれば、そのラベルに表示されている方向に復原する。
- (3) ジェットインテークをつかむ場合は、指をはさまないように十分注意して復原する。
- (4) オーバーヒートを防ぐため、エンジンをアイドリング状態にして復原する。

.....答 (4)

③右図は、水上オートバイを斜め後方から見た略図である。転覆した水上オートバイを引き起こす場合の回転方向を記載したステッカーは、一般的にどの位置にはられているか。図中(1)～(4)のうちから選べ。



.....答 (3)

④転覆した水上オートバイを復原する方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンを停止し、緊急エンジン停止コードを外した後に復原する。
- (2) 波がある場合は、波を利用して引き起こすと少ない力で復原できる。
- (3) 艇体底部によじ登って立ち、左右に体重をかけて揺らしながら反動で復原する。
- (4) 沖であわてないように、浅いところで練習し、復原できるようにしておく。

.....答 (3)

⑤走行中の旋回方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 低速時は安定が悪いので、旋回方向に倒れそうになったら、スロットルを少し開けて立て直す。
- (2) 旋回時は、ハンドルを旋回方向の反対側に切りながら、内側に体重を移動する。
- (3) 旋回後、目的の方向に向く少し手前から少しずつハンドルと操縦姿勢を元に戻す。
- (4) 高速走行中に旋回する場合は、旋回径を大きくするか、速力を落とす。

.....答 (2)

⑥転覆した水上オートバイを復原する方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 再始動がすぐにできるように、緊急エンジン停止スイッチをセットした状態で復原する。
- (2) ガンネルに足をかけ、片舷かたげんに体重をかけて押し下げながら復原する。
- (3) 艇体に復原時の回転方向が表示してある場合は、その表示に従って行う。
- (4) 復原した後はしばらく中高速で走行し、エンジンルーム内のビルジを排出する。

.....答 (1)

⑦転覆した水上オートバイを復原する(引き起こす)方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 緊急エンジン停止コードを外し、エンジンが停止していることを確認する。
- (2) 水上オートバイの船尾側、または押し下げようとする舷側げんまで泳ぐ。
- (3) ガンネルに足をかけ、片舷かたげんに体重をかけて押し下げながら引き起こす。
- (4) 回転させる方向が指定されていても、そのときに引き起こしやすい方向で行う。

.....答 (4)

⑧走行中、前方のすぐ近くに発見した浮遊物を避ける場合の操縦について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 直ちにハンドルを操作し、スロットルを開けて加速しながら旋回する。
- (2) 浮遊物が小さいときは、スロットルレバーを戻して減速しながらハンドルを操作する。
- (3) 旋回性能を高めるため、ハンドル操作と同時に体重移動を行う。
- (4) 高速走行中のため旋回が急角度になるときは、落水しないよう注意する。

.....答 (2)

⑨走行中、前方に浮遊物を発見した場合、これを避ける方法について述べた次の(A)と(B)の正誤を判定し、下のうちから当てはまるものを選べ。

- (A) スロットルを聞け、加速しながらハンドル操作と体重移動を同時に行って避ける。
 - (B) 周りの安全確認を行っている危険なので、浮遊物だけを見ながら避ける。
- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑩走行中、前方のすぐ近くに浮遊物を発見してとっさにこれを避ける場合には、どのように操縦するのが最も適切か。
次のうちから選べ。

- (1) エンジンを停止すると同時に体重を移動する。
- (2) エンジンを停止すると同時にハンドルを操作する。
- (3) ハンドルを操作すると同時に身体を起こして減速する。
- (4) ハンドルを操作すると同時に体重移動しながら加速する。

.....答 (4)

⑪ 走行中、船首のすぐ近くに障害物を発見した場合、とっさにこれを避けるための方法について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) エンジンを停止し、ハンドルを切って避ける。
- (2) エンジンを停止し、体重をどちらか一方にかけて避ける。
- (3) スロットルレバーを戻し、減速しながらハンドルを切って避ける。
- (4) ハンドルを切ってスロットルを開け、加速しながら避ける。

.....答 (4)

⑫ 走行中、船首前方に浮遊物を発見した場合、とっさにこれを避けるためには、直ちにハンドルとスロットルをどのように操作するのが最も適切か。次のうちから選べ。

(ハンドル) (スロットル) (ハンドル) (スロットル)

- (1) そのまま 開ける(加速) (2) 切る 閉じる(減速)
- (3) そのまま 閉じる(減速) (4) 切る 開ける(加速)

.....答 (4)

⑬ 転覆した水上オートバイを復原する(引き起こす)方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 艇体に引き起こすときの回転方向が表示してある場合は、その表示に従って回転させる。
- (2) インテークグリルに手をはさんだり、艇の下敷きにならないように注意する。
- (3) エンジンが停止していないときは、必ずエンジンを止めてから引き起こす。
- (4) 引き起こした後は再始動ができなくなるおそれがあるので、引き起こす直前にエンジンを始動する。

.....答 (4)



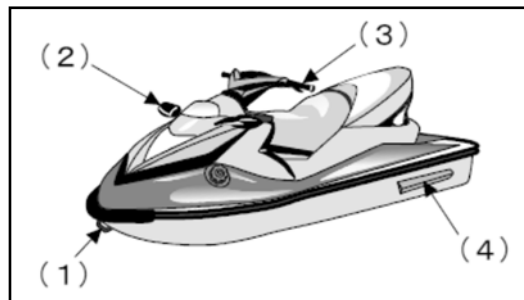
問 29 荒天時の操縦・曳航時の注意事項

① エンジントラブルを起こした他の水上オートバイをえいこう曳航する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 速力を落としても追突されないよう、ロープの長さに気をつける。
- (2) 曳航される水上オートバイには誰も乗せずに、できるだけ軽くする。
- (3) 曳航中はロープや引いている艇の状態を確認するため、航法の見張りに集中する。
- (4) 低速では引いている艇が転覆するおそれがあるので、できるだけ高速で曳航する。

.....答 (1)

② 右図は、水上オートバイを斜め前方から見た略図である。緊急時に他の船舶に曳航される場合、曳航ロープは図中(1)~(4)のうちどこに結べばよいか。



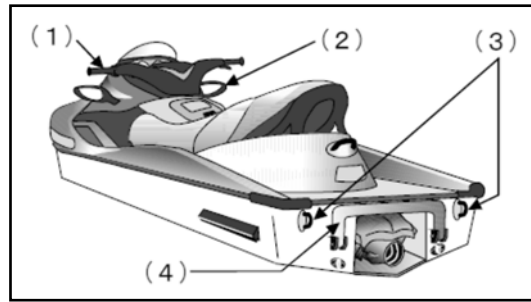
.....答 (1)

③ 他の水上オートバイのえいこう曳航を始める場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 曳航ロープは、自船のスターンアイに結ぶようにする。
- (2) 転覆しないように、できるだけ高速で引き始めるようにする。
- (3) 曳航ロープがジェットインテークに吸い込まれないように注意する。
- (4) 後方ばかりを見て、周囲の安全確認がおろそかにならないように注意する。

.....答 (2)

- ④右図は、水上オートバイを斜め後方から見た略図である。緊急時に他の船舶を曳航する場合、曳航ロープは図中(1)～(4)のうちどこに結ばよいか。



.....答 (3)

- ⑤ウェイクボードをトーイングする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) トーイングロープをジェットインテークに吸い込むと、走行できなくなることがある。
- (2) 発進時、トーイングロープがボーダーの手足にからまっていないことを確認する。
- (3) 操縦者は、ボーダーの安全確保のため、バックミラーから目を離さないようにする。
- (4) 操縦者は、障害物を見つけた場合や旋回する場合には、ボーダーに合図を送る。

.....答 (3)

- ⑥ウェイクボードをトーイングする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) トーイングロープをジェットインテークから吸い込まないように注意する。
- (2) 発進時、トーイングロープがプレーヤー(引かれる者)の手足にからまっていないか確認する。
- (3) 速力ができるように、プレーヤーを見張るための同乗者は乗せないようにする。
- (4) トーイング終了時は、プレーヤーとの安全な距離を保つため少しずつ速力を落とす。

.....答 (3)

- ⑦ウェイクボードをトーイングする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 左右にトーイングロープの長さ以上の十分な広さのある水域で行う。
- (2) 発進時、トーイングロープがボーダーの手足にからまっていないことを確認する。
- (3) 操縦者は、安全確保のため、前方に障害物がないかどうかを確認することにだけ意識を集中する。
- (4) トーイング中は、操縦者とボーダーの間で決めた合図により意思を伝える。

.....答 (3)

- ⑧やむを得ず荒天時に走行する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 波間で艇体がはね上がることのないように、速力を調整しながら波を越える。
- (2) 波の大きさにかかわらず、針路を変更する場合には大幅に一気に進行。
- (3) 追い波を受ける場合には、波の背面につかまるように速力を調整する。
- (4) ひじやひざを柔軟に使い、できるだけ衝撃を吸収できる姿勢をとる。

.....答 (2)

- ⑨ウェイクボードや水上スキーをトーイングする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 河川にはトーイングに関する条例や規制があるので、できるだけ湖で行うようにする。
- (2) トーイングロープの2倍以上の横間隔が必要となるので、広い水域で行うようにする。
- (3) トーイングロープをジェットインテークに吸い込むと、走行できなくなることがある。
- (4) スキーヤーやボーダーの動きを監視するため、専属の見張り役を乗せるようにする。

.....答 (1)

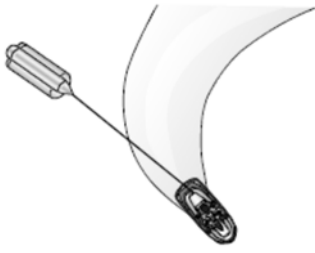
- ⑩他の水上オートバイを曳航する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 曳航される水上オートバイが転覆しないように、人を乗せて曳航する。
- (2) 曳航ロープが短いと、速力を落としたときに追突されることがある。
- (3) 曳航ロープが張りすぎないように、状況に応じた速力調整をする。
- (4) いつでも曳航ロープを放せるように、ハンドルバーにロープを結ぶ。

.....答 (4)

⑪バナナボートなどの遊具をトーイング中、高速で旋回したときの遊具の動きとして正しいものは、下図(1)～(4)のうちどれか。

(1) 外側に振られる



(2) 反転する



(3) 内側に振られる



(4) 平行に進む



.....答 (1)

⑫やむを得ず荒天時に走行する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 転覆すると、波にもまれて引き起こせない場合がある。

(2) 落水したときは、水上オートバイから離れないようにする。

(3) できるだけ斜め船尾方向から波を受けるようにする。

(4) 落水した場合は、乗艇後できるだけ早く再始動する。

.....答 (3)

⑬波の高い日に走行する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 砂浜から乗り降りするときは押し寄せる波に注意し、危険を感じたら出航を中止する。

(2) 波間で艇体がはね上がると、着水時に胸やあごをハンドルにぶつけることがあるので注意する。

(3) 速力を落としすぎると不安定になって転覆するおそれがあるので、速力調整に注意する。

(4) 船尾方向から波を受けて走行するときは、できるだけ波の下り斜面に位置するようにする。

.....答 (4)

⑭バナナボートなどの遊具をトーイングする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 水上スキーなどと違い、引かれている者が遊具を思いどおりに操作できない。

(2) 低速で旋回すると遊具が転覆しやすいので、できるだけ高速で旋回する。

(3) 遊具に乗っている者には、ライフジャケットや頭部の保護具を着用させる。

(4) 波を越えるときは強い衝撃を受けるので、適切な速力に調整する。

.....答 (2)

⑮ウェイクボードをトーイングする場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) トーイング中は、操縦者とプレーヤー(引かれる者)の間で決めた合図により意思を伝え合う。

(2) 発進時、トーイングロープがプレーヤーの手足にからまっていないことを確認する。

(3) 操縦者は、前方に障害物がないかどうかを確認することにだけ意識を集中する。

(4) コースの左右にトーイングロープの長さ以上の十分な広さのある水域で行う。

.....答 (3)

⑯エンジントラブルを起こした他の水上オートバイを曳航する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

(1) 速力を落としても追突されないよう、ロープの長さに気をつける。

(2) 曳航される水上オートバイには誰も乗せずに、できるだけ軽くする。

(3) 曳航中はロープや曳航されている艇の状態を確認するため、後方の見張りに集中する。

(4) 低速では曳航する艇が転覆するおそれがあるので、できるだけ高速で曳航する。

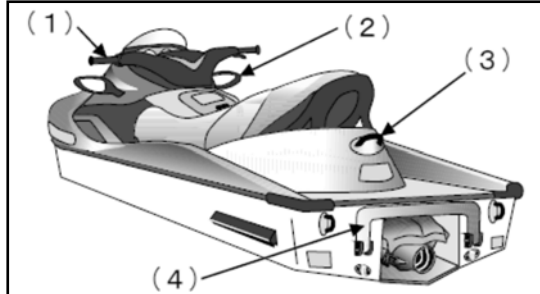
.....答 (1)

⑰乗艇中の水上オートバイがエンジントラブルを起こし、他の水上オートバイに曳航される場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 必ず一人が乗艇し、バランスを取りながら引かれるようにする。
- (2) 曳航ロープを自艇のスターンアイに結び、船尾側から引かれるようにする。
- (3) シートを取り外して引く側に預け、できるだけ艇体を軽くするようにする。
- (4) エンジンがかかっていないので、排水のためにドレンプラグを外すようにする。

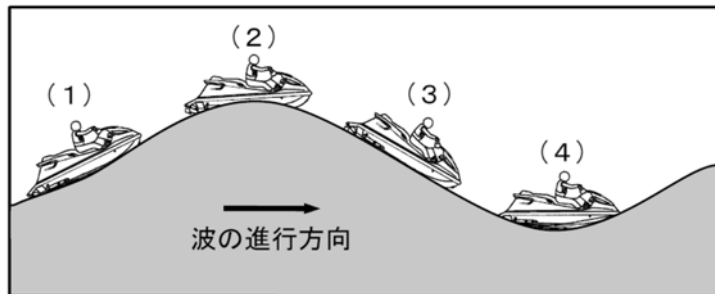
.....答 (1)

⑱右図は、水上オートバイを斜め後方から見た略図である。バナナボートなどの遊具をトーイングする場合、曳航ロープは図中の(1)～(4)のうちどこに結べばよいか。



.....答 (3)

⑲やむを得ず大きな追い波を受けて走行する場合、波のどの位置を走行するのが安全とされているか。右図の(1)～(4)のうちから選べ。

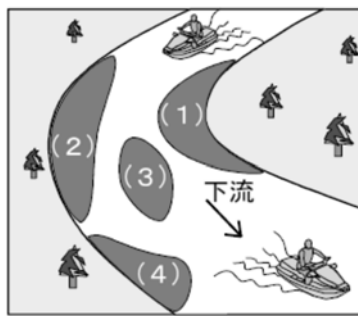


.....答 (1)

問30 沿岸・湖川における航法

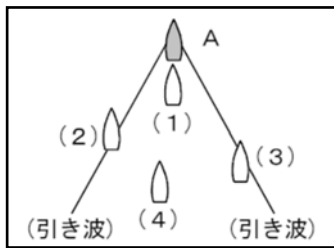
①右図に示すように前川がわん曲しているところでは、一般的にどの部分が浅いとされているか。図中に ■ で示した(ア)～(エ)のうちから選べ。

- (1) (ア)
- (2) (イ)
- (3) (ウ)
- (4) (エ)



.....答 (1)

②右図に示すように、走行中の水上オートバイAを追走するときは、図中(1)～(4)のうち、どのあたりに位置して走行するのが適当か。



.....答 (4)

③複数の水上オートバイでツーリングをする場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 先行する艇は、まわりよりも後ろの艇の動きに気をつけて走行する。
- (2) 後ろの艇は、引き波の影響を受けないように、前の艇のすぐ真後ろを走行する。
- (3) 先行する艇は、針路や速力を変更するときは、後ろの艇に分かるように合図を送る。
- (4) 後ろの艇は、周囲の安全確認は先頭の艇にまかせて、隊列を乱さないことに集中する。

.....答 (3)

④複数の水上オートバイでツーリングをする場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 走行ルートの水域調査は、陸上の道路地図なども活用してできるだけ詳しく行う。
- (2) 陸岸に近い水域を走行する場合でも、念のため予備燃料を準備する。
- (3) 先行する艇を追走するときは、前の艇との間隔をあけず、すぐ後ろを走行する。
- (4) 先行する艇が針路や速力を変更する場合は、後ろの艇に分かるように合図を送る。

.....答 (3)

⑤走行時の一般的な注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) できるだけ遠くの目標を選び、これに向かって走行する。
- (2) 前方に2つの重なる物標があれば、それを目標として利用する。
- (3) まわりに障害物がないことを確認してから変針する。
- (4) 変針するときは、一気にハンドルを切り、素早く新しい針路に乗せる。

.....答 (4)

⑥河川を走行する場合の一般的な注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 流れに乗って走行すると保針しにくい。
- (2) 河口付近は、潮の干満の影響を受ける。
- (3) 川幅が広がると、急に流速が上がる。
- (4) 河口では、不規則な波が発生しやすい。

.....答 (3)

⑦波や風の影響を受けやすい水域で一定の針路を保って走行するためには、何を目標にとればよいか。次のうちから最も適したものを選べ。

- (1) 1 物標の方位線 (2) 2 物標の重視線 (3) 前方の海岸線 (4) 船首の延長線

.....答 (2)

⑧河川を走行する場合の一般的な注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。

- (A) ダムの放水や大雨によって流れが急に変わることがあるので、水位の変化に注意して航行する。
- (B) 大雨の後には流木やゴミが多くなることがあるので、これらにぶつかったり吸い込んだりしないよう注意して航行する。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑨沿岸を走行するときの注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。

- (A) 暗礁あんしやうが存在することが多いので、岩場の海岸では岸から十分離れて走行する。
- (B) 遠浅の場合があるので、砂浜の海岸では水深に十分注意して走行する。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑩複数の水上オートバイでツーリングをする場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) あらかじめ、全ての艇が走行ルートを確認しておく。
- (2) 水域に詳しい者や、経験豊富な者が先導役をすとよい。
- (3) 先行する艇が急に速力を落としても、安全に停止できるような間隔をあける。
- (4) 周囲の安全確認は先頭の艇にまかせ、後ろの艇は隊列を乱さないことに集中する。

.....答 (4)

⑪河川を走行する場合の一般的な注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 台風や大雨のあとには浮遊物が多いので、十分注意して走行する。

(B) 河川のわん曲部では、外側は深く、内側は浅くなっている場合が多い。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑫複数の水上オートバイでツーリングをする場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

(1) 出発する前に先導役や走行順を決めておき、出発後は同行艇を確認しながら走行する。

(2) 先行する艇は、まわりよりも後ろの艇の動きに気をつけて走行する。

(3) 周囲の安全確認は先頭の艇にまかせ、後ろの艇は隊列を乱さないことに集中する。

(4) 先行する艇を追走するときは、前の艇との間隔をあけないですぐ後ろを走行する。

.....答 (1)

⑬複数の水上オートバイでツーリングをする場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 互いに近づきすぎないように注意する。

(2) スピードを出しすぎないように注意する。

(3) 河川では、横一列に並んで走行する。

(4) 追走するときは、前の艇と十分な間隔をあけて走行する。

.....答 (3)

⑭走行時の一般的な注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 直進するときは、できるだけ遠くの目標を選び、それに向かって走行する。

(2) 前方に2つの重なる物標があれば、それを直進や変針の目標として利用する。

(3) まわりに障害物がないことを確認してから変針する。

(4) 旋回するときは、一気にハンドルを切り素早く行う。

.....答 (4)

⑮河川を走行する場合の一般的な注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 河口では、潮の干満の影響を受け、水位が変わったり流れが逆になったりする場合がある。

(B) まわりの水面よりも細かい波が立っている場所は、水深が浅くなっている場合がある。

(1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑯複数の水上オートバイでツーリングをする場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 先行する艇は、まわりよりも後ろの艇の動きに気をつけて走行する。

(2) 予備燃料を準備し、給油や休憩ができる施設を事前に確認しておく。

(3) 水域に詳しい人や経験の豊富な人に先導役をしてもらう。

(4) 縦に並んで走行するときは、前の艇と十分な間隔をあけて走行する。

.....答 (1)

⑰走行時の一般的な注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 船首目標を決め、その目標に向かって走行すると、進路を保ちやすい。

(2) 直進時に船首目標を決めるときは、遠くではなく、なるべく近くにあるものを選ぶ。

(3) 陸近くを航行するときは、気付かないうちに岸に近寄ってしまうことがあるので注意する。

(4) 前方にある2つの重なった目標を利用すると、進路のずれが分かりやすい。

.....答 (2)





問 31 浮標式

①標体の塗色が黄色である浮標は、次のうちどれか。

- (1) 右舷浮標 (2) 左舷浮標 (3) 孤立障害浮標 (4) 特殊浮標

.....答 (4)

②左舷標識のトップマークの形状及び塗色は、次のうちどれか。ただし、赤、緑、黒は塗色を表す。

- (1)  赤 (2)  緑 (3)  黒 (4)  黒

.....答 (2)


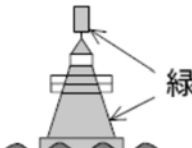
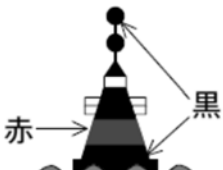
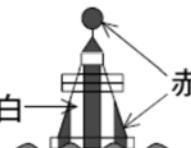
③南方位標識は、その標識のどちら側に可航水域があることを示すか。次のうちから選べ。

- (1) 水源 (2) 海口 (3) 南 (4) 北

.....答 (3)

④下図に示す灯浮標のうち、入港するとき、その灯浮標の右側に岩礁、浅瀬、沈船等の障害物があることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。

- (1)  赤 (2)  緑 (3)  黒 (4)  赤

.....答 (1)

⑤標体の塗色が緑色である浮標は、次のうちどれか。

- (1) 右舷浮標 (2) 左舷浮標 (3) 孤立障害浮標 (4) 安全水域浮標

.....答 (2)


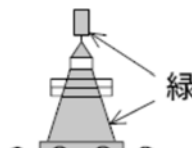
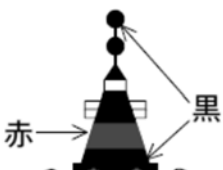

⑥安全水域標識のトップマークの形状及び塗色は、次のうちどれか。ただし、赤、緑、黒は塗色を表す。

- (1)  赤 (2)  緑 (3)  黒 (4)  黒

.....答 (1)

⑦下図に示す灯浮標のうち、出港するとき、その灯浮標の右側に岩礁、浅瀬、沈船等の障害物があることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。

- (1)  赤 (2)  緑 (3)  黒 (4)  赤

.....答 (2)

⑧標体の塗色が赤色である浮標は、次のうちどれか。

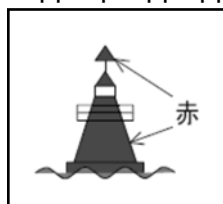
- (1) 右舷浮標 (2) 左舷浮標 (3) 孤立障害浮標 (4) 特殊浮標

.....答 (1)

⑨右図に示す標識は、次のうちどれか。

ただし、赤は標体の塗色を示す。

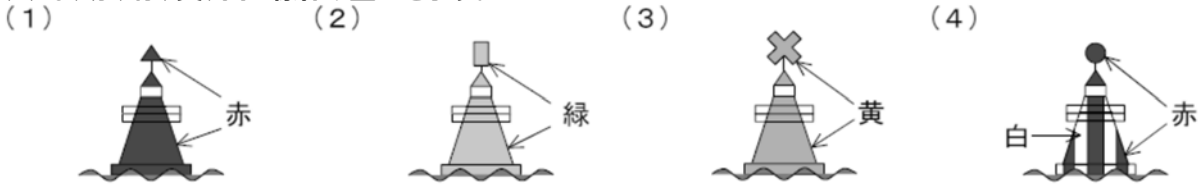
- (1) 右舷標識 (2) 左舷標識
(3) 孤立障害標識 (4) 特殊標識



.....答 (1)

⑩ 下図に示す標識のうち、標識の位置が工事区域等の特別な区域の境界であることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黄、白は標体の塗色を示す。

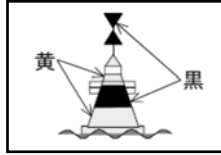


.....答 (3)

⑪ 右図に示す標識は、次のうちどれか。

ただし、黄、黒は標体の塗色を表す。

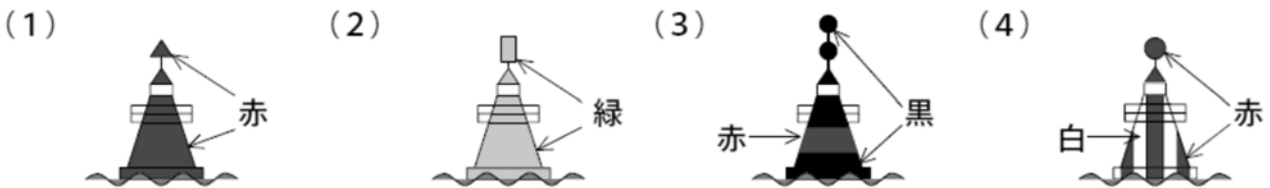
- (1) 北方位標識 (2) 東方位標識
(3) 南方位標識 (4) 西方位標識



.....答 (4)

⑫ 下図に示す灯浮標のうち、出港するとき、その灯浮標の左側に岩礁、浅瀬、沈船等の障害物があることを示すものはどれか。

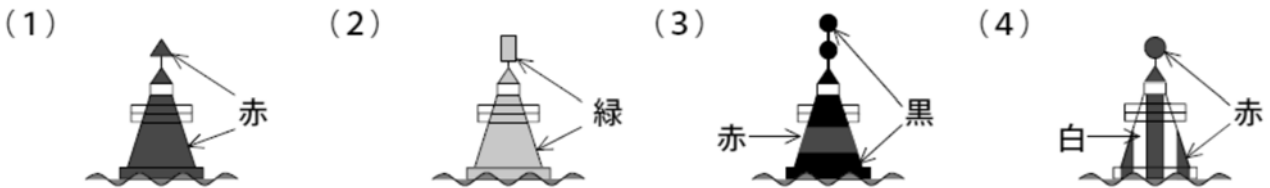
ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。



.....答 (1)

⑬ 下図に示す灯浮標のうち、標識の位置またはその付近に孤立して障害物があることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。

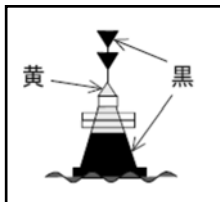


.....答 (3)

⑭ 右図に示す標識は、次のうちどれか。

ただし、黄、黒は標体の塗色を表す。

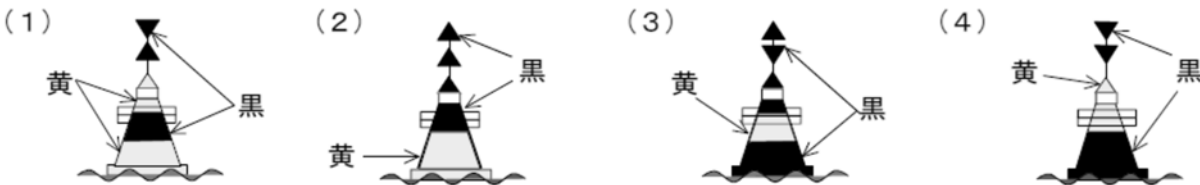
- (1) 北方位標識 (2) 東方位標識
(3) 南方位標識 (4) 西方位標識



.....答 (3)

⑮ 下図に示す灯浮標のうち、標識の西側に可航水域があることを示すものはどれか。

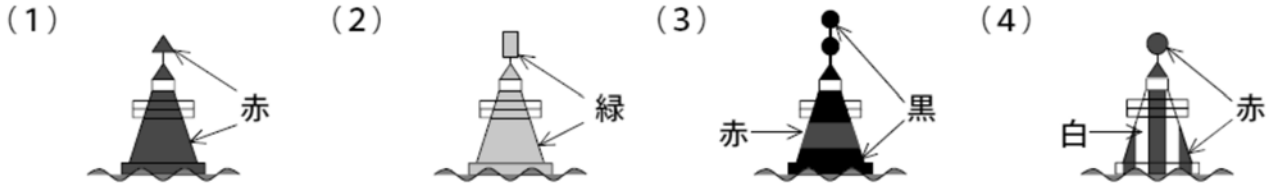
ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。



.....答 (1)

⑩ 下図に示す灯浮標のうち、入港するとき、その灯浮標の左側に岩礁、浅瀬、沈船などの障害物があることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。

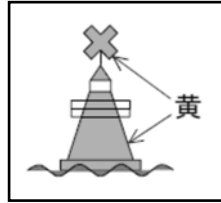


.....答 (2)

⑪ 右図に示す標識は、次のうちどれか。

ただし、黄は標体の塗色を表す。

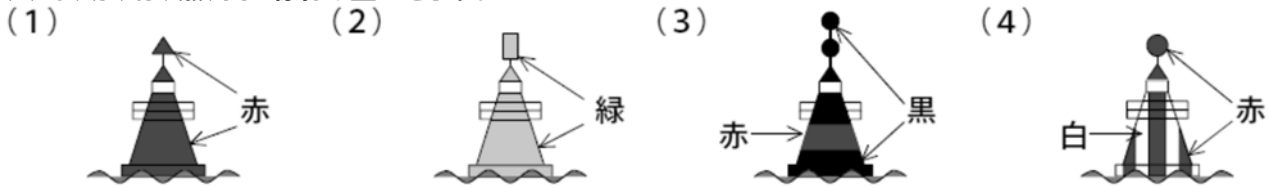
- (1) 右舷標識 (2) 特殊標識
(3) 左舷標識 (4) 孤立障害標識



.....答 (2)

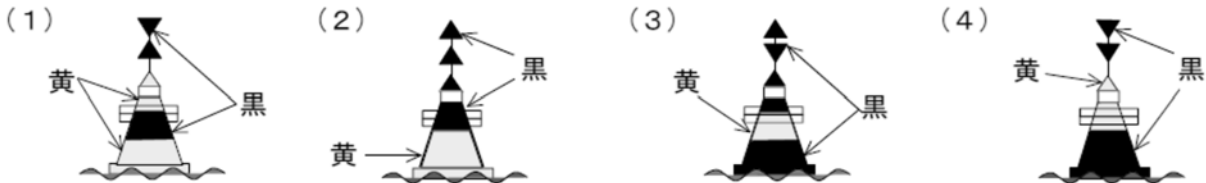
⑫ 下図に示す灯浮標のうち、入港するとき、その灯浮標の右側に岩礁、浅瀬、沈船などの障害物があることを示すものはどれか。

ただし、赤、緑、黒、白は標体の塗色を示す。



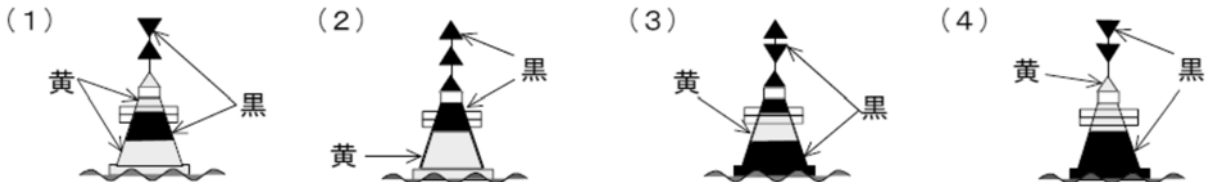
.....答 (1)

⑬ 下図に示す標識のうち、標識の東側に可航水域があることを示すものはどれか。ただし、黄、黒は標体の塗色を示す。



.....答 (3)

⑭ 下図に示す標識のうち、標識の北側に可航水域があることを示すものはどれか。ただし、黄、黒は標体の塗色を示す。



.....答 (2)

問 32 海図

①海図図式「 M 」(底質)の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 砂 (2) 石 (3) 泥 (4) 岩

.....答 (3)

②海図に記載されている水深の基準となる水面として正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 最高水面 (2) 平均水面 (3) 最低水面 (4) 中間水面

.....答 (3)

③海図図式「 S 」(底質)の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 砂 (2) 石 (3) 泥 (4) 岩

.....答 (1)

④海図図式「 Sh 」(底質)の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 砂 (2) 石 (3) 貝殻 (4) 岩

.....答 (3)

⑤海図図式「 R 」(底質)の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 砂 (2) 石 (3) 泥 (4) 岩

.....答 (4)

⑥緯度1分は何海里か。次のうちから選べ。

- (1) 1海里 (2) 10海里 (3) 60海里 (4) 100海里

.....答 (1)

⑦20ノットとは、1時間に何キロメートル(km)走行する速力をいうか。次のうちから選べ。

- (1) 約 18km (2) 約 25km (3) 約 37km (4) 約 55km

.....答 (3)

※ $20 \times 1.852 \div 37.04$

⑧1海里は何メートル(m)か。次のうちから選べ。

- (1) 910m (2) 1,000m (3) 1,609m (4) 1,852m


.....答 (4)

⑨次の海国図式のうち、「暗岩」を表すものはどれか。

- (1)  (2)  (3)  (4) 

.....答 (4)

⑩次の海国図式のうち、「洗岩」を表すものはどれか。

- (1)  (2)  (3)  (4) 

.....答 (3)

⑪次の海国図式のうち、「干出岩」^{かんしゅつがん}を表すものはどれか。

- (1)  (2)  (3)  (4) 

.....答 (1)

⑫次の海図図式のうち、「暗岩」を表すものはどれか。

- (1)  (2)  (3)  (4) 

.....答 (4)

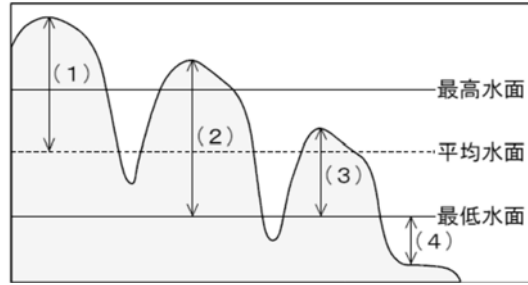
⑬干出岩^{かんしゅつがん}とは、どのようなものをいうか。次のうちから選べ。

- (1) 最低水面で水面上に現れる岩 (2) 最低水面とほぼ同じ高さの岩
(3) 最低水面で水面下に隠れる岩 (4) 最高水面で水面上に現れる岩

.....答 (1)

⑭海図に記された高さや水深の基準面を示した右図のうち、誤っているものはどれか。

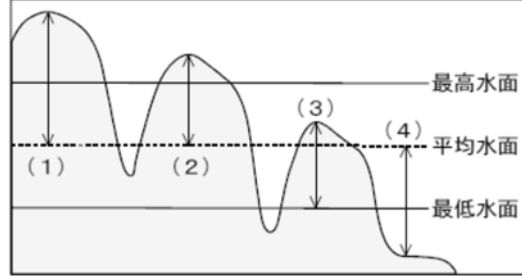
- (1) 山の高さ
- (2) 島の高さ
- (3) 干出の高さ
- (4) 水深



.....:答 (2)

⑮海図に記された高さや水深の基準面を示した右図のうち、誤っているものはどれか。

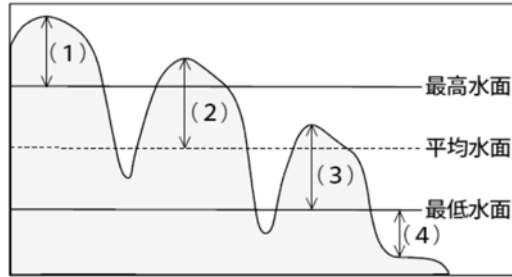
- (1) 山の高さ
- (2) 島の高さ
- (3) 干出の高さ
- (4) 水深



.....:答 (4)

⑯海図に記された高さや水深の基準面を示した右図のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 山の高さ
- (2) 島の高さ
- (3) 干出の高さ
- (4) 水深



.....:答 (1)

⑰海図に記載されている海岸線は、どの水面における海と陸との境界を示したものが。次のうちから選べ。

- (1) 最高水面 (2) 平均水面 (3) 最低水面 (4) 中間水面

.....:答 (1)

⑱ヨット・モーターボート用参考図では知ることができないものは、次のうちどれか。

- (1) 目的地までの距離
- (2) 予定針路上の危険物の存在
- (3) 海峡通過時の潮流の流向
- (4) 停泊予定地の水深

.....:答 (3)

問 33 発航前の点検

①発航前に行う点検事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) ジェットインテークやジェットノズルに異物がからみ付いていないことを確認する。
- (B) エンジンルーム内にビルジがなく、ドレンプラグが開いていることを確認する。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

②発航前の潤滑油系統の点検事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンオイルの量が適正であること
- (2) エンジンオイルの給油口が閉じていること
- (3) エンジンオイルが汚れていないこと
- (4) 数種類のエンジンオイルが適正に混合されていること

.....答 (4)

③陸上で燃料を給油する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) エンジンを停止した状態で行う。 (2) 艇体を水平にした状態で特う。
- (3) ゴミや水分が入らないようにする。 (4) ガソリンと軽油を適度に混ぜて補給する。

.....答 (4)

④発航前のバッテリーの点検について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ターミナルが確実に外れていることを確認する。
- (2) バッテリー液が規定量入っていることを確認する。
- (3) 本体が確実に固定されていることを確認する。
- (4) バッテリー液の比重が規定値であることを確認する。

.....答 (1)

⑤エンジン始動時の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 水上に降ろす前にまず陸上で試運転を行い、異常がないことを確認する。
- (2) 水上でエンジンを始動してから、緊急エンジン停止コードを体の一部に取り付ける。
- (3) エンジンがかかりづらいつきでも、スロットル全開で始動しないようにする。
- (4) 始動後、冷却水点検孔から冷却水が排出されていることを確認する。

.....答 (2)

⑥水上でエンジンを始動した後に確認した次の事項のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 排気は無色で異臭がしない。 (2) 冷却水点検孔から冷却水が排出されている。
- (3) ハンドルがロックして左右に動かない。 (4) 異常な振動や音が発生していない。

.....答 (3)

⑦発航前の艇体の点検について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ドレンプラグが開いていることを確認する。
- (2) ハルやデッキの全周にわたり、傷や割れがないことを確認する。
- (3) ハンドルバーやスロットルレバーが、なめらかに動くことを確認する。
- (4) ジェットインテークにゴミがからまっていないことを確認する。

.....答 (1)

⑧発航前に行う点検事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) ハンドルバーやスロットルレバーなどの可動部が、なめらかに動くことを確認する。
- (B) ジェットインテークやジェットノズルなどに、ゴミがからみ付いていないことを確認する。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑨発航前に行う点検事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 水上に降ろす前に、ドレンプラグが確実に開いていることを確認する。

(B) シートやハッチなどの開口部が、確実にロックされていることを確認する。

(1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑩発航前の点検要領として適切なものは、次のうちどれか。

(1) スロットルレバーと連動してリバースゲートが作動することを確認する。

(2) シフトレバーと連動してステアリングノズルが作動することを確認する。

(3) バッテリーのプラスのターミナルにマイナスのケーブルが接続していることを確認する。

(4) シートやハッチなどの開口部が閉じられ、確実にロックされていることを確認する。

.....答 (4)

⑪発航前に行う燃料系統の点検について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 燃料タンクキャップを開けてタンク内の圧力が抜けたことを確認する。

(2) 燃料タンクに最低限必要な量の燃料が入っていることを確認する。

(3) 燃料フィルターにゴミや水分がたまっていないことを確認する。

(4) 燃料ホースや燃料ポンプなどに漏れがないことを確認する。

.....答 (2)

⑫発航前に行わなければならない法定備品の点検項目として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 信号紅炎の有効期限 (2) 係船ロープの傷み具合

(3) 笛などの音響器具の有効期限 (4) ライフジャケットのバックルの状態

.....答 (3)

⑬発航前の点検要領として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) ハンドルバーと連動してステアリングノズルが作動することを確認する。

(2) シフトレバーと連動してリバースゲートが作動することを確認する。

(3) バッテリーのプラスのターミナルにマイナスのケーブルが接続していることを確認する。

(4) シートやハッチなどの開口部が閉じられ、確実にロックされていることを確認する。

.....答 (3)

⑭エンジンの始動要領について述べた次の文の下線部(1)～(4)のうち、適切でないものはどれか。

「シートに座ったら、まず(1) 緊急エンジン停止スイッチからコードを外し、(2) シフトレバーを後進の位置にする。まわりの安全を確認した後、(3) スタートボタンを押してエンジンが始動したら、(4) 冷却水点検孔からの排水状態を確認する。」

.....答 (1)

⑮発航前のバッテリーの点検について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) ターミナルが確実に外れていることを確認する。

(2) バッテリー液が規定量入っていることを確認する。

(3) 本体が確実に固定されていることを確認する。

(4) バッテリー液の比重が規定値であることを確認する。

.....答 (1)

⑯水上オートバイのエンジン始動時の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 水上に降ろす前にエンジンを始動させ、冷却水を通さず5分程運転し、音や振動を確認する。

(2) 緊急エンジン停止コードは、ライフジャケットや手首に装着した後、スイッチ側を取り付ける。

(3) 急発進事故防止のため、シフト機能が付いている機種は、後進や中立の状態では始動する。

(4) 始動すると同時に動き出す機種もあるので、ハンドルをしっかり持ち、始動に備える。

.....答 (1)

問 34 使用後の手入れ

①エンジンの冷却水系統を洗うときの要領について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) エンジンを始動した後、アイドリング状態で運転しながら水道水を5分程度注水する。
 (B) エンジンを停止した後、さらに5分程度注水してから水道水を止める。
 (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

②エンジンの冷却水系統を洗うときの要領について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 水道ホースを洗浄用冷却水注入口につなぎ、エンジン始動後、直ちに蛇口を開けて注水する。
 (B) 注水したまま、機種ごとの推奨時間に従いエンジンをアイドリング状態で5分程度運転する。
 (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

③エンジンの冷却水系統を洗うときの手順として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) エンジンを始動する前に、洗浄用冷却水注入口と水道ホースをつないでおく。
 (2) エンジンを始動した後に、水道の蛇口を開けて注水を始める。
 (3) ある程度注水したら、水道水を止め、エンジンをアイドリング状態で10分程度運転する。
 (4) 洗い終わったら、水道ホースを外し、数回空吹きをしてからエンジンを停止する。

.....答 (3)

④冬季、陸上保管する場合の保守手入れについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ドレンプラグを明け、船首を少し持ち上げた状態で保管する。
 (2) 冷却水系統を清水で洗い、冷却水路に残った水を完全に抜いておく。
 (3) バッテリーを取り外し、充電してから風通しのよい場所に保管する。
 (4) エンジン各部のホース類を取り外し、ゴム部分に潤滑剤を吹きつけておく。

.....答 (4)

⑤エンジンの冷却水系統を洗うときの要領について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) エンジンを始動する前に、十分に水道水を注水しておく。
 (B) ある程度注水したら水道水を止め、エンジンをアイドリング状態で5分程度運転する。
 (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (4)

⑥海水域で使用した後の上架手入れについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 艇体全体、特に可動部分を清水で念入りに洗う。
 (2) ジェットノズルやジェットインテークの内部を清水で洗う。
 (3) エンジンを始動し、冷却水系統に清水を通して洗う。
 (4) 燃料系統に清水を通して洗い、十分に乾燥させる。

.....答 (4)

⑦海水域で使用した水上オートバイを清水で洗う理由として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) FRP製の艇体が溶けるのを防ぐため (2) インペラが劣化するのを防ぐため
 (3) 冷却水系統に塩分が詰まるのを防ぐため (4) 金属部分が腐食するのを防ぐため

.....答 (1)

⑧エンジンの冷却水系統を洗うときの手順について述べた次の組合せのうち、適切なものはどれか。

	洗い始めるとき	洗い終わったとき
(1)	エンジンを始動した後、水道水を流す。	エンジンを停止した後、水道水を止める。
(2)	エンジンを始動した後、水道水を流す。	水道水を止めた後、エンジンを停止する。
(3)	水道水を流した後、エンジンを始動する。	エンジンを停止した後、水道水を止める。
(4)	水道水を流した畿、エンジンを始動する。	水道水を止めた後、エンジンを停止する。

.....答 (2)

⑨海水域で使用した後の保守手入れについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船尾のドレンプラグを開けて、船内にたまっているビルジや砂を排出する。
- (2) 艇体を洗いながら、割れやへこみなどの損傷がないことを確認する。
- (3) ジェットインテークやジェットノズル内にゴミや異物がないことを確認する。
- (4) 艇体を清水で洗った後、乾いた布にシンナーを含ませて水分を十分にふき取る。

.....答 (4)

⑩水上オートバイの冷却水系統を洗うときの要領について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 洗うときは、十分に水道水を注水してからエンジンを始動する。
- (B) 洗い終わったらエンジンを止め、さらに数分間注水してから水道水を止める。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (4)

⑪水上オートバイの冷却水系統を洗うときの手順について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) エンジンを始動する前に、洗浄用冷却水注入口に直接水道ホースを差し込むか、接続用アダプターを使用して水道ホースをつないでおく。
- (B) 冷却水系統の塩分を十分洗い流した後に水道水を止め、数回空吹きを行い冷却水系統に残った水を排出してからエンジンを止める。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑫使用後の手入れについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 海水域で使用した場合は、艇体に残った塩分を清水で洗う。
- (2) ドレンプラグを開けて、船内にたまったビルジを排出する。
- (3) エンジンの冷却水系統を洗う場合は、エンジンを止めた状態で行う。
- (4) バッテリーターミナルからケーブルを取り外しておく。

.....答 (3)

⑬定期的に潤滑剤などをささなければならぬ部品として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) スロットルケーブル (2) シフトケーブル
- (3) ステアリングケーブル (4) 緊急エンジン停止コード

.....答 (4)

⑭水上オートバイの冷却水系統を洗うときの要領について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) エンジンを始動した後、水道水を注水しながらアイドル状態で機種ごとの推奨時間運転する。
- (B) エンジンを停止した後、さらに5分程度注水してから水道水を止める。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

問 35 機関故障の原因及び対策

① 走行中、突然異常な振動が生じた場合、その原因として考えられるものは、次のうちどれか。

- (1) スターターモーターが故障した。 (2) バッテリーが上がった。
(3) インペラにゴミがからんだ。 (4) ビルジが大量にたまった。

.....答 (3)

② 走行中、ジェットインテークにゴミが詰まった場合、そのゴミを取り除く方法として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 低速、高速を繰り返し、速度差を利用して取り除く。
(2) 左右の急旋回を何度も行い、遠心力で取り除く。
(3) 前進、後進を繰り返し、インペラを反転させて取り除く。
(4) エンジンを止めて水中に入り、手を伸ばして取り除く。

.....答 (4)

③ ドライブシャフトにゴミなどが巻き付いた場合に起こる現象やその対処について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 激しい振動や、スロットルを聞けてもスピードが出ないなど、走行状態に異常が表れる。
(2) ほとんどの場合、スロットルを大きく聞けることで取り除くことができる。
(3) 取り除けない場合、走行できるようであれば、低速で帰港するか、近くの岸に着ける。
(4) 取り除かないまま無理に走行すると、エンジンが停止して走行できなくなるおそれがある。

.....答 (2)

④ エンジンを始動しようとしたところ、スターターモーターが作動しなかった。この場合に考えられる原因は、次のうちどれか。

- (1) 燃料フィルターに水がたまっている。 (2) 緊急エンジン停止コードが外れている。
(3) 点火プラグが汚れている。 (4) 燃料タンクが空になっている。

.....答 (2)

⑤ 走行中、エンジンから聞き慣れない音がした場合に最初取るべき処置は、次のうちどれか。

- (1) 緊急エンジン停止コードを抜く。 (2) エンジンの回転数を下げる。
(3) ストップボタンを押す。 (4) シフトを後進に入れる。

.....答 (2)

⑥ 走行中、エンジンが突然停止する原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 燃料がなくなった。 (2) キルスイッチからコードが外れた。
(3) エンジンが焼き付いた。 (4) リバースゲートが壊れた。

.....答 (4)

⑦ 走行中、突然エンジンが異音を発した場合、その原因として考えられるものは、次のうちどれか。

- (1) バッテリーターミナルのゆるみ (2) 冷却水点検孔の詰まり
(3) ドレンプラグのゆるみ (4) ジェットインテークの詰まり

.....答 (4)

⑧ 走行中、エンジンの回転数が不規則に変動する原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 燃料にゴミや水分が混ざっている。 (2) ジェットインテークから水を吸い込んでいる。
(3) 点火プラグが汚れている。 (4) 点火プラグキャップがゆるんでいる。

.....答 (2)

⑨ 走行中、エンジンが突然停止した場合の原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 緊急エンジン停止コードが外れた。 (2) 燃料を使い切った。
(3) スターターモーターが故障した。 (4) エンジンが焼き付いた。

.....答 (3)

⑩ スターターモーターが作動せず、エンジンが始動しない原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 燃料フィルターに水がたまっている。 (2) 緊急エンジン停止コードが外れている。
(3) バッテリーのターミナルが外れている。 (4) バッテリーが上がっている。

.....答 (1)

⑪ 走行中、エンジンがオーバーヒートしているときに見られる現象として適切でないものは、次のうちどれか。

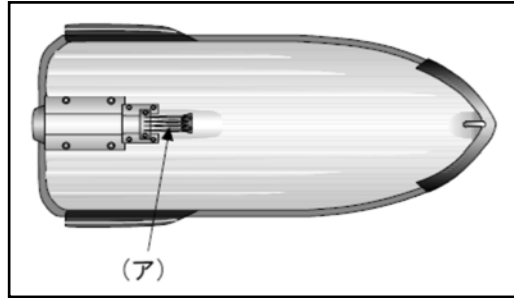
- (1) 警告ブザーが鳴ったり警告ランプがついたりする。
- (2) エンジンから焦げ臭いにおいがする。
- (3) 燃料計の表示が E (エンプティ)を示す。
- (4) 冷却水点検孔からの排出水量が極端に減る。

.....答 (3)

⑫ 右図は、水上オートバイを船底側から見た略図である。

図中(ア)にゴミや藻などの異物がからまったり、(ア)から異物を吸い込んだりした場合に起こりうる現象として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) バッテリーが上がる。
- (2) オーバーヒートする。
- (3) 推進力が低下する。
- (4) インペラが破損する。



.....答 (1)

⑬ 走行中、突然推進力が低下する原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) インペラに異物があたり、一部が破損した。
- (2) ドライブシャフトに異物がからんだ。
- (3) ジェットインテークに異物が詰まった。
- (4) 冷却水点検孔に異物が詰まった。

.....答 (4)

⑭ エンジンが始動しない場合の点検箇所として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないときは、燃料油量を点検する。
- (2) スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないときは、点火プラグの汚れを点検する。
- (3) スターターモーターが作動しないときは、エンジンオイルの汚れを点検する。
- (4) スターターモーターが作動しないときは、緊急エンジン停止コードの取付け状態を点検する。

.....答 (3)

⑮ エンジンを始動しようとしたところ、スターターモーターが作動しなかった。この場合に考えられる原因として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 燃料フィルターに水がたまっている。
- (2) 緊急エンジン停止コードが外れている。
- (3) 点火プラグが汚れている。
- (4) 燃料タンクが空になっている。

.....答 (2)

⑯ 走行中、突然エンジンが異音を発した場合、その原因として考えられるものは、次のうちどれか。

- (1) バッテリーターミナルのゆるみ
- (2) 冷却水点検孔の詰まり
- (3) ドレンプラグのゆるみ
- (4) ジェットインテークの詰まり

.....答 (4)

⑰ エンジンにガソリンが供給されていない場合は何を点検したらよいか。次のうちから選べ。

- (1) エンジンオイルの粘度
- (2) バッテリーターミナルの接続
- (3) 燃料タンク内の残量
- (4) 点火プラグの締付け

.....答 (3)

⑱ 走行中、ジェットインテークにゴミを吸い込んだ場合に起こる現象として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 推進力が低下する。
- (2) 振動が発生する。
- (3) スロットルレバーが戻らなくなる。
- (4) オーバーヒートする。

.....答 (3)

問 36 天気図記号

①「くもり」を表す天気記号(日本式)は、次のうちどれか。

- (1) ● (2) ⊙ (3) ⊕ (4) ⊗

.....答 (2)

②天気記号(日本式)とその天気を示した次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- (1) ○ … 快 晴 (2) ⊗ … 雪 (3) ⊕ … くもり (4) ● … 雨





.....答 (3)

③天気記号(日本式)「●」の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 晴れ (2) くもり (3) 雨 (4) 雪

.....答 (3)

④「温暖前線」を表す記号は、次のうちどれか。

- (1)  (2)  (3)  (4) 

.....答 (4)

③天気記号(日本式)「⊗」の表すものは次のうちどれか。

- (1) 晴れ (2) くもり (3) 雨 (4) 雪

.....答 (4)

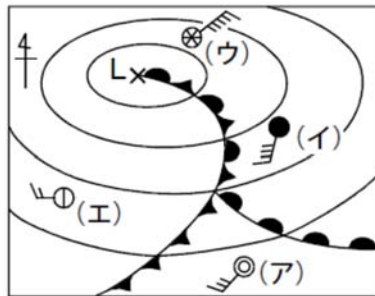
④地上天気図の記号「」の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 温暖前線 (2) 寒冷前線 (3) 停滞前線 (4) 閉塞前線

.....答 (2)

⑤右図は、日本付近に現れる地上天気図の一部を示したものである。風が最も強い地点は、图中(ア)～(エ)のうちどれか。

- (1) (ア)
(2) (イ)
(3) (ウ)
(4) (エ)



.....答 (3)

⑥地上天気図の記号「」の表すものは、次のうちどれか。

- (1) 温暖前線 (2) 寒冷前線 (3) 停滞前線 (4) 閉塞前線





.....答 (1)

⑦「霧」を表す天気記号(日本式)は、次のうちどれか。

- (1) ● (2) ⊙ (3) ⊕ (4) ⊗

.....答 (2)

⑧「寒冷前線」を表す記号は、次のうちどれか。

- (1)  (2)  (3)  (4) 

.....答 (3)

⑨天気記号(日本式)「⊙」の表すものは次のうちどれか。

- (1) 晴れ (2) 霧 (3) 雨 (4) 雪

.....答 (2)

⑩天気記号(日本式)「⊕」の表すものは次のうちどれか。

- (1) 晴れ (2) くもり (3) 雨 (4) 雪

.....答 (1)

⑫「晴れ」を表す天気記号(日本式)は、次のうちどれか。

- (1) ● (2) ⊙ (3) ⊖ (4) ⊗

.....答 (3)

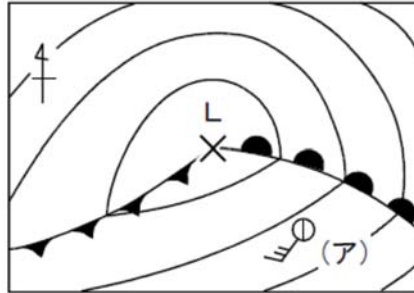
⑬天気記号(日本式)とその天気を示した次の組合せのうち、誤っているものはどれか。

- (1) ○ … 快 晴 (2) ⊗ … 雪 (3) ● … 雨 (4) ⊖ … くもり

.....答 (4)

⑭右図は、日本付近に現れる地上天気図の一部を示したものである。図中(ア)地点の風向と天気は、次のうちどれか。

- (1) 北 東 くもり
(2) 北 東 晴れ
(3) 南 西 晴れ
(4) 南 西 くもり



.....答 (3)

⑮「雨」を表す天気記号(日本式)は、次のうちどれか。

- (1) ● (2) ⊙ (3) ⊖ (4) ⊗

.....答 (1)

問 37 海陸風・前線

①海陸風について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) よく晴れた夏の日の沿岸部で吹くことが多い。
(2) 陸風と海風が入れ替わる時は、ほぼ無風状態となる。
(3) 日中と夜間における海と陸の温度差が原因である。
(4) 日中は陸から海へ、夜間は海から陸に向かって吹く。

.....答 (4)

②風速について述べた次の文の()の中に当てはまる語句として適切なものは、下のうちどれか。

「風速は1秒間に空気の移動する距離をメートル毎秒で表すが、風速は絶えず変化するので、通常は観測時前()の平均風速で表されている。」

- (1) 10秒間 (2) 1分間 (3) 10分間 (4) 1時間

.....答 (3)

③寒冷前線が遭遇するときに生じる気象現象として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 突風が吹くことが多い。 (2) 風向が南寄りから西寄りに急変する。
(3) にわか雨が降る。 (4) 通過後は気温が急激に上がる。

.....答 (4)

④突風や雷雨をともなう雲は、次のうちどれか。

- (1) 巻 雲 (2) 層 雲 (3) 高積雲 (4) 積乱雲

.....答 (4)

⑤気温と風の関係について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 気温が上昇すると、周囲から風が吹いてくる。
(2) 昼間は陸上より海上の気温が高くなり、陸風が吹く。
(3) 2地点間に気温の差が生じると、気圧差が生じて風が吹く。
(4) 2地点間の気温差が大きいほど強い風が吹く。

.....答 (2)

⑥海岸付近を走行する場合の注意事項について述べた次の文の()の中に当てはまる語句として適切なものは、下のうちどれか。

「夏から秋にかけて太平洋に面した海岸に押し寄せる()は、南方洋上で発達した台風によるうねりが、台風よりも早く太平洋岸に到達するもので、海辺に風がなくても波が高いことがあるため、洋上に台風が発生した場合は注意が必要である。」

- (1) 磯波 (2) 津波 (3) 三角波 (4) 土用波

.....答 (4)

⑦風について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 風は、気圧の高い所から低い所へ向かって吹く。
(2) 陸から海へ向かって吹く風は、沖に行くほど弱くなる。
(3) 風向は、風の吹いて来る方向で表す。
(4) 風速は、通常、1秒間に空気が移動する距離をメートル毎秒で表す。

.....答 (2)

⑧冬期、本州付近における季節風の一般的な風向は、次のうちどれか。

- (1) 北東 (2) 北西 (3) 南東 (4) 南西

.....答 (2)

⑨突風や雷雨をともなうことが多い前線は、次のうちどれか。

- (1) 温暖前線 (2) 停滞前線 (3) 閉塞前線 (4) 寒冷前線

.....答 (4)

⑩地形と風について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 地形の影響を受けて吹くその土地特有の風を、局地風という。
(2) 山から吹き下ろした風は、海岸では強く、沖に行くほど弱くなる。
(3) 山間の谷間を吹き抜ける風は、特に谷間の出口で強くなる。
(4) その土地特有の風は、地元では固有の名称で呼ばれることが多い。

.....答 (2)

⑪風について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 風は、気圧の高い所から低い所へ向かって吹く。
(2) 風向は、風の吹いていく方向で表す。
(3) 風速は、通常、10分間の平均風速で表す。
(4) 風速は、通常、1秒間に空気が移動する距離をメートル毎秒で表す。

.....答 (2)

⑫夏期、本州付近における季節風の一般的な風向は、次のうちどれか。

- (1) 東寄り (2) 西寄り (3) 南寄り (4) 北寄り

.....答 (3)

⑬風について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 風は、気圧の高い所から低い所へ向かって吹く。
(2) 一般に、陸上よりも海上の方が風は強い。
(3) 風向は、風の吹いて来る方向で表す。
(4) 風速は、通常、1分間に空気が移動する距離で表す。

.....答 (4)

⑭海岸付近を走行する場合に注意すべき危険な波について述べた次の文の()の中に当てはまる語句として適切なものは、下のうちどれか。

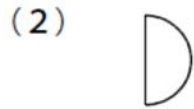
「夏から秋にかけて太平洋に面した海岸に押し寄せる土用波は、南方洋上で発達した()によるうねりが到達するもので、海辺に風がなくても波が高いことがあるため注意が必要である。」

- (1) 高気圧 (2) 寒冷前線 (3) 突風 (4) 台風

.....答 (4)

問 38 潮汐及び潮流

① 次の月の見え方のうち、潮の干満差が最も大きくなるのはどれか。



.....答 (4)

② 潮流について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 潮流の流向は、流れて行く方向を示す。
- (2) 潮流は、干満差の小さい所よりも大きい所の方が強い。
- (3) 潮流の流速は、月の満ち欠けによって推測することができる。
- (4) 潮流は、海峡や水道よりも沖合の方が強い。

.....答 (4)

③ 潮汐について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 潮汐により、海面が最も高くなった状態を満潮、最も低くなった状態を干潮という。
- (B) 満潮から干潮までの間を下げ潮といい、このときの潮流は、岸から沖へ向かう流れとなる。
- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

④ 潮汐及び潮流について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 沖合での潮の干満は、水面を見ただけでは判断できない。
- (2) 春の新月又は満月の頃は、干満の差が大きい。
- (3) 潮流は大洋では弱く、湾口や水道などでは強い。
- (4) 潮流の流向が北のとき、北風が強くと流速はいつそう速くなる。

.....答 (4)

⑤ 西から東の方向へ流れて行く潮流は、次のうちどれか。

- (1) 東西流 (2) 西東流 (3) 東流 (4) 西流

.....答 (3)

⑥ 潮汐について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 初めて入港する港でも、主要な港の潮時や潮高ならば、潮汐表で調べることができる。
- (B) 潮汐についての情報は、地元のマリナーやインターネットでも入手することができる。
- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑦ 潮の干満に対する注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 満潮時には走行できる水域でも、干潮時には干上がって走行できなくなることがある。
- (2) 上げ潮時には、干潮時に砂浜に置いた水上オートバイが目離れたすきに流されることがある。
- (3) 干潮時には、満潮時に短いロープで岸壁に係留した水上オートバイが宙づりになることがある。
- (4) 下げ潮が最も強い時間帯には、河口付近の川の流れがゆるやかになって走りやすくなるがある。

.....答 (4)

⑧ 潮汐について述べた次の文の()の中に当てはまる語句として適切なものは、下のうちどれか。

「潮汐を起こす主な力は天体の引力によるもので、その天体は()と太陽である。」

- (1) 地球 (2) 水星 (3) 金星 (4) 月

.....答 (4)

⑨ 潮汐について述べた次の文の()の中に当てはまる適切な語句は、下のうちどれか。

「潮汐とは、月と太陽の引力作用により、海面が上下する動きをいい、満潮から次の満潮までの周期は、一般に約()である。」

- (1) 4時間 (2) 6時間 (3) 8時間 (4) 12時間

.....答 (2)

⑩潮流について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 潮流は、干満差の大きい所よりも小さい所の方が強い。
- (2) 潮流の流向は、流れて行く方向を示す。
- (3) 満潮にともなう流れを下げ潮流、干潮にともなう流れを上げ潮流という。
- (4) 下げ潮流、上げ潮流になる時間帯は、全国ほぼ同じである。

.....答 (2)

⑪^{ちようせき}潮汐について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 潮汐により、海面が最も高くなった状態を満潮という。
- (B) 沿岸では、潮汐にともなう潮流の影響によって、沖の方へ流されることがある。
- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

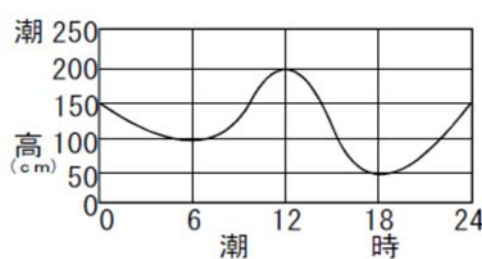
⑫^{ちようせき}潮汐について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。

- (1) 潮汐は、月と太陽の引力作用によって起こる。
- (2) 満潮や干潮は、通常、1日に1回ずつ起こる。
- (3) 満潮や干潮になる時刻は、日本全国ほぼ同じである。
- (4) 満月や新月の頃は、干満の差が最も小さい。

.....答 (1)

⑬右図は、ある港における、ある日の^{ちようせき}潮汐を示したものである。この日、潮高が最も高くなる時刻は、次のうちどれか。

- (1) 00時00分頃 (2) 06時00分頃
- (3) 12時00分頃 (4) 18時00分頃



.....答 (3)

⑭潮汐及び潮流について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 沖合での潮の干満は、水面を見ただけでは判断できない。
- (2) 春の新月又は満月の頃は、干満の差が大きい。
- (3) 潮流は大洋では弱く、海峡や水道などでは強い。
- (4) 潮流の流向が北のとき、北風が強く吹くと流速はいっそう速くなる。

.....答 (4)

⑮潮汐について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 潮汐により海面が最も高くなった状態を満潮、最も低くなった状態を干潮という。
- (B) 干潮から満潮までの間を上げ潮といい、これにともなう潮流を上げ潮流という。
- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

問 39 事故防止・事故発生時の処置

① **走行中、他船と衝突した場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。**

- (1) 直ちにエンジンを止めて、人命の安全確保に努める。
- (2) 艇体に食い込んでいる場合は、両船を引き離してから艇体の損傷や浸水の状態を確認する。
- (3) 負傷者がいたり走行ができない場合は、すみやかに救助を要請する。
- (4) 艇体の損傷が少なくても、お互いの住所、氏名、連絡先などを確認する。

.....**答 (2)**

② **走行中、他船と衝突した場合の処置として適切なものは、次のうちどれか。**

- (1) 再始動できなくなるおそれがあるので、エンジンは停止しない。
- (2) 破口から一気に浸水するおそれがあるので、すぐには両船を引き離さない。
- (3) 負傷者がいたり、走行ができない場合であっても、気安く救助を要請しない。
- (4) 救助を要請した場合であっても、その地点にいつまでもとどまらない。

.....**答 (2)**

③ **浸水による機関故障事故の防止対策として適切でないものは、次のうちどれか。**

- (1) 乗艇前にハッチの閉まり具合やシートの取付け状態を確認する。
- (2) 走行中は定期的にハッチやシートを開け、浸水がないかどうかを確認する。
- (3) 転覆状態から艇体を復原する場合には、引起しの方向を確認する。
- (4) 格納時にハッチやエンジンカバーのパッキンの状態を確認する。

.....**答 (2)**

④ **走行中、エンジンルーム内に多量の水が入ってきた場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。**

- (1) 中高速でしばらく直進走行し、自動排水機能により強制的に排出する。
- (2) 船体に穴が聞いている場合は、応急処置をしてできるだけ早く帰港する。
- (3) エンジンを停止し、ドレンプラグを開けて直ちに排水する。
- (4) 排水作業が間に合わない場合には、平らな砂地を選んで乗り揚げる。

.....**答 (3)**

⑤ **走行中に浅瀬に乗り揚げた場合、まず最初にとらなければならない処置として最も適切なものは、次のうちどれか。**

- (1) 直ちに後進して引き離す。
- (2) 降りて手で押して離礁する。
- (3) エンジンを停止する。
- (4) 救助を求める。

.....**答 (3)**

⑥ **走行中、エンジンに異常を感じた場合の処置として適切なものは、次のうちどれか。**

- (1) すみやかにスロットルを閉じ、エンジンの様子を見る。
- (2) エンジンをかけたまま、ジェットインテークを点検する。
- (3) エンジンを停止した後、ドレンプラグをゆるめてみる。
- (4) 走行できるようであれば、フルスロットルで帰港する。

.....**答 (1)**

⑦ **走行中、エンジンに異常を感じた場合の処置として適切なものは、次のうちどれか。**

- (1) 直ちにエンジンを停止する。
- (2) 安全な場所で停船し、エンジンの始動と停止を繰り返す。
- (3) 走行できるようであれば、速力を上げて帰港する。
- (4) 水上で修理できない場合は、早めに救助を要情する。

.....**答 (4)**

⑧ **水上オートバイの衝突事故の原因として適切でないものは、次のうちどれか。**

- (1) 見張り不十分
- (2) 操縦不適切
- (3) 過大な速力
- (4) 船位不確認

.....**答 (4)**

⑨走行中、浅瀬に乗り揚げた場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 直ちにエンジンを停止し、艇体の損傷状況を調べる。
- (2) 艇体の損傷が少なく、走行に問題がなければ、手で押して離させる。
- (3) 離礁後、全速力で航行し、損傷の程度やエンジンの状態を確認する。
- (4) 艇体の損傷が激しく走行ができない場合は、すみやかに救助を要請する。

.....答 (3)

⑩走行中、エンジンに異常を感じた場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) すみやかにスロットルレバーを戻して減速し、エンジンの様子を見る。
- (2) エンジンルームを開ける場合は、水が入らないように十分注意する。
- (3) エンジンを停止する場合は、状況を見極めたうえで行う。
- (4) 走行できるようであれば、全速力で直ちに帰港する。

.....答 (4)

⑪走行中、エンジンに異常を感じた場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 速力を落とし、できるだけエンジンを停止しないようにする。
- (2) エンジンをかけたまま、ジェットインテークを点検する。
- (3) 走行できるようならば、低速で帰港するか、近くの岸に着ける。
- (4) 水上で修理できない場合は、早めに救助を求める。

.....答 (2)

⑫水上オートバイによる海難事故の種類とその防止対策を示した次の組合せのうち、適切でないものはどれか。

- (1) 運航不能(機関故障) … 発行前の点検を適切に行い、浮遊物などを避けて走行する。
- (2) 乗 揚 げ … 走行する水域の水深、岩礁や浅瀬の存在などを事前に十分調査しておく。
- (3) 浸 水 … 水上に降ろす前に必ずドレンプラグを開けておく。
- (4) 衝 突 … 前方だけでなく、絶えずまわりをよく見張って走行する。

.....答 (3)

⑬走行中、エンジンに異常を感じた場合の処置として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) エンジンをかけたまま、ジェットインテークを点検する。
- (2) しばらくは速力を上げて走行し、エンジンの様子を見る。
- (3) エンジンを停止する場合は、状況を見極めたうえで行う。
- (4) エンジンを停止した後、ドレンプラグをゆるめてみる。

.....答 (3)

⑭走行中、浅瀬に乗り揚げた場合、最初にとらなければならない処置として最も適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 艇体の損傷状況を調べる。
- (2) 船位を確認する。
- (3) エンジンを停止する。
- (4) 救助を求める。

.....答 (3)

⑮走行中、他船と衝突した場合の処置として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 再始動できなくなるおそれがあるので、エンジンは停止しない。
- (2) 破口から一気に浸水するおそれがあるので、すぐには両船を引き離さない。
- (3) 負傷者がいたり走行ができない場合であっても、気安く救助を要請しない。
- (4) 救助を要請した場合であっても、その地点にいつまでもとどまらない。

.....答 (2)

⑩事故発生時における処置について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 他船と衝突したら、直ちにエンジンを止めて、人命に異状がないか、艇体の損傷や浸水がないかを調べる。

(B) 浅瀬に乗り揚げたら、すぐにエンジンを停止するのではなく、スロットルレバーを操作して、エンジンの様子を見る。

(1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

..... 答 (1)

問 40 人命救助・救命設備の取り扱い

①小型船舶用信号紅炎について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 救助を求めるために使用する。 (2) 点火すると紅色の炎を発する。
- (3) 連続して1分以上炎を発する。 (4) 点火後はすぐに水面に投下する。

..... 答 (4)

②水上オートバイを使った人命救助の方法について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 低速で救助すると艇が不安定になるので、高速で一気に救助する。
- (2) 緊急事態なので、まわりの安全確認よりも救助することを優先する。
- (3) 艇体の安定を保つため、要救助者は船尾側から引き上げる。
- (4) 要救助者を引き上げたあとは、すみやかに信号紅炎等の遭難信号を発信する。

..... 答 (3)

③救命設備の取扱いについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ライフジャケットを、できるだけ身体に密着させるようにベルトやひもをしっかり締める。
- (2) ライフジャケットは、できるだけ水上オートバイ専用のものを着用する。
- (3) 信号紅炎を積み込んでいても、代わりの備品である携帯電話も持っていくようにする。
- (4) 信号紅炎の燃焼時間は1時間以上あるので、遭難と同時に点火する。

..... 答 (4)

④水上オートバイを使った人命救助の方法について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 低速で救助すると艇が不安定になるので、高速で一気に救助する。
- (2) 緊急事態なので、まわりの安全確認よりも救助を優先する。
- (3) 艇体の安定性を考えて、艇の横方向から要救助者を引き上げる。
- (4) 水上では適切な処置が十分にできないので、救助した後はできるだけ早く陸上に向かう。

..... 答 (4)

⑤人命救助について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 要救助者の収容時、艇体が傾き転覆する危険があるので、バランスを取りながら救助する。
- (B) 携帯電話等でマリーナや医療機関に連絡を取り、陸上で医師や救急車に待機してもらう。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

..... 答 (3)

⑥水上オートバイで人命救助を行う方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 要救助者を発見した場合は、風や流れ等の外力の影響を考えて近づく。
- (2) 接近したとき、要救助者に意識がある場合は手を上げさせ、その手をつかんで引き上げる。
- (3) 緊急事態なので、まわりの安全確認よりも救助を優先する。
- (4) 水上では適切な処置が十分にできないので、救助した後はできるだけ早く陸上に向かう。

..... 答 (3)

⑦おぼ溺れている人を救助する際の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 要救助者にある程度近づいたら、針路を保つことができる最低限の速力にする。
- (2) 救助する際、緊急エンジン停止コードが要救助者にかからないように注意する。
- (3) 要救助者を引き上げるときは、水上オートバイのバランスに気を付ける。
- (4) 救助作業中はまわりの見張りを行わず、要救助者だけに注意を向ける。

..... 答 (4)

⑧ライフジャケットを着用するときの注意として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水上オートバイ専用のものを使用する。
- (2) ベルトやひもは、ゆるめに締める。
- (3) 身体に合った大きさのものを選ぶ。
- (4) 衣服やウエットスーツの上から着用する。

.....答 (2)

⑨水上オートバイを使った人命救助の方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 風向や流向を考えて、操縦しやすい方向から救助に向かう。
- (2) 要救助者に与える引き波の影響は考えず、素早い救助を心掛ける。
- (3) 艇体が傾き転覆する危険があるので、バランスを取りながら救助する。
- (4) 状況によってはエンジンを停止したうえで、要救助者を引き上げる。

.....答 (2)

⑩走行中、溺れている人を発見して救助する場合の注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 風向や川の流れなど、外力の影響を考えて近づく。
- (2) 要救助者の安全に気を配りながら、できるだけ素早く近づく。
- (3) 要救助者の衣類などを、ジェットインテークに吸い込まないように注意する。
- (4) 救助後は、むやみに移動せずその場で待機する。

.....答 (4)

⑪ライフジャケットの着用方法について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 泳ぐときの邪魔になるので、落水時の衝撃で自然に脱げるようにしておく。
- (2) 身体にできるだけ密着させるように、ベルトやひもをしっかり締める。
- (3) 体格に合った大きさのものを選び、子供には子供用のものを着用させる。
- (4) 衣服やウエットスーツの上から着用する。

.....答 (1)

⑫要救助者を水上オートバイで救助する際、艇体の安定を考慮した場合どこから収容するのがよいか。次のうちから適切なものを選び。

- (1) 船首側
- (2) スロットルレバーのある側
- (3) 船尾側
- (4) 緊急エンジン停止コードのある側

.....答 (3)

⑬人命救助の際、船首方向から風波を受けながら要救助者に接近する場合の利点として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) エンジンを止めたまま接近できる。
- (2) ライフジャケットを投げやすい。
- (3) 針路を保ちやすい。
- (4) 要救助者を確認しやすい。

.....答 (3)

⑭小型船舶用信号紅炎について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 使用するときは、遠くからでも確認できるようにできるだけ高い位置で振りかざす。
- (2) 携帯電話を備えていて法的な積込みの義務がない場合でも、できるだけ持っていく。
- (3) 非常時に十分な役割を果たすように保管方法に注意し、常に有効期間内のものを積み込む。
- (4) 燃焼時間が数十分あるので、早く発見されるように遭難と同時に点火する。

.....答 (4)

⑮小型船舶用信号紅炎について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 点火すると紅色の炎を発する。
- (2) 連続して1時間以上炎を発する。
- (3) 点火後、できるだけ高い位置で振りかざす。
- (4) 有効期限内のものを積み込む。

.....答 (2)